

横芝光町男女共同参画に関する アンケート調査報告書

令和5年8月

横芝光町

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的.....	3
2. 調査設計.....	3
3. 回収結果.....	3
4. 調査内容.....	3
5. 報告書を読む際の留意点.....	4
6. 前回調査との比較.....	4

II 町民意識調査

1. 回答者の属性.....	7
(1) 居住地区.....	7
(2) 性別.....	7
(3) 年齢.....	8
(4) 家族構成.....	8
(5) 職業.....	9
2. 男女の平等感について.....	10
(1) 各分野における男女の地位の平等.....	10
(2) 男女共同参画に関する用語等の認知度.....	13
3. 家庭生活について.....	15
(1) 家庭・育児・介護等の役割分担.....	15
4. 地域活動について.....	17
(1) 地域でのコミュニティ活動への参加状況.....	17
(2) 男性が家事、子育て等へ積極的に参加するために必要なこと.....	19
5. 職場について.....	21
(1) 職場の男女平等感.....	21
(2) 有給休暇や育児休業等の取りやすさ.....	23
(3) 育児休業の取得意向.....	24
(4) セクシュアル・ハラスメント等の防止の意識について.....	25
6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について.....	26
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について.....	26
(2) 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な環境整備.....	28
7. ドメスティック・バイオレンス（DV）について.....	30
(1) 配偶者やパートナー間で行われた場合に暴力だと感じる行為.....	30
(2) DVを受けた経験.....	31
(3) DVの相談状況.....	32
(4) DVの相談先.....	33
(5) DVの相談ができなかった理由.....	34

8. 女性の活躍推進について.....	35
(1) ポジティブ・アクションを行うことについて.....	35
(2) 女性が政策・方針決定の場に進出するために必要なこと.....	36
9. 少子・高齢化について.....	38
(1) 横芝光町において、出生率が低下した原因.....	38
(2) 自分の老後について不安に思うこと.....	40
10. 男女共同参画社会実現のために必要なことについて.....	42
(1) 固定的な性別役割分担意識により精神的な負担を感じた経験.....	42
(2) 町の取組への満足度.....	44
(3) 男女共同参画社会等の実現は身近な問題と思うか.....	47
(4) 男女共同参画社会の実現のために行政が取り組むべきこと.....	48
11. 自由記述.....	50

Ⅲ 町内企業実態調査

1. 現在の事業所の状況について.....	55
(1) 業種.....	55
(2) 従業員数.....	55
2. 女性の活躍推進・管理職登用について.....	58
(1) 女性管理職の登用についての考え方.....	58
(2) 女性の活躍推進のための取組.....	58
(3) 女性活躍推進による効果.....	59
3. 育児休業とワーク・ライフ・バランスについて.....	60
(1) 育児休業制度の導入.....	60
(2) 育児休業の取得率.....	60
(3) 出産・育児を理由とした女性従業員の退職.....	61
(4) 男性従業員の育児休業取得についての考え方.....	61
(5) 実施する仕事と家庭の両立支援制度.....	62
(6) 女性の活躍推進等にあたり町に期待する取組.....	63
4. 外国人材について.....	64
(1) 外国人の雇用についての考え方.....	64
(2) 外国人従業員や支援制度について.....	64
(3) 外国人を雇用する上での課題.....	66
(4) 外国人材の受入れに向けて町に期待する取組.....	66
(5) 外国人を雇用しない理由.....	67

Ⅳ 職員意識調査

1. 回答者の属性.....	71
(1) 性別.....	71
(2) 年齢.....	71
(3) 職階.....	72

(4) 婚姻状況.....	72
(5) 共働きの状況.....	72
2. 男女の平等感について.....	73
(1) 各分野における男女の地位の平等.....	73
(2) 男女共同参画に関する用語等の認知度.....	74
(3) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について.....	75
3. 役場における男女共同参画について.....	76
(1) 役場での男女の平等感.....	76
(2) 育児休業・介護休暇制度の利用.....	77
(3) 男性の育児休業の取得について.....	78
(4) ハラスメント等防止の意識.....	79
(5) ポジティブ・アクションについて.....	79
(6) 男女共同参画を意識した町民対応・業務遂行.....	80
(7) 男女共同参画社会等の実現は身近な問題と思うか.....	80
4. 自由記述.....	81

V 調査票

1. 町民意識調査 調査票.....	85
2. 町内企業実態調査 調査票.....	97
3. 職員意識調査 入力フォーム.....	105

I 調査の概要

1. 調査の目的

第3次横芝光町男女共同参画計画の策定にあたり、町民、町内事業所及び職員の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の男女共同参画に関する取組の重要な基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査設計

項目	①町民意識調査	②町内企業実態調査	③職員意識調査
①調査地域	横芝光町全域		横芝光町役場
②調査対象	横芝光町在住の16歳以上の男女2,000名	横芝光町内事業所	全職員（病院職員及び会計年度任用職員を除く）
③抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	町内事業所より176社を無作為抽出（従業員数5名以上）	
④調査方法	郵送配付・郵送回収	郵送配付・郵送回収	インターネットによる配布・回収
⑤調査期間	令和4年11月	令和4年7月	令和4年12月

3. 回収結果

項目	①町民意識調査	②町内企業実態調査	③職員意識調査
①発送数	2,000	176	217
②有効回収数	723	60	135
③有効回収率	36.2%	34.1%	62.2%

4. 調査内容

①町民意識調査	②町内企業実態調査	③職員意識調査
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 男女の平等感について ▶ 家庭生活について ▶ 地域活動について ▶ 職場について ▶ 仕事と生活の調和について ▶ DVについて ▶ 女性の活躍推進について ▶ 少子高齢化について ▶ 男女共同参画社会実現のために必要なことについて 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業所について ▶ 女性の活躍推進・管理職登用について ▶ 育児休業とワーク・ライフ・バランスについて ▶ 外国人材について 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 男女の平等感について ▶ 職場について ▶ 男女共同参画社会実現のために必要なことについて

5. 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超えます。
- 表・グラフ中の「n=」とは、回答者数を表します。
- 選択肢の語句が長い場合、本文中や表・グラフでは省略した表現を用いることがあります。

6. 前回調査との比較

Ⅱ 町民意識調査については、横芝光町で平成26年に実施した前回調査との比較を掲載しています。前回調査の概要については、次のとおりです。

調査名	実施時期	対象者と調査方法	有効回収数 (有効回収率)
男女共同参画についての意識調査	平成26年 10月	横芝光町在住の16歳以上の男女2,000人 郵送による配布・回収	883 (44.2%)

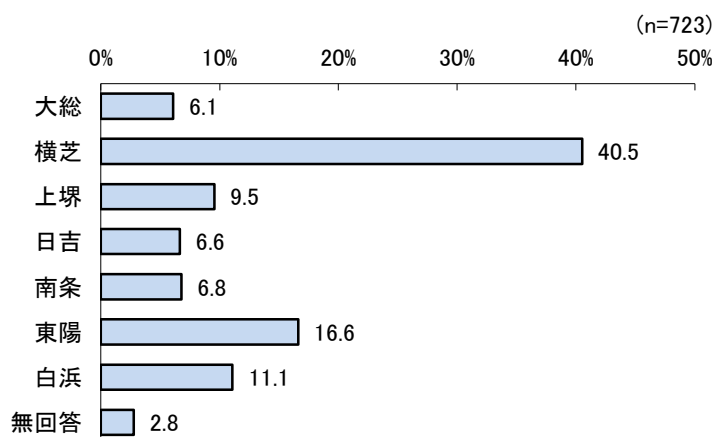
Ⅱ 町民意識調査

1. 回答者の属性

◆ あなたご自身のことについてお聞きします。

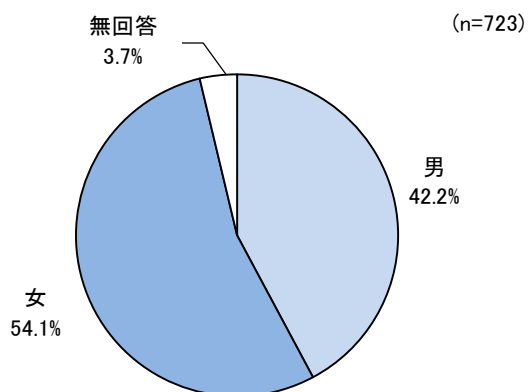
(1) 居住地区

「横芝」が40.5%で最も多く、以下「東陽」が16.6%、「白浜」が11.1%、「上堺」が9.5%、「南条」が6.8%、「日吉」が6.6%、「大総」が6.1%となっています。



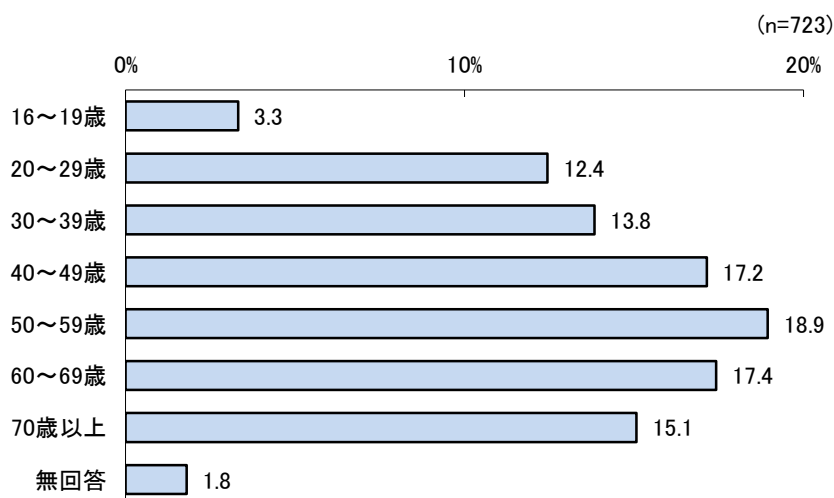
(2) 性別

「女」が54.1%、「男」が42.2%となっています。



(3) 年齢

「50～59歳」が18.9%で最も多く、以下「60～69歳」が17.4%、「40～49歳」が17.2%、「70歳以上」が15.1%、「30～39歳」が13.8%、「20～29歳」が12.4%、「16～19歳」が3.3%となっています。

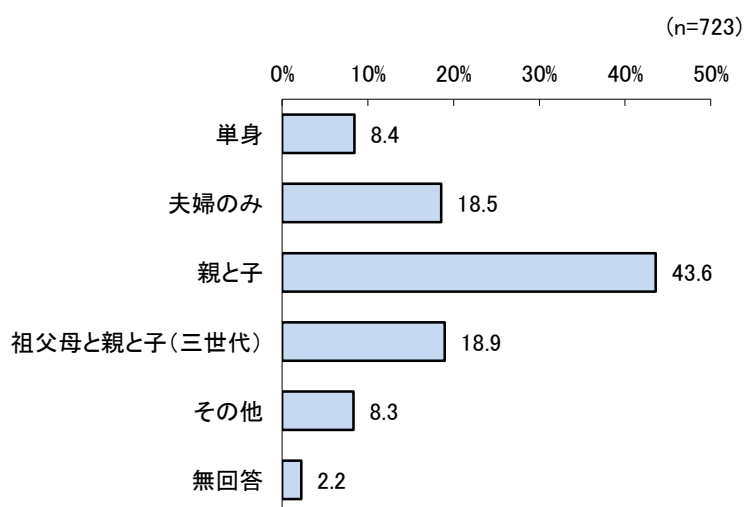


※年代別集計は以下のように表記します。

16～29歳	： 10・20歳代	50～59歳	： 50歳代
30～39歳	： 30歳代	60～69歳	： 60歳代
40～49歳	： 40歳代	70歳以上	： 70歳以上

(4) 家族構成

家族構成は、「親と子」が43.6%で最も多く、以下「祖父母と親と子(三世代)」が18.9%、「夫婦のみ」が18.5%、「単身」が8.4%となっています。

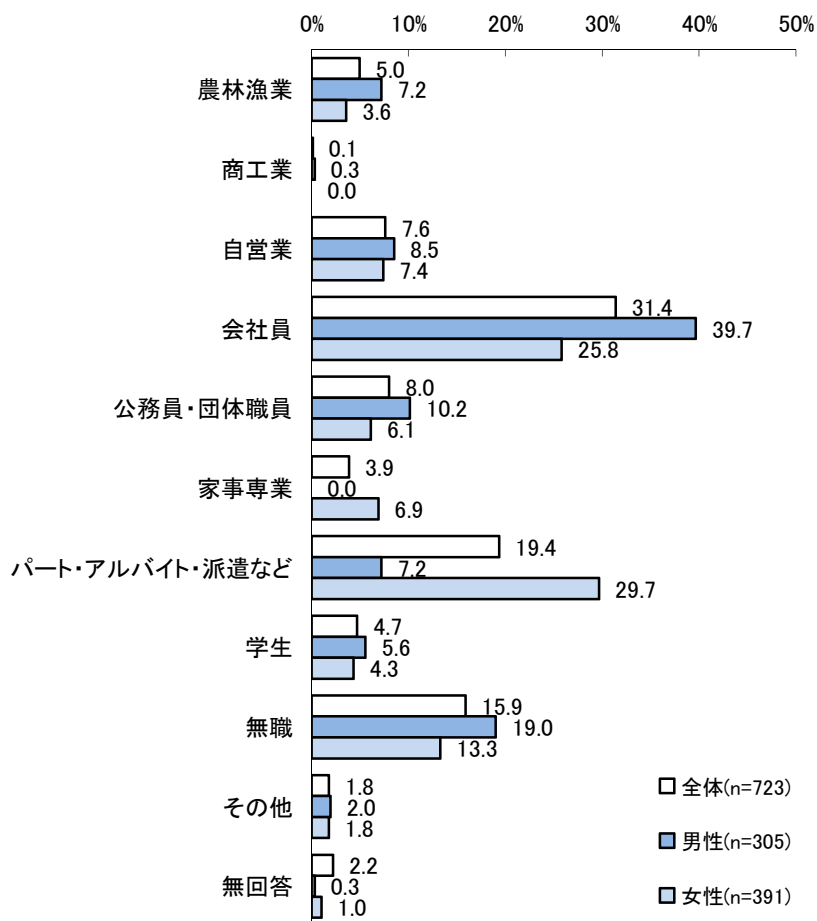


(5) 職業

「会社員」が31.4%で最も多く、以下「パート・アルバイト・派遣など」が19.4%、「無職」が15.9%、「公務員・団体職員」が8.0%、「自営業」が7.6%、「農林漁業」が5.0%となっています。

【性別】

性別に見ると、男性は「会社員」、女性で「パート・アルバイト・派遣など」との回答が多くなっています。



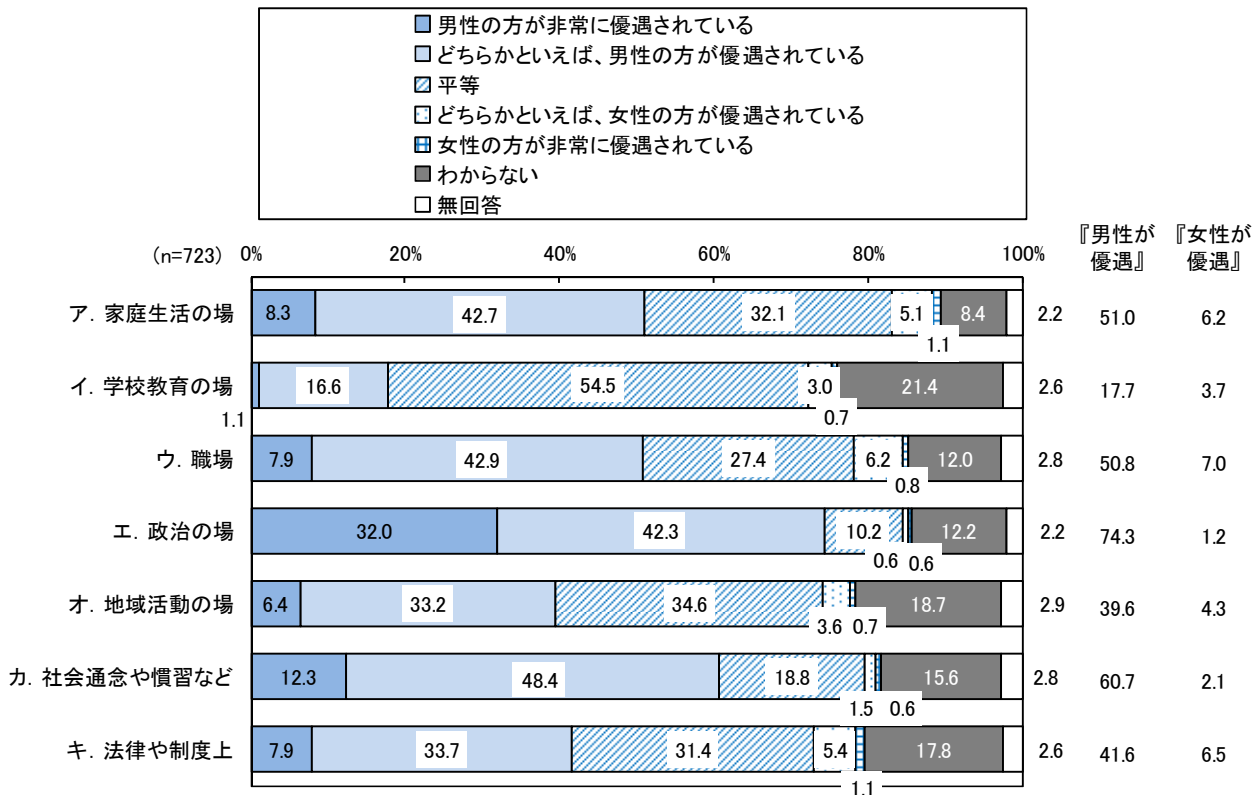
2. 男女の平等感について

(1) 各分野における男女の地位の平等

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア～キのそれぞれについて「1～6」の中から○は1つ)

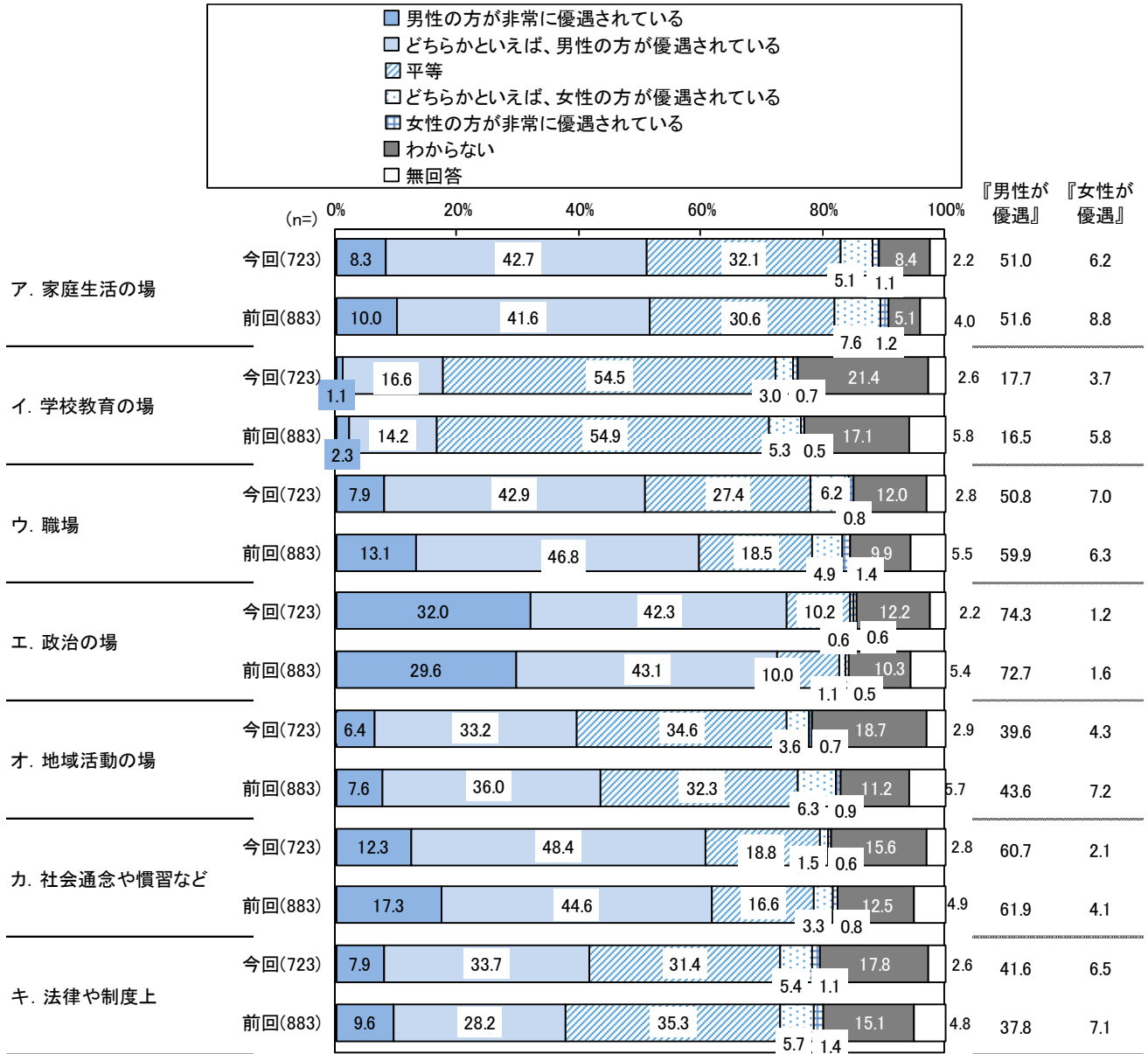
各分野における男女の地位の平等については、「平等」との回答は、＜学校教育の場＞で54.5%と最も多く、次いで＜地域活動の場＞が34.6%、＜家庭生活の場＞が32.1%、＜法律や制度上＞が31.4%、＜職場＞が27.4%となっています。

一方で、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」を合計した『男性が優遇』は、＜政治の場＞で7割、＜社会通念や慣習など＞で6割を超え、＜家庭生活の場＞や＜職場＞でも5割を超えています。



〈前回調査との比較〉

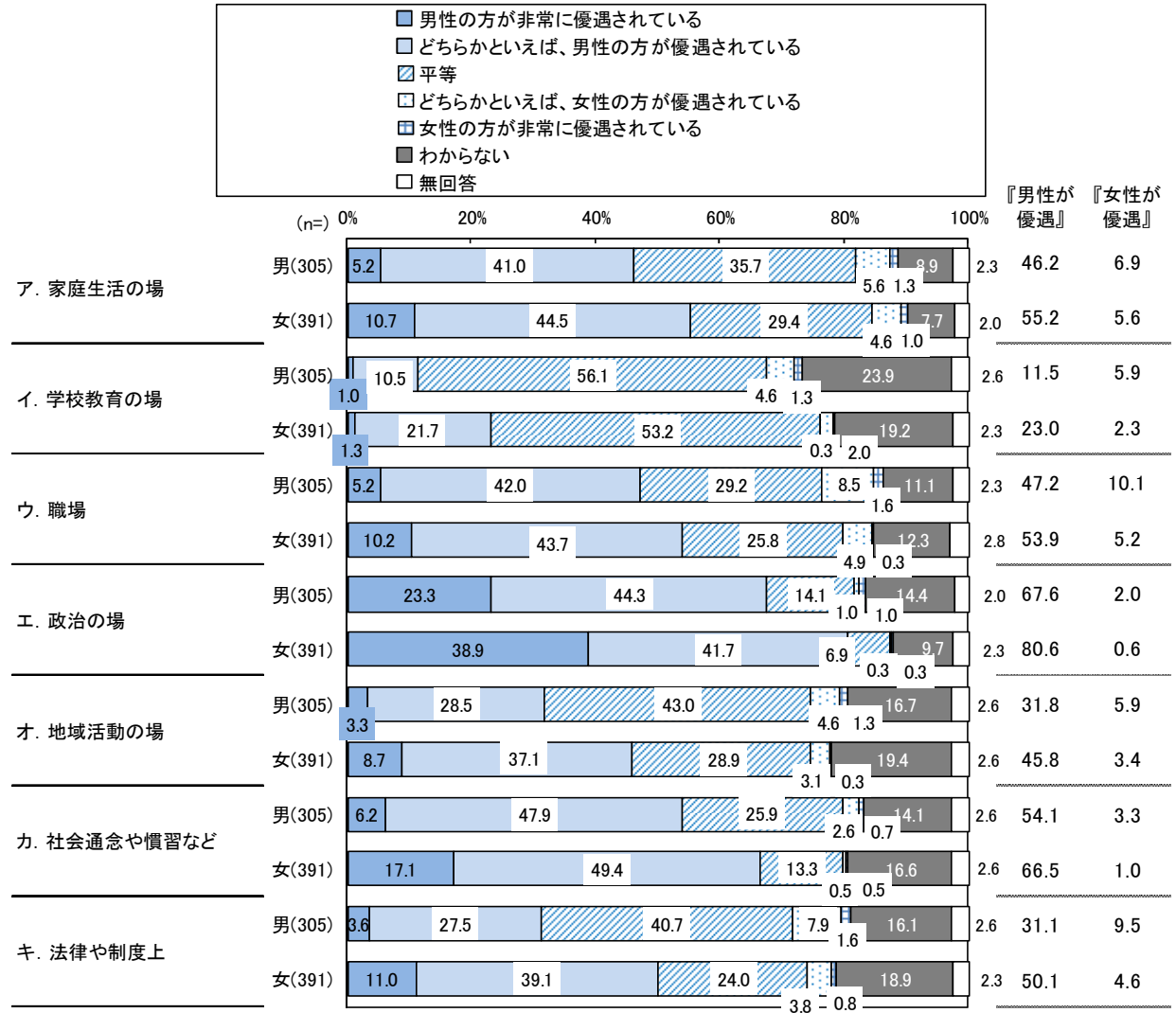
前回調査と比較すると、『男性が優遇』は〈職場〉で大きく減少しています（9.1ポイント減）。〈地域活動の場〉でもやや減少していますが、その他の項目では大きな変化は見られません。



【性別】

『男性が優遇』との回答は、いずれの項目も女性が男性を上回ります。最も差が大きいのは<法律や制度上>であり、女性が男性を 19 ポイント上回っています。

そのほか、<地域活動の場><政治の場><社会通念や慣習など><学校教育の場>においても 10 ポイント以上の差が見られます。



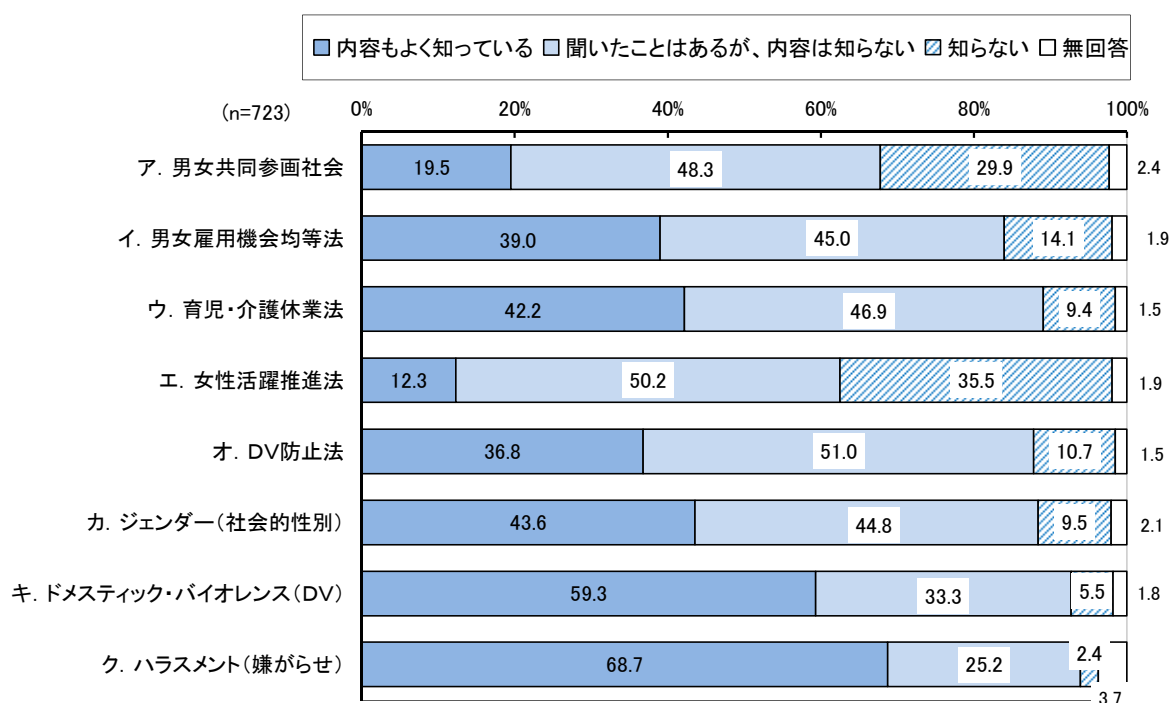
(2) 男女共同参画に関する用語等の認知度

問2 あなたは、次の言葉について、どの程度ご存知ですか。ア～クのそれぞれについて「1～3」の中から〇は1つ)

男女共同参画に関する用語等の認知度について、「内容もよく知っている」は、＜ハラスメント＞の68.7%が最も多く、次いで＜ドメスティック・バイオレンス(DV)＞59.3%、＜ジェンダー(社会的性別)＞43.6%、＜育児・介護休業法＞42.2%、＜男女雇用機会均等法＞39.0%などとなっています。

「聞いたことはあるが、内容は知らない」は、＜DV防止法＞51.0%、＜女性活躍推進法＞50.2%などで5割を超えています。

また、「知らない」は、＜女性活躍推進法＞や＜男女共同参画社会＞で多くなっています。



【用語解説】

※ジェンダー（社会的性別）

「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間は生まれつきの生物的性別（セックス/SEX）がある。一方、社会通念や習慣の中には、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的文化的に形成された性別」（ジェンダー）という。

※ドメスティック・バイオレンス（DV）

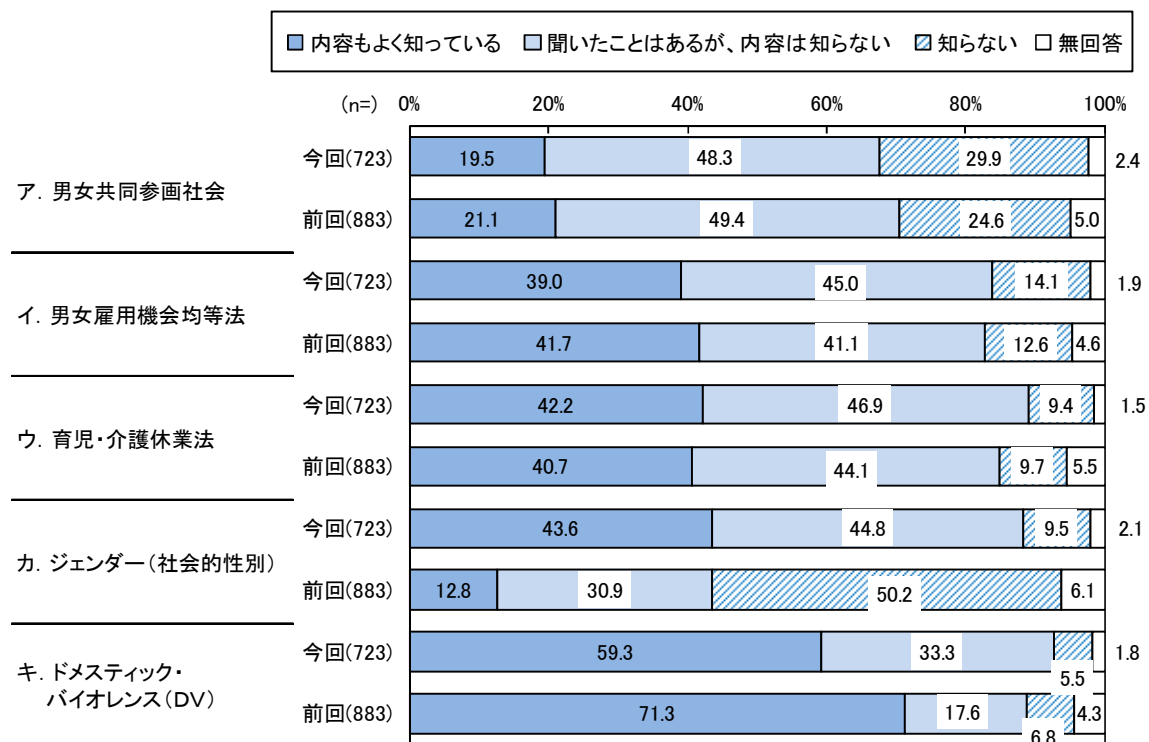
配偶者・パートナー関係にある、又はあった者から振るわれる暴力をいい、身体的暴力に限らず、精神的、経済的、性的等あらゆる形の暴力が含まれる。

※ハラスメント（嫌がらせ）

相手の嫌がることをして不快感を覚えさせる行為全般を意味する。さまざまな種類があるが、職場においては、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）やパワー・ハラスメント（パワハラ）などが問題となることが多い。

〈前回調査との比較〉

前回調査と比較すると、「内容もよく知っている」は、〈ジェンダー(社会的性別)〉で大きく増加しています(30.8ポイント増)。一方で、〈ドメスティック・バイオレンス(DV)〉では減少が見られます(12ポイント減)。



※〈エ. 女性活躍推進法〉〈オ. DV防止法〉〈ク. ハラスメント(嫌がらせ)〉については、前回調査項目にないため、比較を行っていません。

3. 家庭生活について

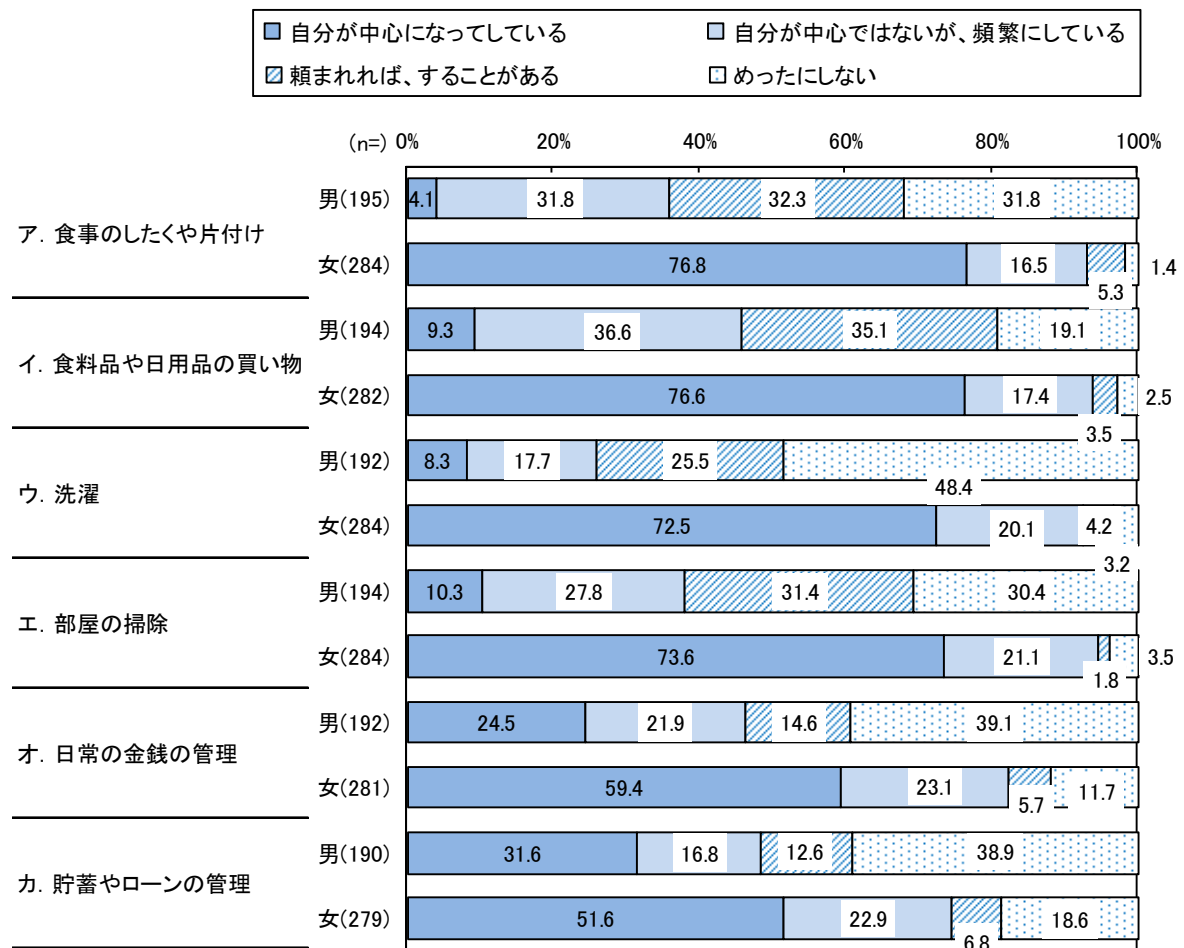
(1) 家庭・育児・介護等の役割分担

〔現在、結婚（事実婚を含む）している方にお聞きします。〕

問3 あなたは日頃、次のア～シの各項目をどの程度行っていますか。（ア～シのそれぞれについて「1～4または5」の中から○は1つ）

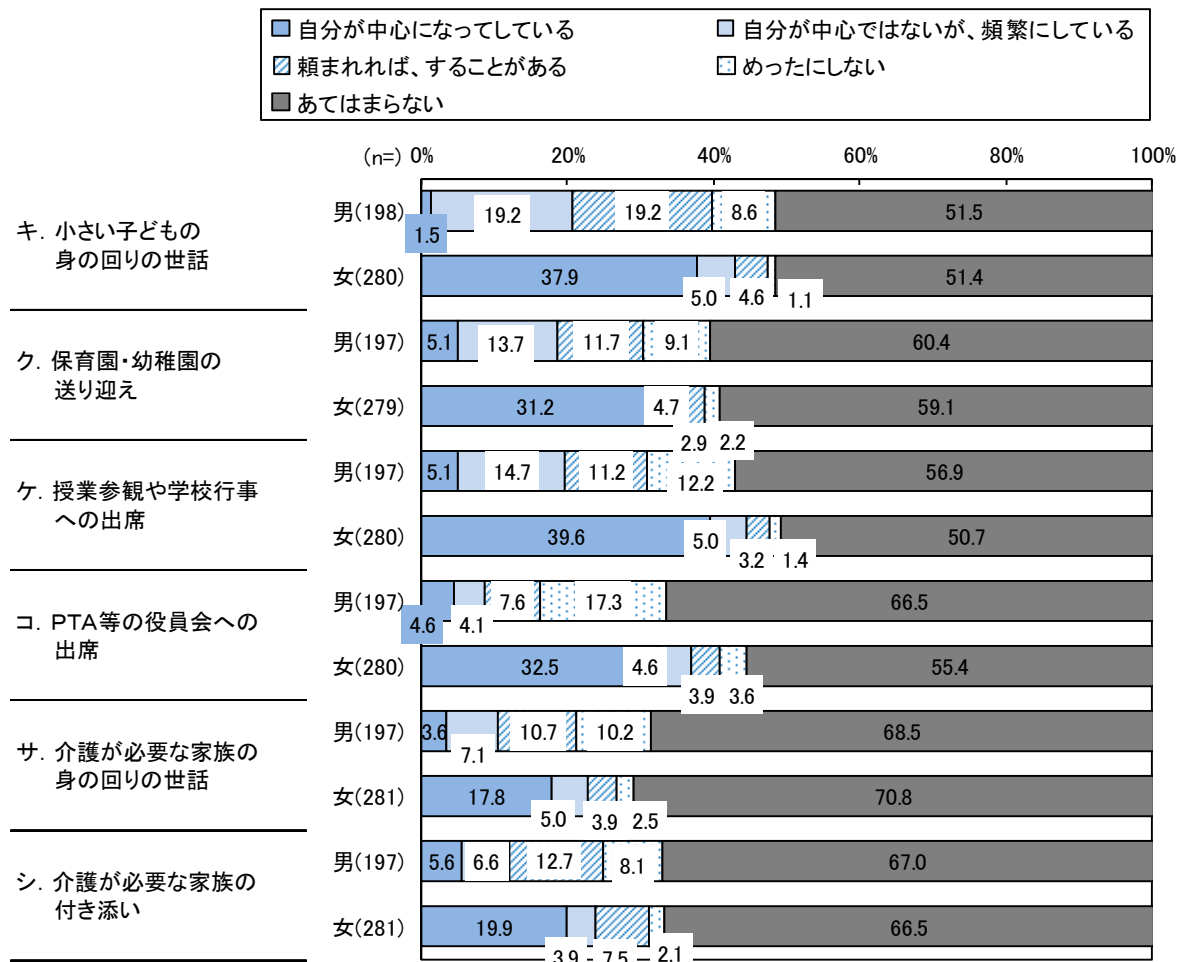
① 家庭

家庭では、＜食事のしたくや片付け＞から＜貯蓄やローンの管理＞の6項目すべてにおいて、「自分が中心になってしている」との回答は、女性が男性を大きく上回ります。特に＜食事のしたくや片付け＞から＜部屋の掃除＞等の家事でその傾向が強く、＜日常の金銭の管理＞や＜貯蓄やローンの管理＞では、その差がやや小さくなっています。



② 育児・介護

育児・介護では、「あてはまらない」との回答が多いものの、「自分が中心になってしている」との回答は、全ての項目で女性が男性を上回ります。



※無回答を除き集計

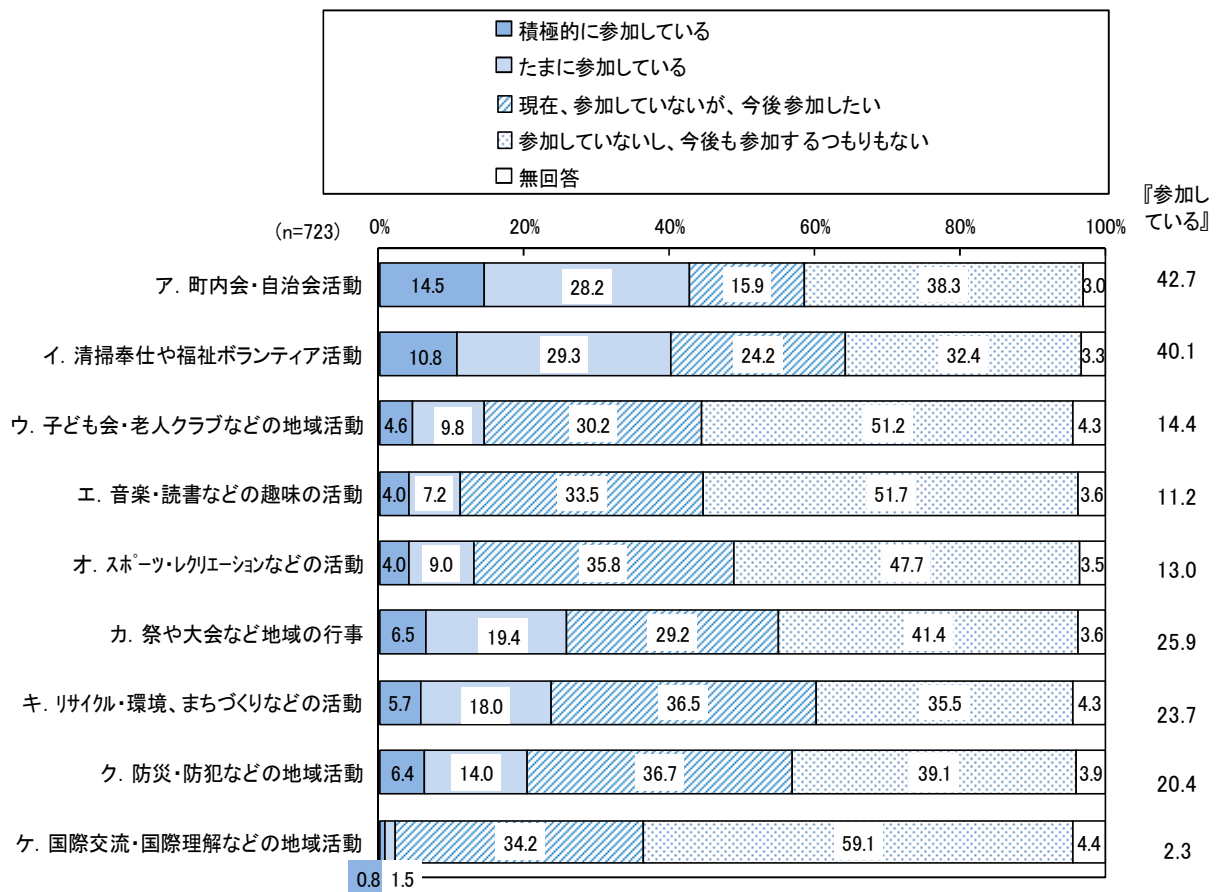
4. 地域活動について

(1) 地域でのコミュニティ活動への参加状況

問4 あなたは日頃、町内会やボランティアなどに参加し、地域でのコミュニティ活動を行っていますか。(ア～コのそれぞれについて「1～4」の中から〇は1つ)

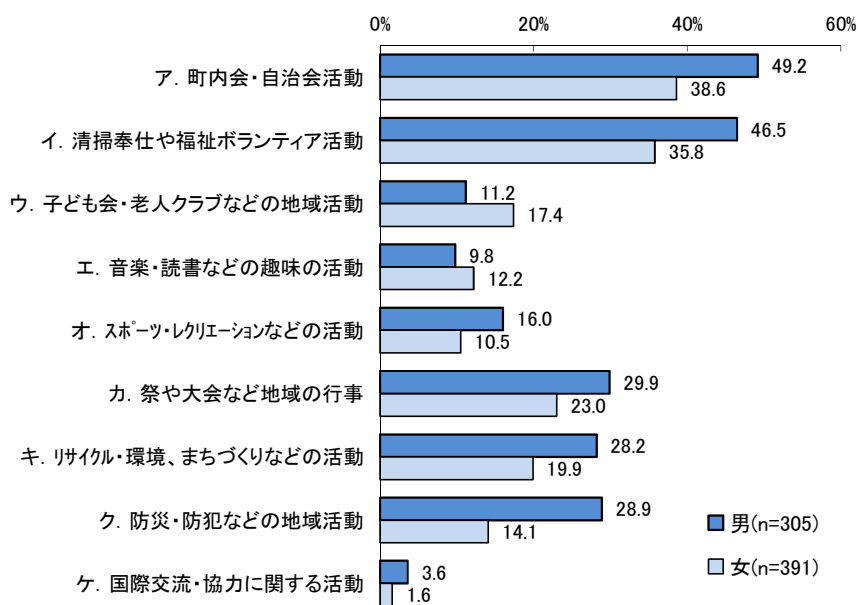
「積極的に参加している」と「たまに参加している」を合計した『参加している』は、＜町内会・自治会活動＞が42.7%、＜清掃奉仕や福祉ボランティア活動＞が40.1%と4割を超えています。「現在、参加していないが、今後参加したい」は、＜防災・防犯などの地域活動＞や＜リサイクル・環境、まちづくりなどの活動＞をはじめ多くの項目で3割を超えています。

「参加していないし、今後も参加するつもりもない」については、＜国際交流・国際理解などの地域活動＞や＜子ども会・老人クラブなどの地域活動＞、＜音楽・読書などの趣味の活動＞で5割台となっています。



【性別】

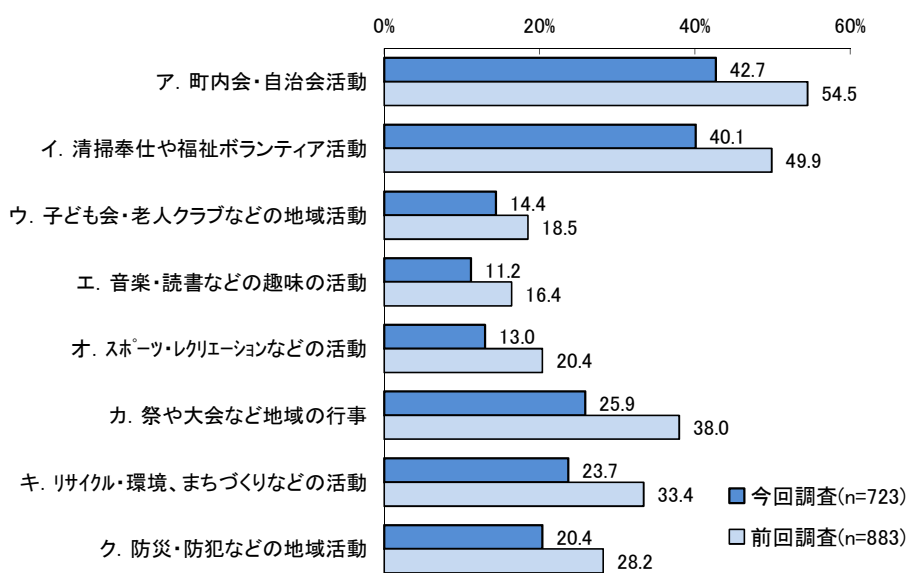
性別で比較すると、『参加している』割合は、〈子ども会・老人クラブなどの地域活動〉〈音楽・読書などの趣味の活動〉を除き、いずれの活動への参加も男性が女性を上回ります。



※『参加している(「積極的に参加している」と「たまに参加している」の合計)』割合

〈前回調査との比較〉

いずれの活動も、前回調査の結果を下回っています。特に〈祭や大会など地域の行事〉や〈町内会・自治会活動〉で10ポイント以上の減少がみられます。



※『参加している(「積極的に参加している」と「たまに参加している」の合計)』割合

前回調査ではくケ. 国際交流・協力に関する活動〉の項目がないため、比較は行っていない。

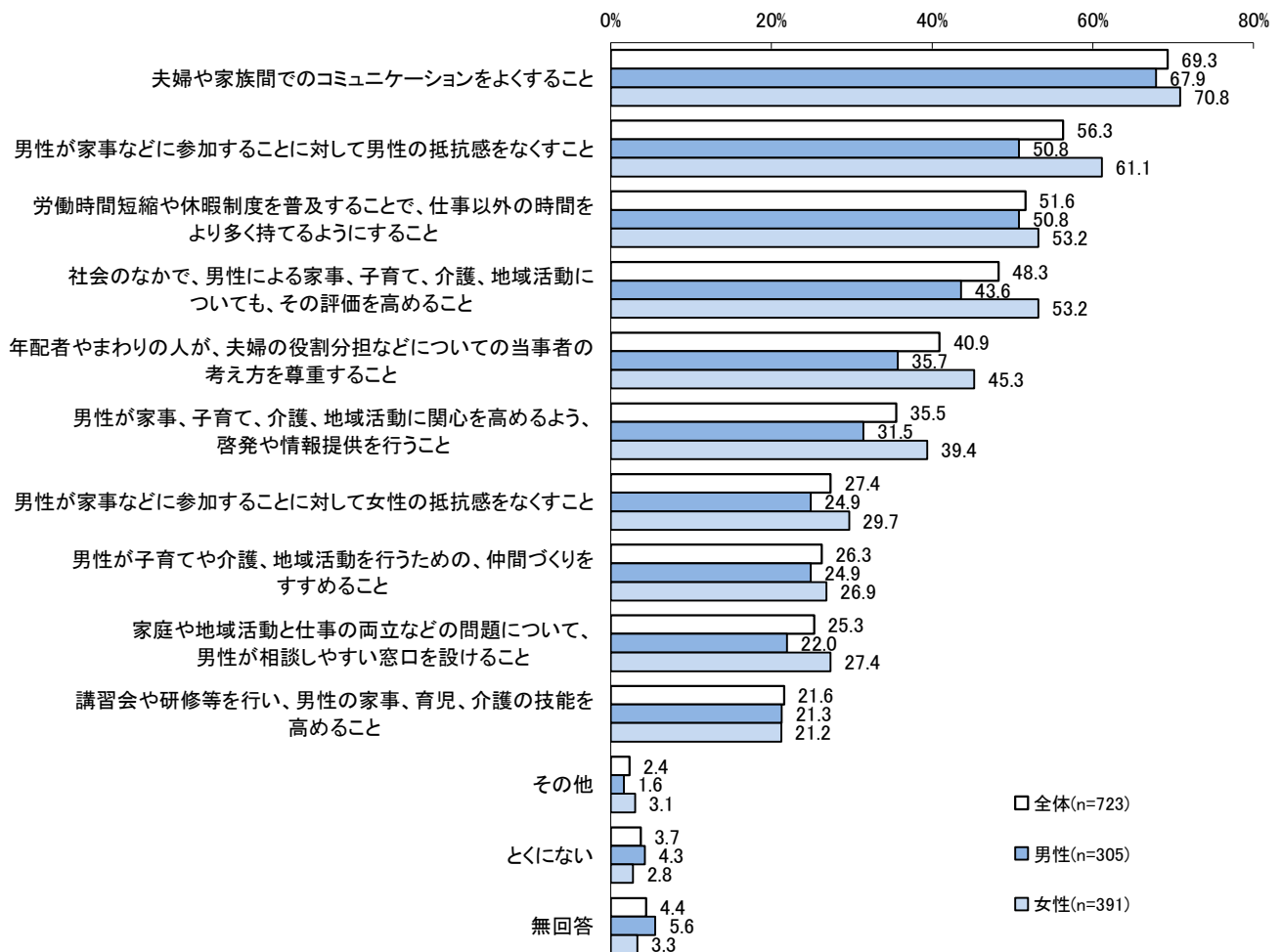
(2) 男性が家事、子育て等へ積極的に参加するために必要なこと

問5 今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男性が家事、子育て等へ参加するために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が69.3%で最も多く、以下「男性が家事などに参加することに対して男性の抵抗感をなくすこと」が56.3%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が51.6%、「社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」が48.3%、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が40.9%となっています。

【性別】

性別で比較すると、多くの項目で女性の回答が男性を上回ります。特に「男性が家事などに参加することに対して男性の抵抗感をなくすこと」や「社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」(各 10.3/9.6/9.6 ポイント差)でその差が大きくなっています。



【性・年代別】

女性の10・20歳代と30歳代で「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が6割を超え多くなっています。

そのほか、女性の30歳代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」や「社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと」との回答が他の性・年代を大きく上回ります。

		(%)															
		合計 (人)	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること	男性が家事などの抵抗感をなくすこと	労働時間短縮や休暇制度を普及すること	社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	分担者やまわりの人が、夫婦の考え方を尊重すること	年配者や子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと	男性が家事などの抵抗感をなくすこと	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間づくりをすすめること	問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高めること	その他	とくにない	無回答
全体		723	69.3	56.3	51.6	48.3	40.9	35.5	27.4	26.3	25.3	21.6	2.4	3.7	4.4		
性別																	
男性		305	67.9	50.8	50.8	43.6	35.7	31.5	24.9	24.9	22.0	21.3	1.6	4.3	5.6		
女性		391	70.8	61.1	53.2	53.2	45.3	39.4	29.7	26.9	27.4	21.2	3.1	2.8	3.3		
性・年代別																	
男性	10・20歳代	54	66.7	51.9	55.6	38.9	33.3	33.3	29.6	18.5	18.5	16.7	5.6	5.6	1.9		
	30歳代	37	73.0	48.6	56.8	51.4	40.5	29.7	27.0	27.0	21.6	16.2	2.7	5.4	2.7		
	40歳代	47	70.2	40.4	55.3	36.2	34.0	25.5	19.1	27.7	19.1	21.3	0.0	4.3	2.1		
	50歳代	53	66.0	54.7	50.9	37.7	47.2	30.2	32.1	28.3	20.8	24.5	1.9	7.5	5.7		
	60歳代	55	65.5	60.0	54.5	54.5	34.5	34.5	25.5	21.8	23.6	27.3	0.0	1.8	5.5		
	70歳以上	58	69.0	48.3	36.2	44.8	27.6	34.5	17.2	27.6	27.6	20.7	0.0	1.7	12.1		
女性	10・20歳代	56	71.4	66.1	66.1	51.8	46.4	32.1	37.5	28.6	37.5	21.4	5.4	1.8	1.8		
	30歳代	60	80.0	61.7	61.7	66.7	45.0	51.7	26.7	26.7	26.7	13.3	6.7	5.0	0.0		
	40歳代	76	65.8	53.9	46.1	39.5	44.7	34.2	28.9	27.6	18.4	15.8	2.6	2.6	3.9		
	50歳代	79	65.8	62.0	53.2	54.4	50.6	43.0	32.9	24.1	25.3	24.1	1.3	2.5	5.1		
	60歳代	71	76.1	64.8	56.3	62.0	46.5	39.4	25.4	35.2	33.8	23.9	1.4	1.4	0.0		
	70歳以上	46	69.6	58.7	32.6	43.5	34.8	34.8	26.1	17.4	26.1	32.6	2.2	2.2	10.9		

5. 職場について

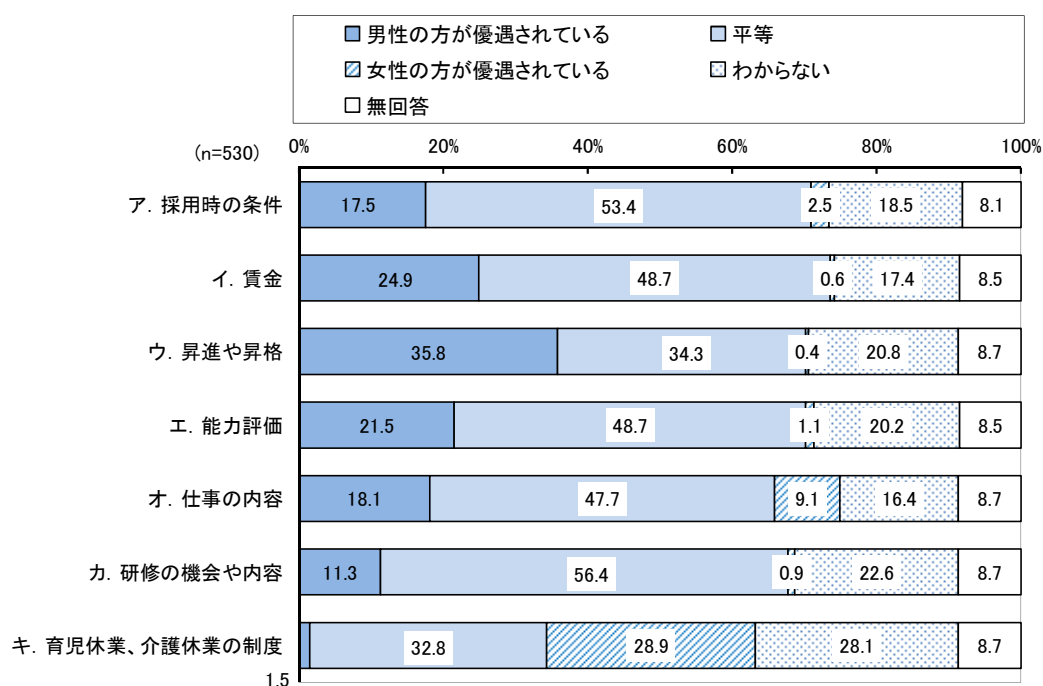
(1) 職場の男女平等感

〔現在、働いている方にお聞きします〕

問6 ①あなたの職場では、次のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。
(ア～キのそれぞれについて「1～4」の中から〇は1つ)

職場の男女平等感について、「平等」が5割を超えるのは＜採用時の条件＞と＜研修の機会や内容＞となっています。

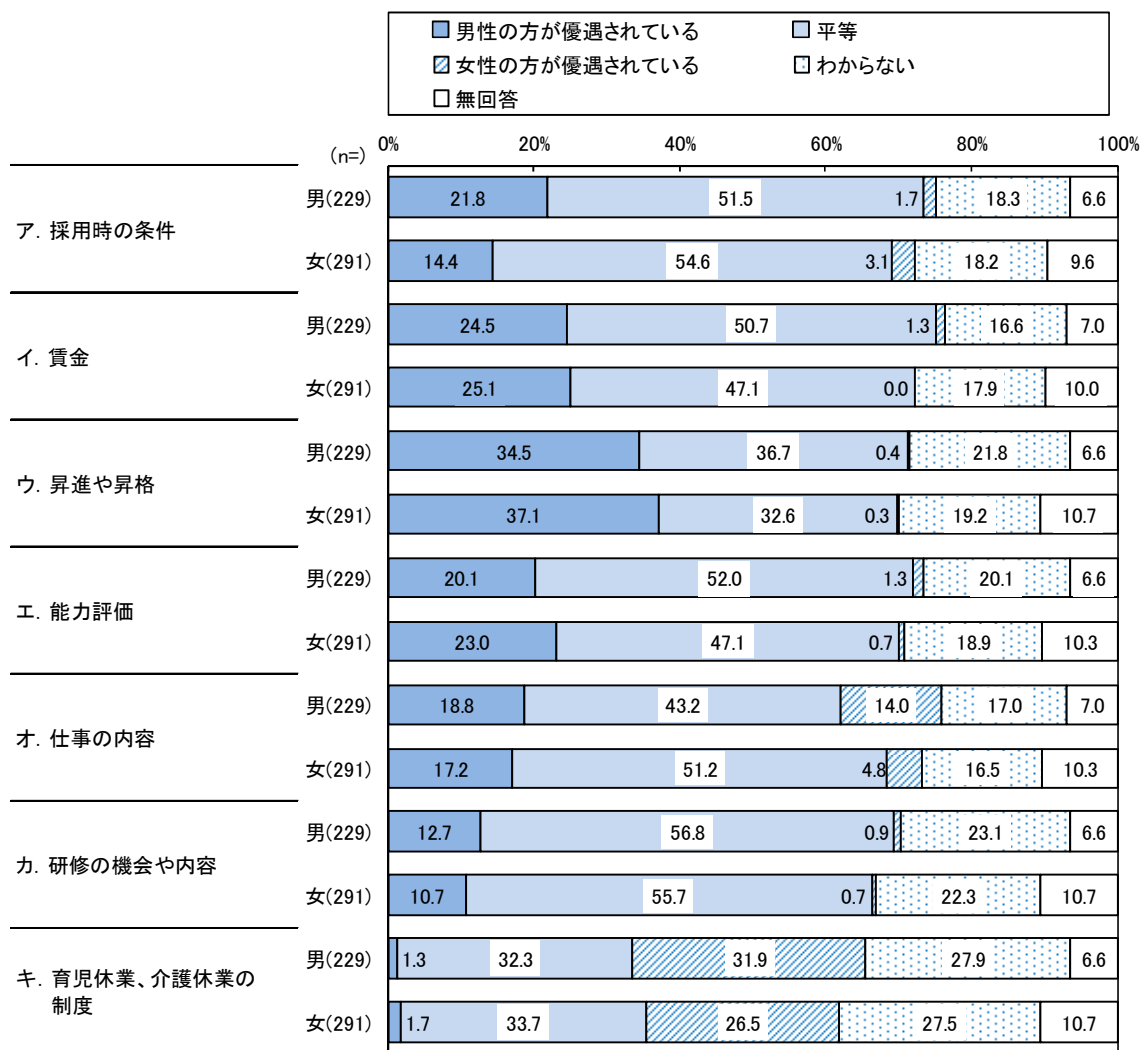
一方で、「男性の方が優遇されている」との回答は、＜昇進や昇格＞が35.8%で最も多く、次いで、＜賃金＞＜能力評価＞で2割台となっています。反対に、「女性の方が優遇されている」は、＜育児休業、介護休業の制度＞のみ約3割と他の項目を大きく上回ります。



【性別】

性別で比較すると、＜採用時の条件＞は男性、＜昇進や昇格＞は女性で「男性の方が優遇されている」との回答がやや多くなっています（各 7.4/2.6 ポイント差）。

一方で、＜育児休業、介護休業の制度＞と＜仕事の内容＞では、男性で「女性の方が優遇されている」との回答が女性を上回ります（各 9.2/5.4 ポイント差）。



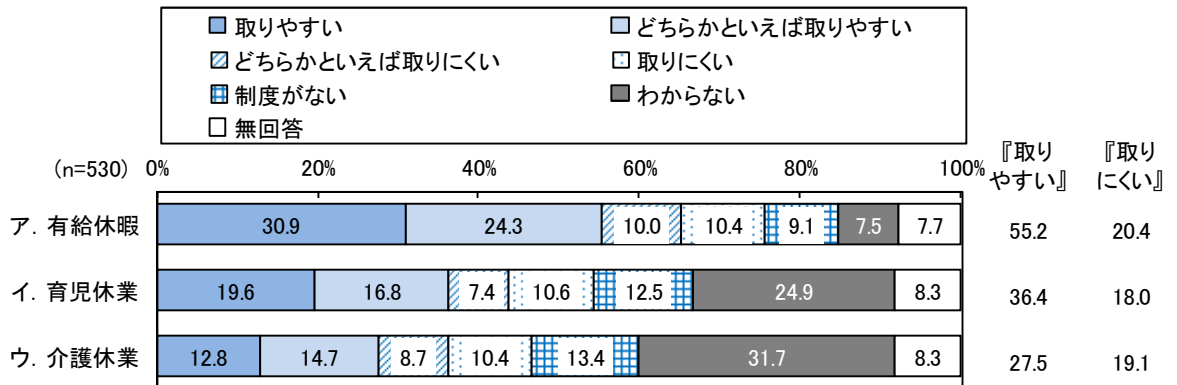
(2) 有給休暇や育児休業等の取りやすさ

②あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。(ア～ウのそれぞれについて「1～6」の中から○は1つ)

「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」を合計した『取りやすい』は、＜有給休暇＞が55.2%で最も多く、＜育児休業＞＜介護休業＞の順となっています。

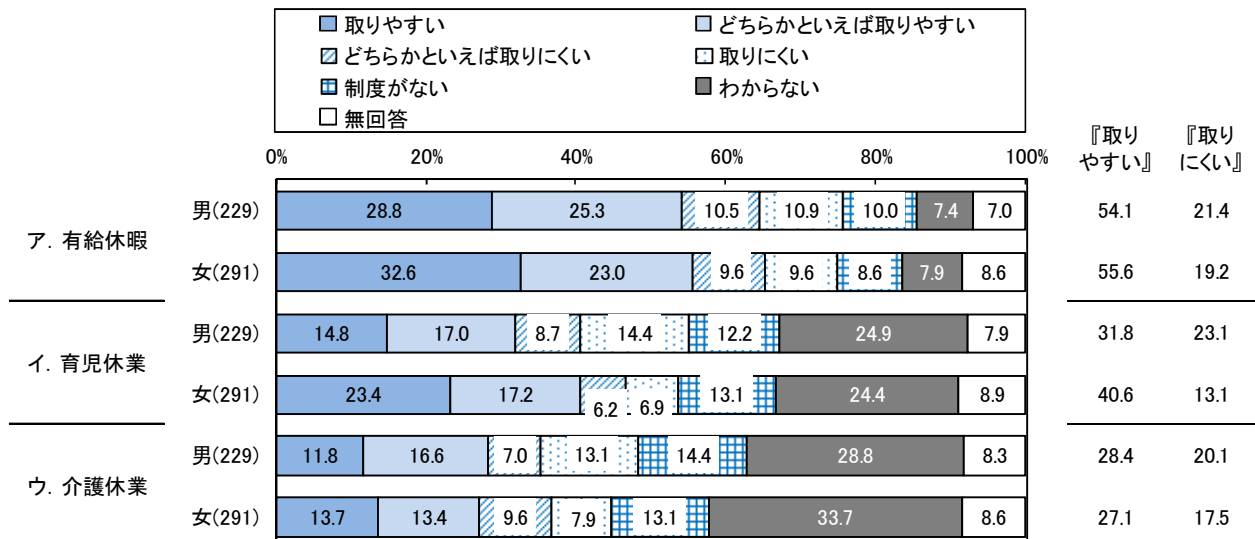
一方で、「どちらかといえば取りにくい」と「取りにくい」を合計した『取得しにくい』は、いずれも2割程度となっています。

＜育児休業＞＜介護休業＞については、「わからない」との回答も多くなっています。



【性別】

性別で比較すると、『取りやすい』は＜介護休業＞を除いて女性が男性を上回り、特に＜育児休業＞でその差が大きくなっています（8.8ポイント差）。＜育児休業＞については、男性の『取得しにくい』割合が23.1%となっています。



(3) 育児休業の取得意向

③あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(1つに〇)

「取りたい」が30.2%で最も多く、「どちらかといえば取りたい」17.4%を合わせた『取りたい』は47.6%であり約半数となっています。

反対に、「どちらかといえば取りたくない」2.6%と「取りたくない」0.8%を合わせた『取りたくない』は、3.4%にとどまります。

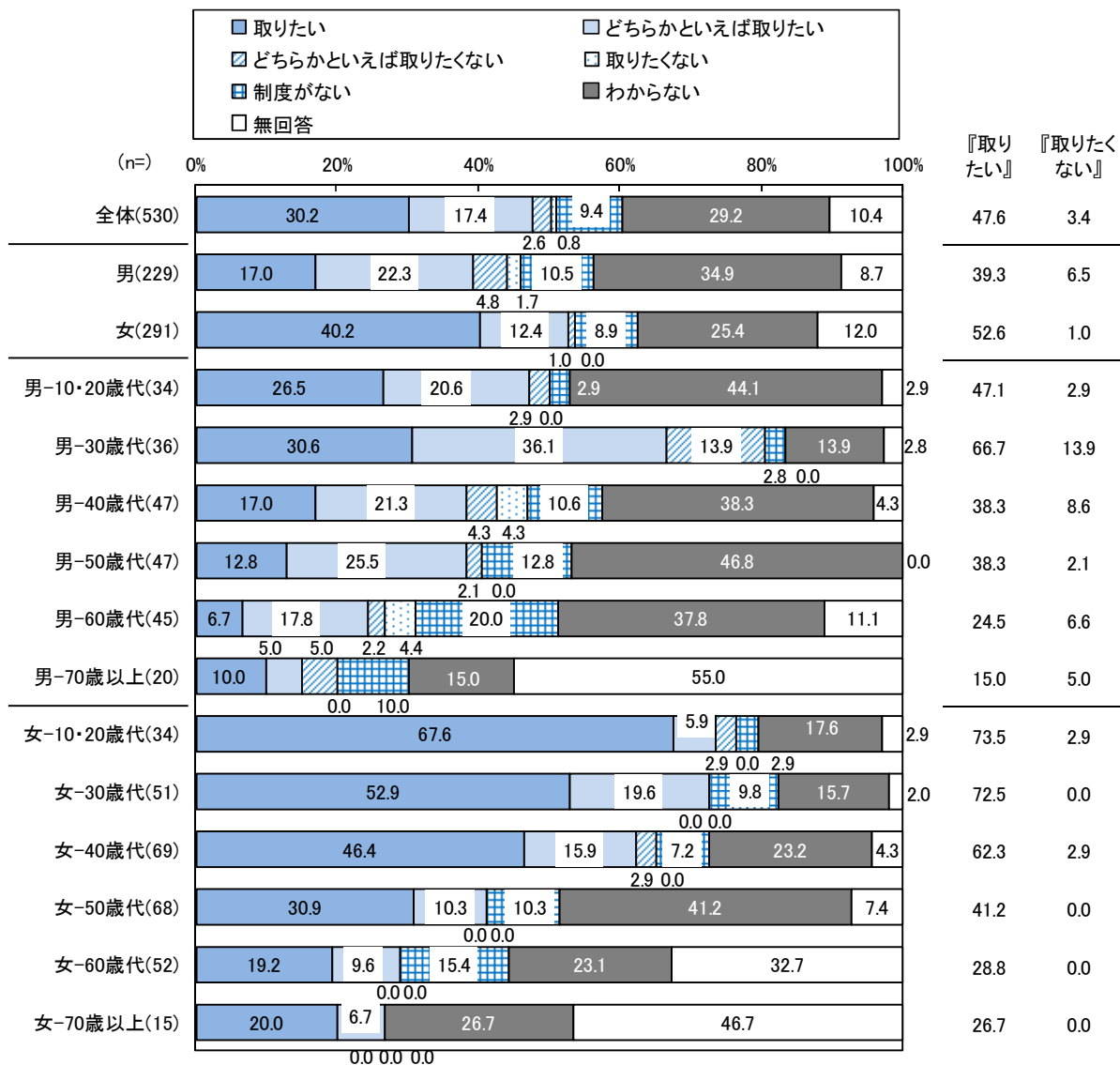
【性別】

性別で比較すると、『取りたい』は女性52.6%、男性39.3%であり、女性が男性を大きく上回ります(13.3ポイント差)。

【性・年代別】

男性で『取りたい』との回答が最も多いのは、30歳代であり66.7%となっています。

『取りたい』との回答は、女性の10・20歳代と30歳代で7割を超え、40歳代でも6割台となっています。



(4) セクシュアル・ハラスメント等の防止の意識について

④あなたは、職場でセクシュアル・ハラスメント及びパワー・ハラスメント等の防止を意識していますか。(1つに〇)

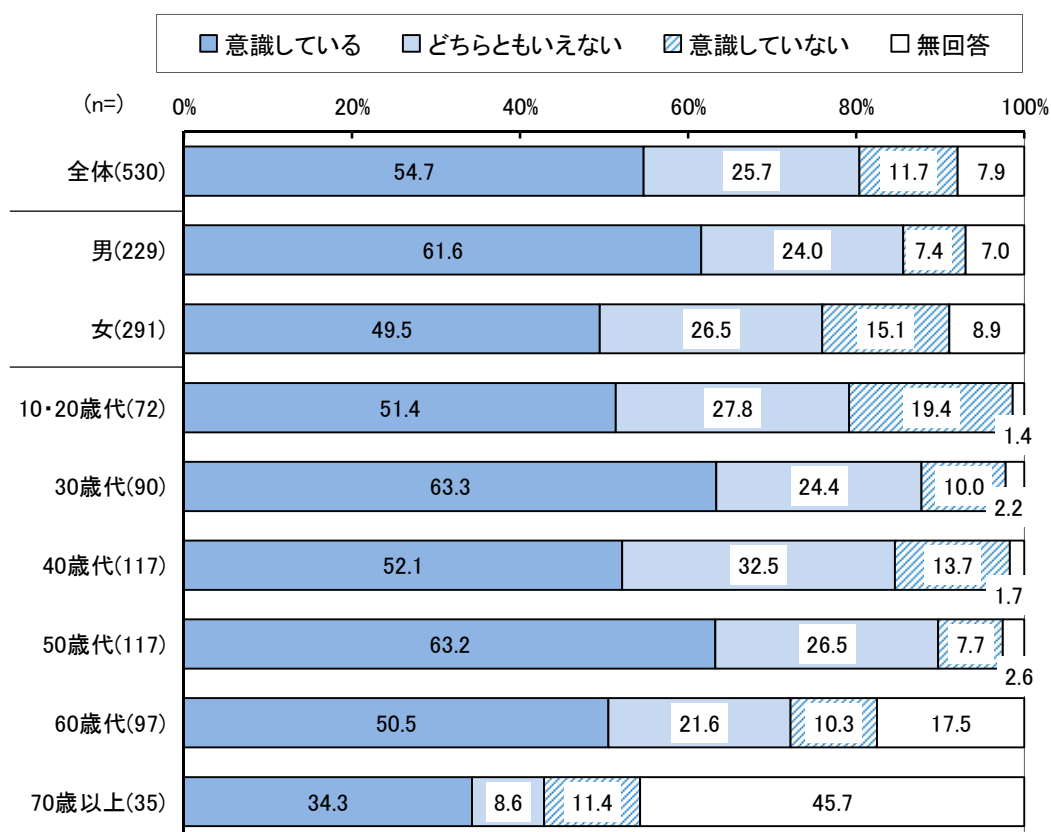
「意識している」が54.7%で最も多く、「どちらともいえない」が25.7%、「意識していない」が11.7%となっています。

【性別】

性別で比較すると、「意識している」は男性61.6%、女性49.5%であり、男性が女性を大きく上回ります(12.1ポイント差)。

【年代別】

「意識している」は、30歳代と50歳代で6割を超え、多くなっています。「意識していない」は、10・20歳代で19.4%であり、他の年代を上回ります。



6. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問7 「男は仕事、女は家庭」という考えをどう思いますか。(〇は1つ)

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「反対」が32.9%と最も多く、「どちらかといえば反対」30.6%を合わせた、『反対』は63.5%となっています。

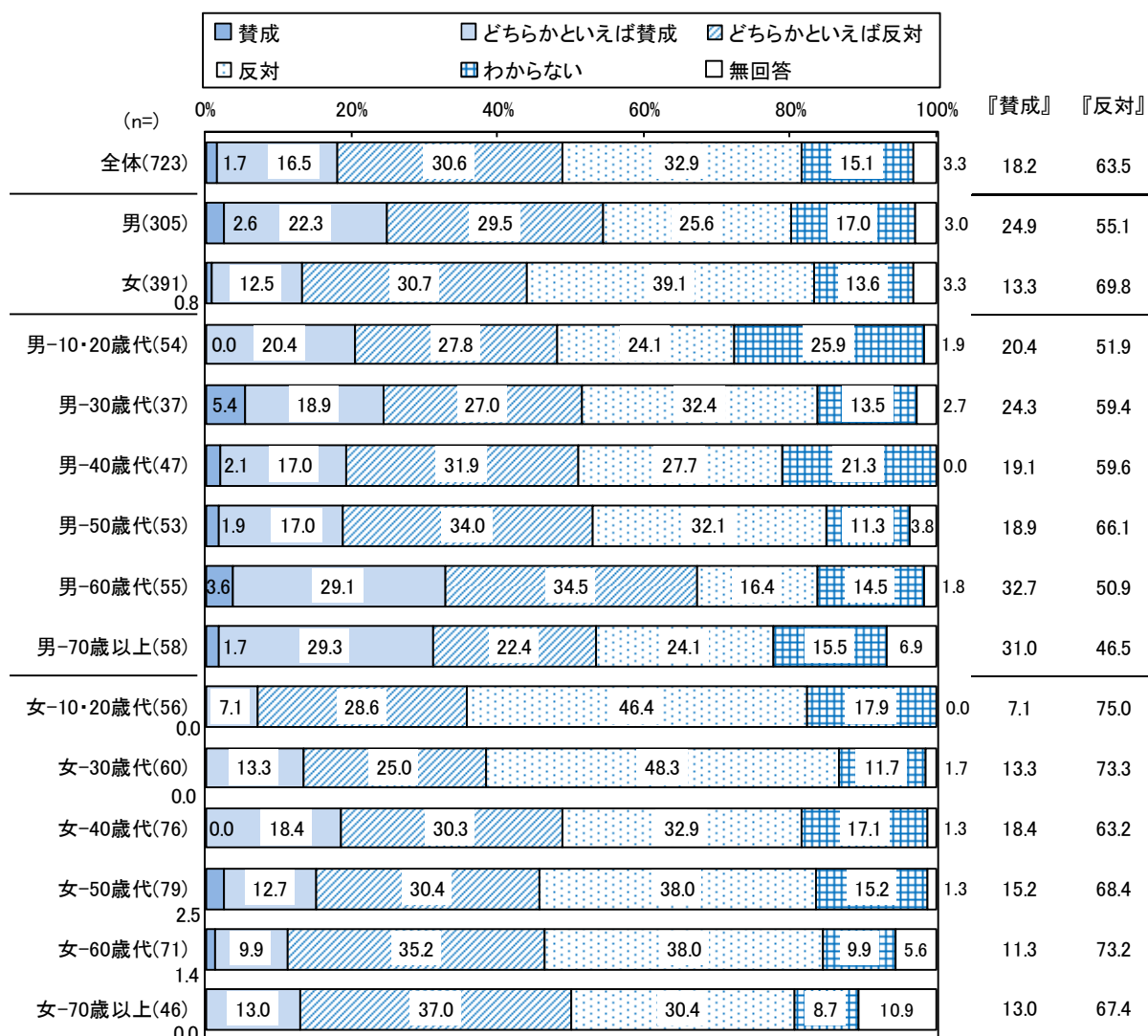
これに対し、「賛成」1.7%と「どちらかといえば賛成」16.5%を合わせた『賛成』は18.2%となっています。

【性別】

性別で比較すると、『賛成』は男性24.9%、女性13.3%であり、男性が女性を大きく上回ります（11.6ポイント差）。

【性・年代別】

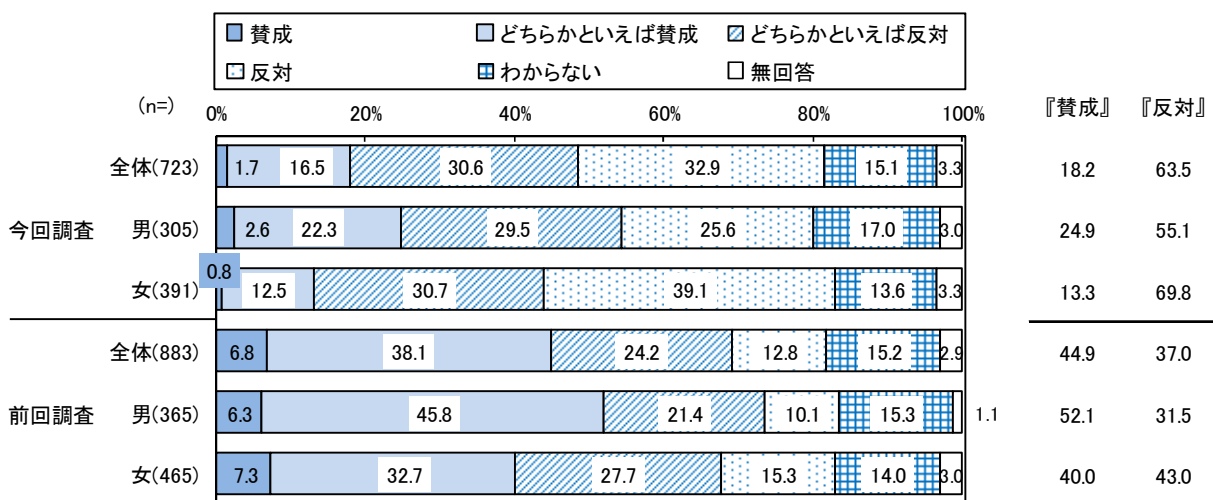
『賛成』との回答は、男性の60歳以上で3割を超え、10・20歳代や30歳代でも2割台となっています。一方、女性では「賛成」は少ないものの、合計値の『賛成』は40歳代の18.4%で最も多くなっています。



〈前回調査との比較〉

前回調査から、『反対』が26.5ポイント増加しています。

性別で比較しても、男女ともに『賛成』は減少、『反対』が20ポイント以上増加しています。



(2) 男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な環境整備

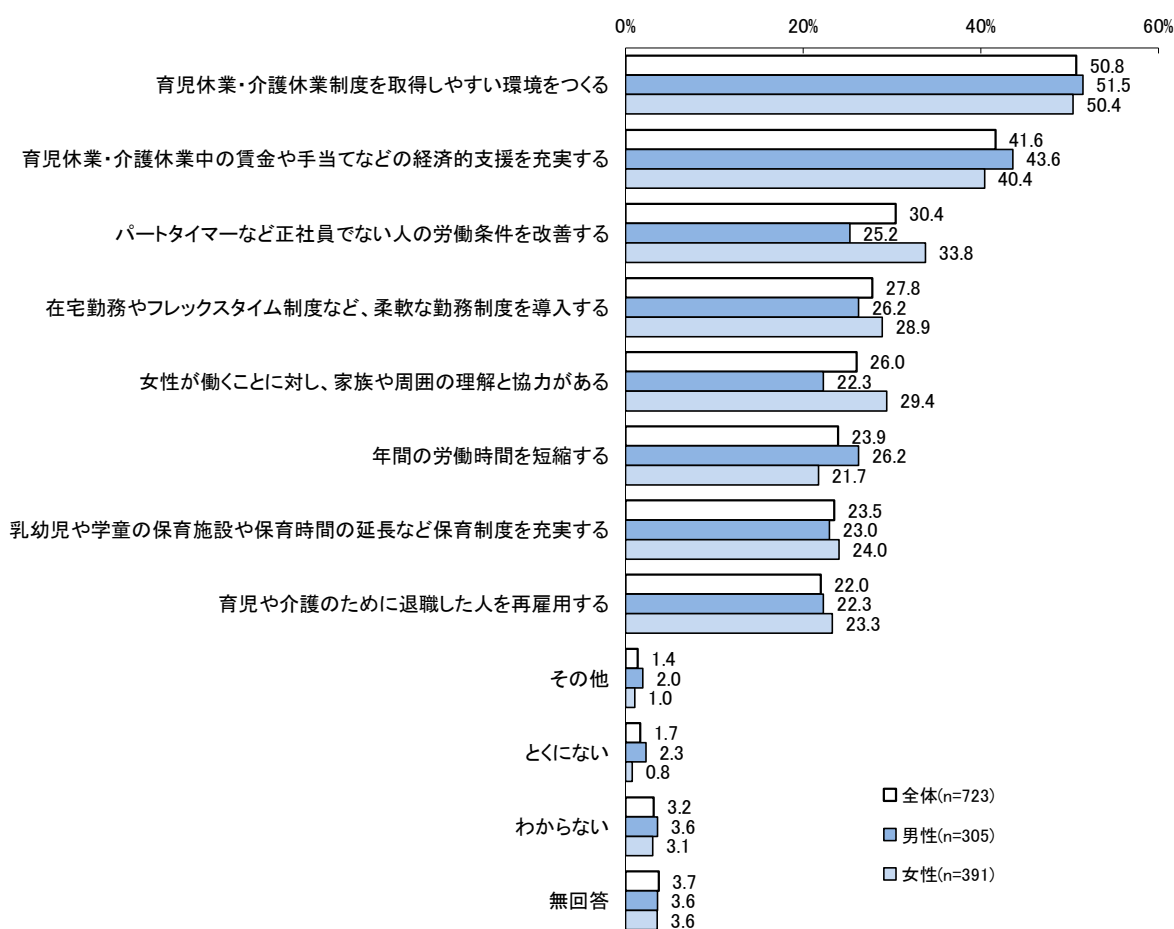
問8 男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女がともに仕事と家庭を両立するために必要な環境整備については、「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が50.8%で最も多く、以下「育児休業・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」が41.6%、「パートタイマーなど正社員でない人の労働条件を改善する」が30.4%、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」が27.8%、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある」が26.0%となっています。

【性別】

性別で比較すると、「パートタイマーなど正社員でない人の労働条件を改善する」と「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある」との回答で、女性が男性を大きく上回ります(各8.6/7.1ポイント差)。

一方で、「年間の労働時間を短縮する」や「育児休業・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」は男性でやや多くなっています(各4.5/3.2ポイント差)。



【性・年代別】

男性の30歳代と60歳代で「育児休業・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」、男性30歳代及び40歳代と女性の30歳代で「年間の労働時間を短縮する」が多くあげられています。

そのほか、女性の10・20歳代で「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する」、女性の60歳以上と30歳代及び40歳代、男性の70歳以上で「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある」との回答が、他の性・年代を上回ります。

		(%)												
		合計(人)	育児休業・介護休業環境をつくる	育児休業・介護休業中の賃金や手当	パートタイムなど正社員でない人の労働条件を改善する	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある	年間の労働時間を短縮する	乳幼児や学童の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する	育児や介護のために退職した人を再雇用する	その他	とくにない	わからない	無回答
全体		723	50.8	41.6	30.4	27.8	26.0	23.9	23.5	22.0	1.4	1.7	3.2	3.7
性別														
男性		305	51.5	43.6	25.2	26.2	22.3	26.2	23.0	22.3	2.0	2.3	3.6	3.6
女性		391	50.4	40.4	33.8	28.9	29.4	21.7	24.0	23.3	1.0	0.8	3.1	3.6
性・年代別														
男性	10・20歳代	54	46.3	42.6	13.0	33.3	27.8	29.6	20.4	24.1	3.7	1.9	7.4	1.9
	30歳代	37	51.4	51.4	18.9	21.6	13.5	35.1	24.3	21.6	5.4	0.0	0.0	2.7
	40歳代	47	51.1	44.7	25.5	21.3	17.0	38.3	19.1	17.0	4.3	2.1	6.4	0.0
	50歳代	53	56.6	34.0	28.3	32.1	28.3	26.4	24.5	26.4	0.0	3.8	1.9	3.8
	60歳代	55	54.5	58.2	30.9	23.6	10.9	21.8	27.3	18.2	0.0	1.8	5.5	1.8
	70歳以上	58	50.0	34.5	32.8	24.1	32.8	10.3	22.4	25.9	0.0	3.4	0.0	10.3
女性	10・20歳代	56	51.8	42.9	25.0	44.6	19.6	26.8	28.6	23.2	0.0	0.0	1.8	0.0
	30歳代	60	40.0	41.7	36.7	28.3	31.7	36.7	16.7	23.3	0.0	3.3	3.3	1.7
	40歳代	76	47.4	39.5	34.2	27.6	35.5	15.8	25.0	23.7	0.0	0.0	2.6	2.6
	50歳代	79	55.7	44.3	34.2	31.6	16.5	21.5	22.8	24.1	3.8	1.3	6.3	1.3
	60歳代	71	54.9	33.8	31.0	22.5	39.4	16.9	28.2	26.8	1.4	0.0	2.8	5.6
	70歳以上	46	52.2	41.3	43.5	19.6	34.8	13.0	23.9	15.2	0.0	0.0	0.0	10.9

7. ドメスティック・バイオレンス（DV）について

（1）配偶者やパートナー間で行われた場合に暴力だと感じる行為

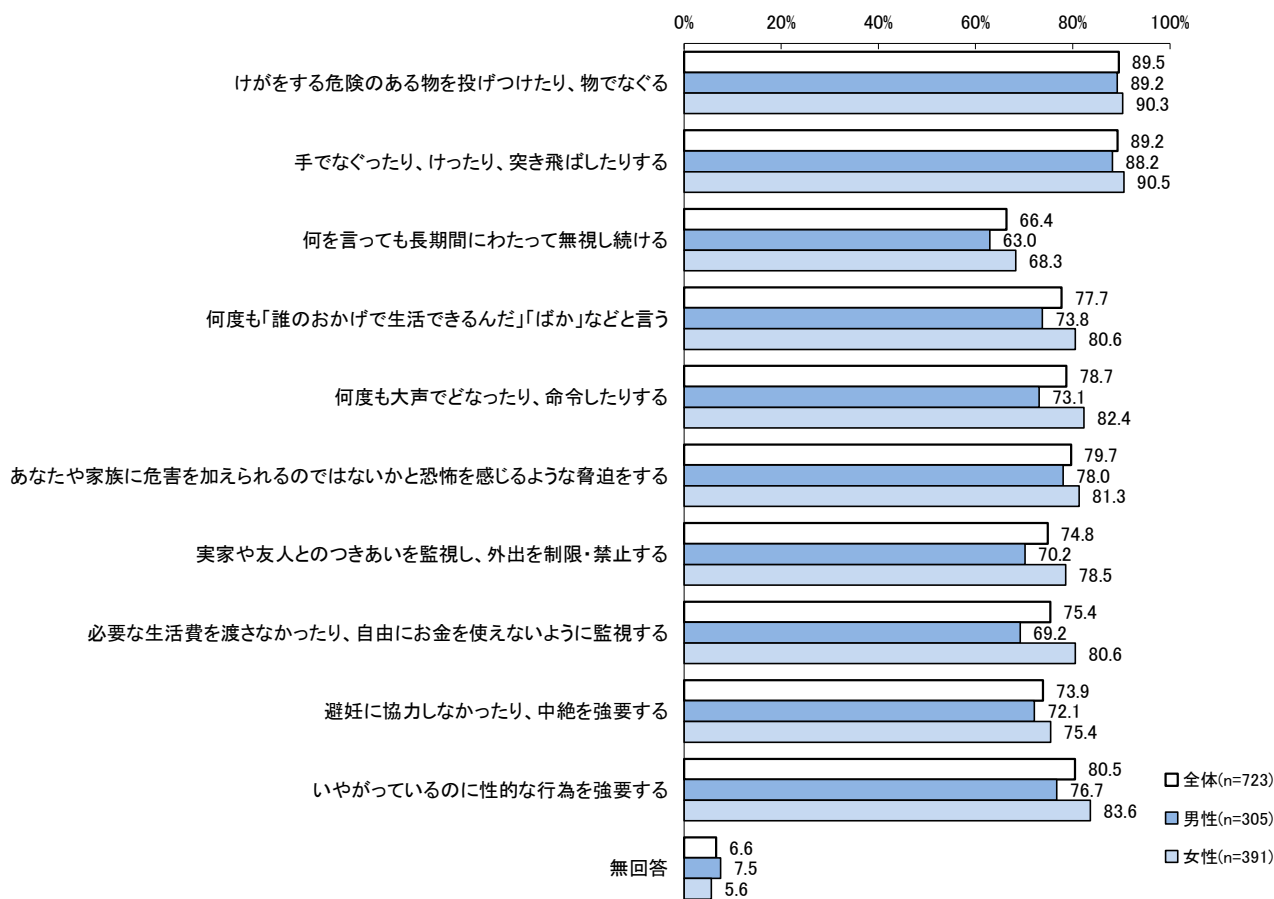
問9 家庭内・家族間で起こる暴力、とりわけ配偶者やパートナー（夫・妻・恋人など）からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）が問題になっています。あなたは、次の1～10のような行為が配偶者やパートナー間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

配偶者やパートナー間で行われた場合に暴力だと感じる行為については、「けがをする危険のある物を投げつけたり、物でなぐる」が89.5%、「手でなぐったり、けったり、突き飛ばしたりする」が89.2%、「いやがっているのに性的な行為を強要する」が80.5%であり、8割を超えています。また、「あなたや家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫をする」が79.7%、「何度も大声でどなったり、命令したりする」が78.7%、「何度も『誰のおかげで生活できるんだ』『ばか』などと言う」が77.7%となっており、多くの項目で7割を超えています。

【性別】

性別で比較すると、暴力だと感じる割合は、全ての項目で女性が男性を上回ります。

特に、「必要な生活費を渡さなかったり、自由にお金を使えないように監視する」（経済的圧迫）、「何度も大声でどなったり、命令したりする」や「実家や友人とのつきあいを監視し、外出を制限・禁止する」（精神的暴力）でその差が大きくなっています（各 11.4/9.3/8.3ポイント差）。

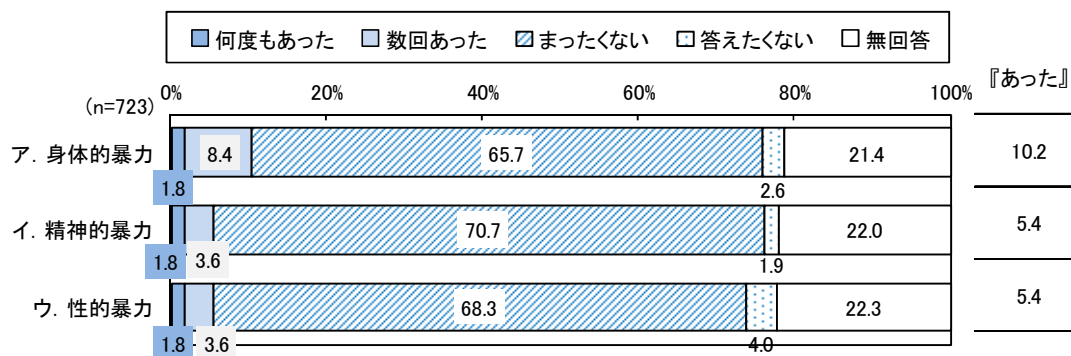


(2) DVを受けた経験

〔現在、配偶者やパートナーのいる方、または、過去にいた方にお聞きします〕

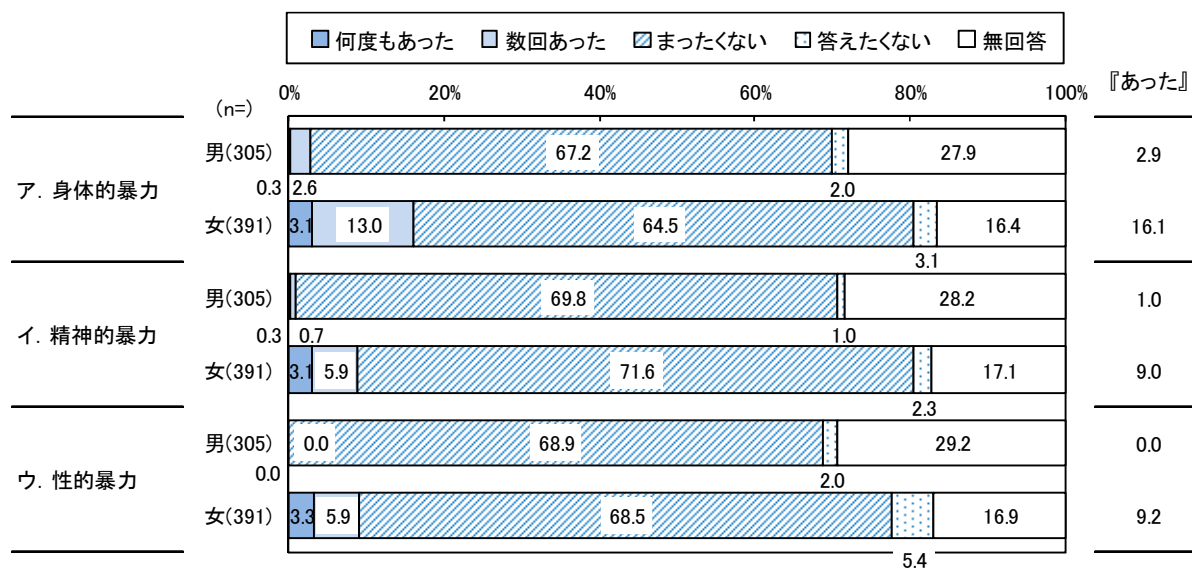
問10 ①あなたはこれまでに、あなたの配偶者やパートナーから次のようなことをされたことがありますか。(ア～ウのそれぞれについて「1～4」の中から〇1つ)

「何度もあった」、「数回あった」を合わせた『あった』は、＜身体的暴力＞が10.2%と最も多く、＜精神的暴力＞と＜性的暴力＞はいずれも5.4%となっています。



【性別】

性別で比較すると、『あった』との回答は、いずれも女性が男性を上回り、約1割～1割台半ばとなっています。



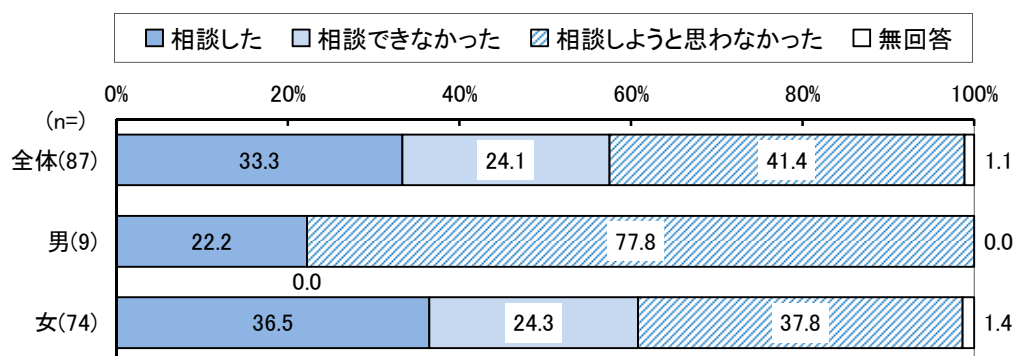
(3) DVの相談状況

〔問10①のうち、1つでも「何度もあった」または「数回あった」とお答えの方に〕
 ②あなたはこれまでに、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

DVと考えられる行為についての相談状況については、「相談しようとは思わなかった」が41.4%と最も多く、「相談した」33.3%、「相談できなかった」24.1%となっています。

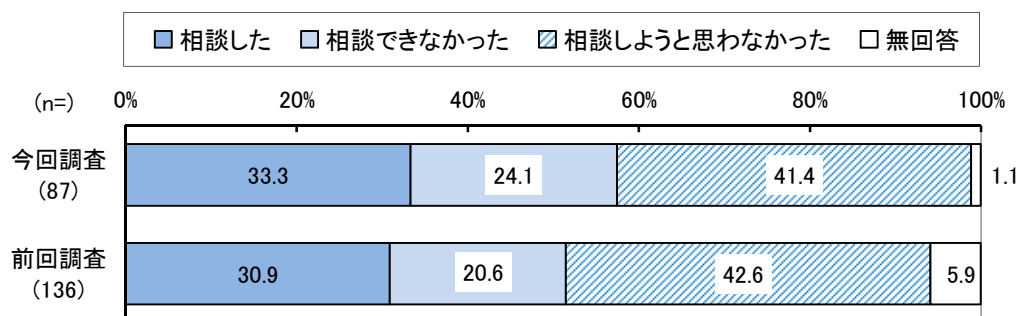
【性別】

性別で比較すると、「相談した」は女性 36.5%に対し、男性は 22.2%となっています。「相談しようとは思わなかった」は、男性が 77.8%と女性を大きく上回ります。



〈前回調査との比較〉

前回調査から、「相談した」は 2.4 ポイント増加しています。一方で、「相談できなかった」との回答も 3.5 ポイント増加しています。



(4) DVの相談先

〔問10②で「1相談した」とお答えの方に〕

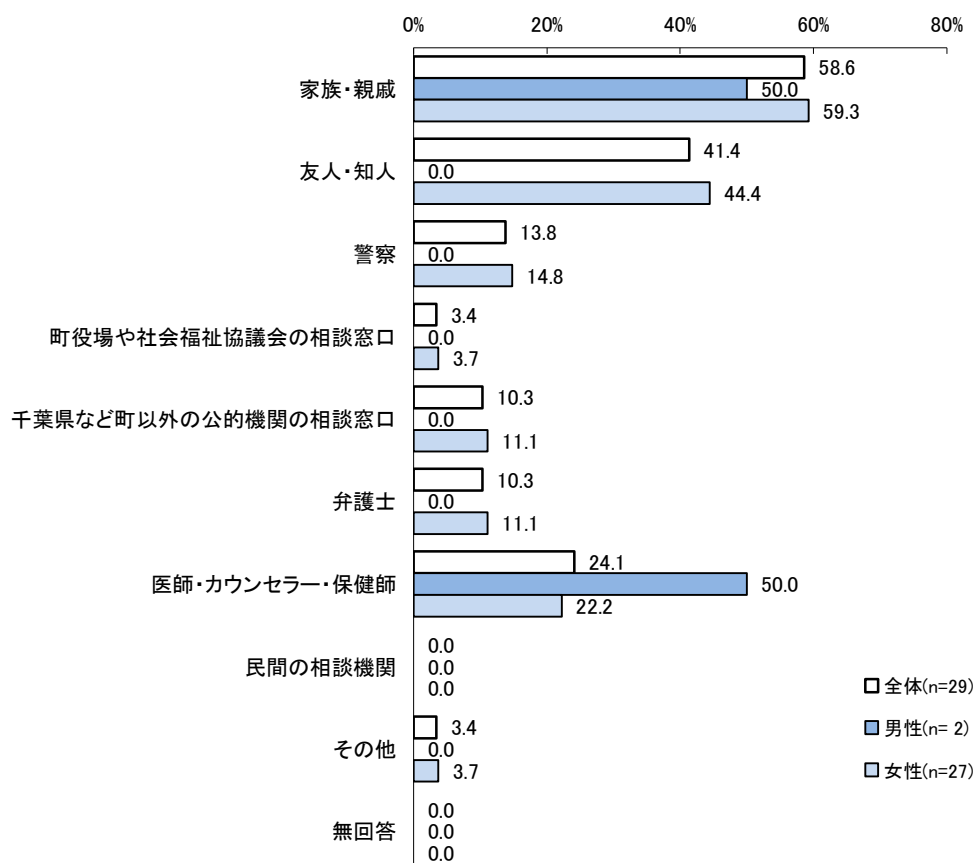
③あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はあてはまるものすべて）

DVと考えられる行為について相談した人や場所については、「家族・親戚」が58.6%で最も多く、以下「友人・知人」が41.4%、「医師・カウンセラー・保健師」が24.1%、「警察」が13.8%、「千葉県など町以外の公的機関の相談窓口」と「弁護士」がともに10.3%となっています。

【性別】

女性では「家族・親戚」「友人・知人」との回答が多くなっています。

（男性は回答者数が少ないため、参考として掲載しています。）



(5) DVの相談ができなかった理由

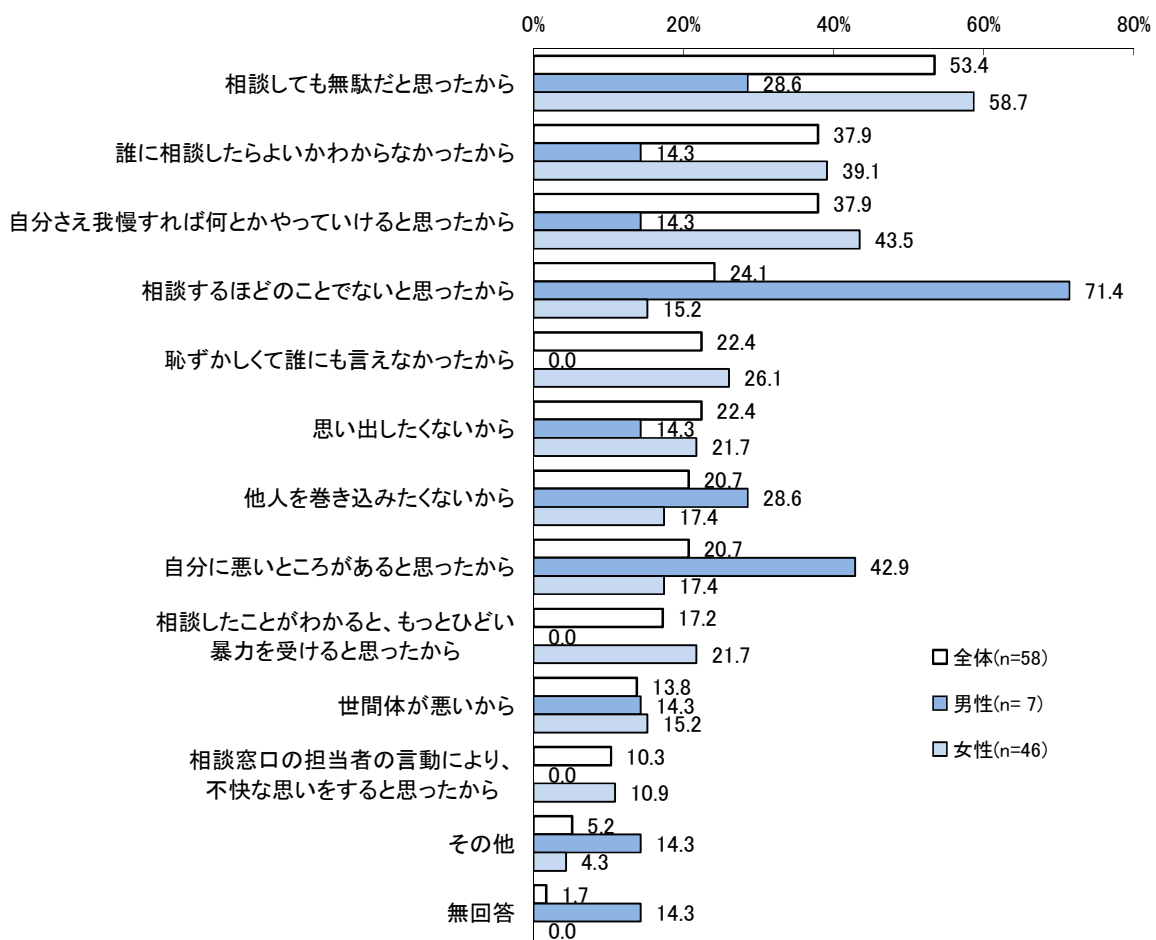
〔問10②で「2. 相談できなかった」、「3. 相談しようと思わなかった」とお答えの方に〕
 ④あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（○はあてはまるものすべて○）

DVの相談ができなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」が53.4%で最も多く、以下「誰に相談したらよいかわからなかったから」が37.9%、「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」が37.9%、「相談するほどのことではないと思ったから」が24.1%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と「思い出したくないから」がともに22.4%となっています。

【性別】

女性では「相談しても無駄だと思ったから」や「自分さえ我慢すれば何とかやっていけると思ったから」、「誰に相談したらよいかわからなかったから」との回答が多くあげられています。

回答者数が少ないものの、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が他の項目を大きく上回り、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が多くなっています。



8. 女性の活躍推進について

(1) ポジティブ・アクションを行うことについて

問11 女性があまり進出していない分野（たとえば、企業・行政などの管理職や審議会委員など）で、女性の登用を計画的に進めていくことなどを「ポジティブ・アクション」（積極的改善措置）といいます。このような取り組みを行うことについてどのように思いますか。（○は1つ）

ポジティブ・アクションを行うことについては、「賛成」39.0%と「どちらかといえば賛成」37.2%を合計した『賛成』は76.2%と7割を超えます。また、「どちらかといえば反対」2.6%と「反対」1.0%を合計した『反対』はわずかに3.6%となっています。

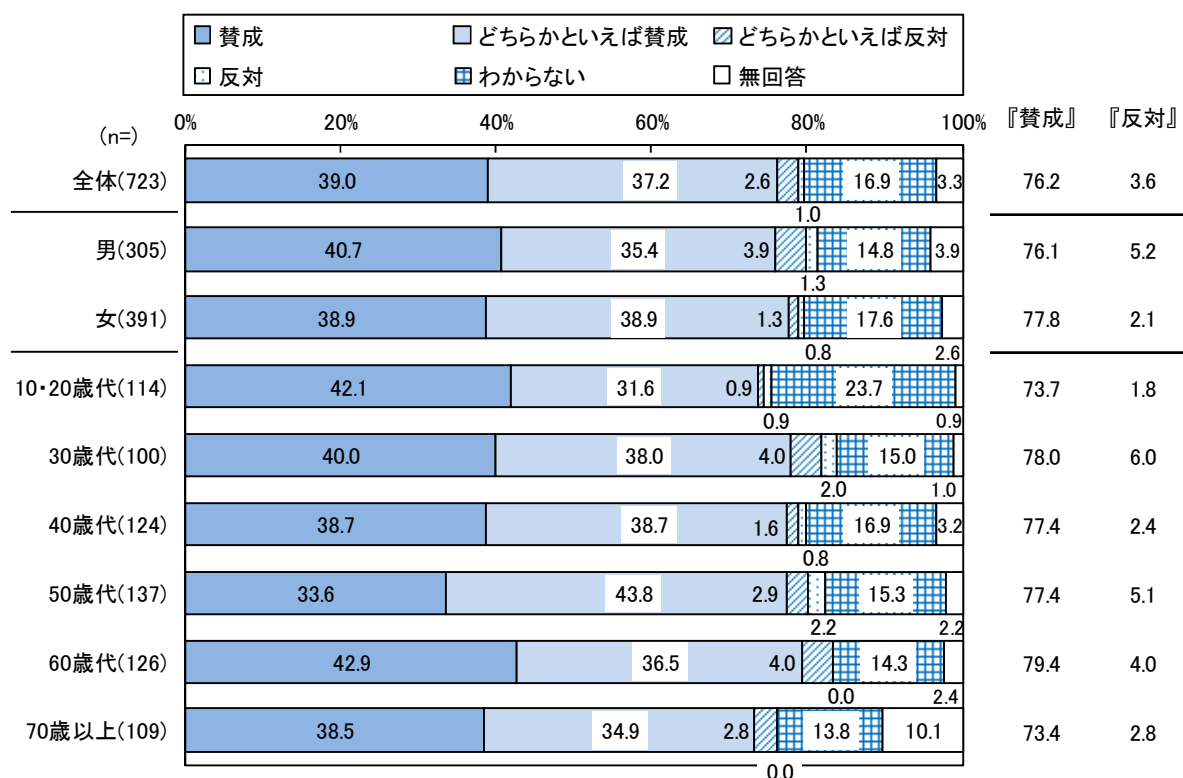
一方で、「わからない」についても16.9%と1割を超えています。

【性別】

性別で比較すると、『賛成』は男女ともに7割台であり、大きな差は見られません。

【年代別】

『賛成』は、いずれの年代も7割台であり、年代による差は見られません。



【用語解説】

※ポジティブ・アクション

一般的には、社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のことをいい、女性の参画を拡大する最も効果的な施策の一つとなっている。

(2) 女性が政策・方針決定の場に進出するために必要なこと

問12 あなたは、女性が政策・方針を決定する場に進出するために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

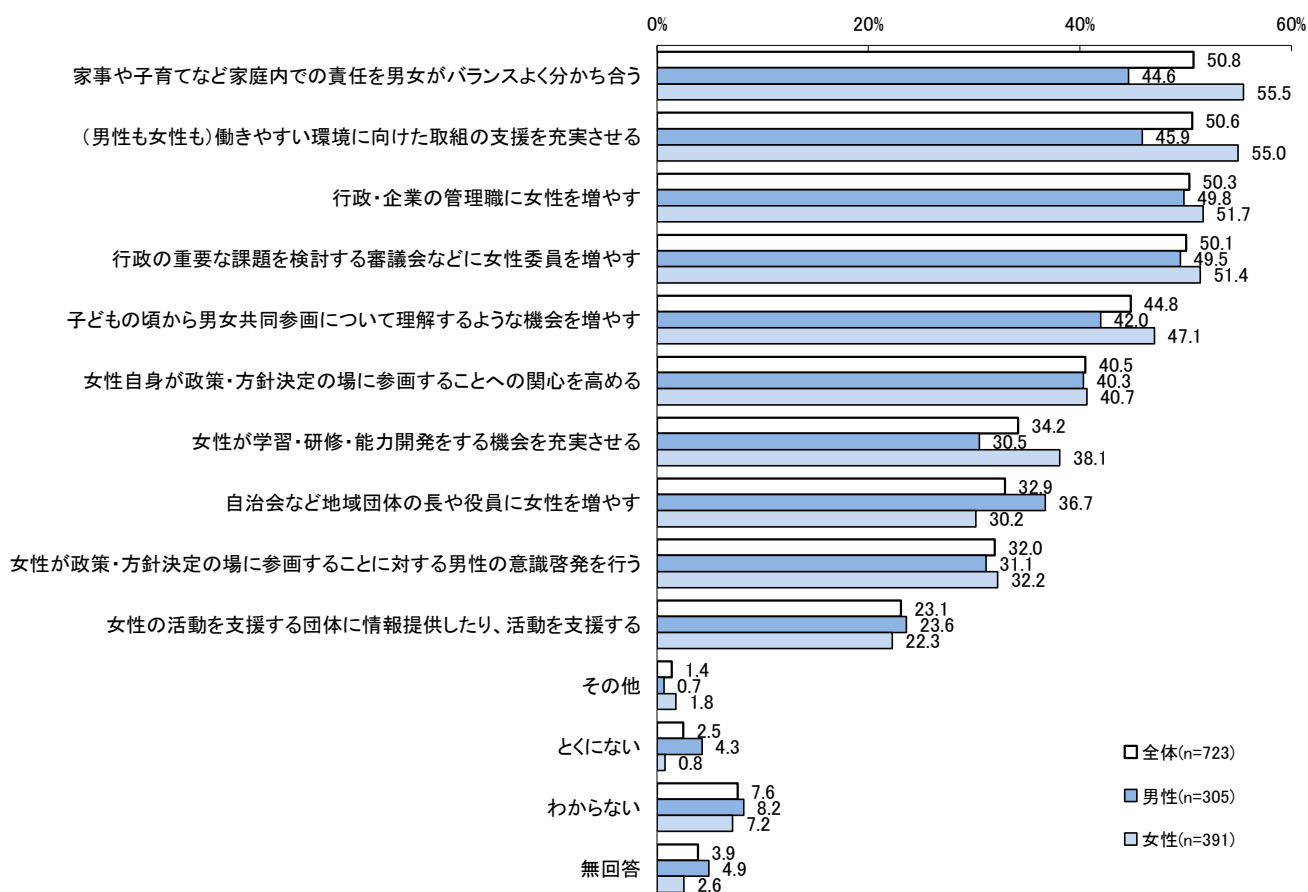
女性が政策・方針決定の場に進出するために必要なことについては、「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」が50.8%で最も多く、以下「(男性も女性も)働きやすい環境に向けた取組の支援を充実させる」が50.6%、「行政・企業の管理職に女性を増やす」が50.3%、「行政の重要な課題を検討する審議会などに女性委員を増やす」が50.1%、「子どもの頃から男女共同参画について理解するような機会を増やす」が44.8%、「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」が40.5%となっています。

【性別】

性別で比較すると、男性では「行政・企業の管理職に女性を増やす」や「行政の重要な課題を検討する審議会などに女性委員を増やす」が多くあげられているのに対し、女性では「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」や「(男性も女性も)働きやすい環境に向けた取組の支援を充実させる」との回答が多くなっています。

多くの項目で女性の割合が男性を上回り、特に「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」と「(男性も女性も)働きやすい環境に向けた取組の支援を充実させる」でその差が大きくなっています(各10.9/9.1ポイント差)。

反対に男性が女性を上回るのは、「自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす」となっています(6.5ポイント差)。



【年代別】

年代別でみると、10・20歳代と30歳代で「家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う」や「(男性も女性も)働きやすい環境に向けた取組の支援を充実させる」との回答が多くなっています。

そのほか、60歳代で「女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める」や「女性が学習・研修・能力開発をする機会を充実させる」「女性が政策・方針決定の場に参画することに対する男性の意識啓発を行う」が特に多くあげられています。

(%)

	合計 (人)	合 同 を 男 女 が バ ラ ン ス よ く 分 か ち あ う	家 事 や 子 育 て な ど 家 庭 内 で の 責 任 を 男 女 が バ ラ ン ス よ く 分 か ち あ う	境 に 向 け た 取 組 の 支 援 を 充 実 さ せ る	(男 性 も 女 性 も) 働 き や す い 環 境 に 向 け た 取 組 の 支 援 を 充 実 さ せ る	行 政 ・ 企 業 の 管 理 職 に 女 性 を 増 や す	議 会 な ど に 女 性 委 員 を 増 や す	行 政 の 重 要 な 課 題 を 検 討 す る 審 議 会 な ど に 女 性 委 員 を 増 や す	つ い て 理 解 す る よ う な 機 会 を 増 や す	子 ど も の 頃 か ら 男 女 共 同 参 画 に 参 画 す る こ と を 高 め る	女 性 自 身 が 政 策 ・ 方 針 決 定 の 場 に 参 画 す る こ と を 高 め る	女 性 が 学 習 ・ 研 修 ・ 能 力 開 発 を す る 機 会 を 充 実 さ せ る
全体	723	50.8	50.6	50.3	50.1	44.8	40.5	34.2				
性別												
男性	305	44.6	45.9	49.8	49.5	42.0	40.3	30.5				
女性	391	55.5	55.0	51.7	51.4	47.1	40.7	38.1				
年代別												
10・20歳代	114	56.1	54.4	42.1	41.2	40.4	33.3	27.2				
30歳代	100	58.0	56.0	57.0	52.0	39.0	32.0	33.0				
40歳代	124	46.8	49.2	50.8	48.4	45.2	33.1	29.0				
50歳代	137	51.1	48.2	49.6	54.0	47.4	40.9	35.8				
60歳代	126	50.0	55.6	53.2	57.1	50.8	57.1	45.2				
70歳以上	109	44.0	43.1	49.5	45.9	42.2	44.0	34.9				

	合計 (人)	自 治 会 な ど 地 域 団 体 の 長 や 役 員 に 女 性 を 増 や す	啓 発 す る こ と を 行 う	女 性 が 政 策 に 対 し て 参 画 す る こ と を 行 う	女 性 の 活 動 を 支 援 す る 機 会 を 充 実 さ せ る	報 告 の 活 動 を 支 援 す る 機 会 を 充 実 さ せ る	そ の 他	と く に な い	わ か ら な い	無 回 答
全体	723	32.9	32.0	23.1	1.4	2.5	7.6	3.9		
性別										
男性	305	36.7	31.1	23.6	0.7	4.3	8.2	4.9		
女性	391	30.2	32.2	22.3	1.8	0.8	7.2	2.6		
年代別										
10・20歳代	114	23.7	23.7	21.1	1.8	0.9	14.0	1.8		
30歳代	100	37.0	32.0	20.0	1.0	5.0	8.0	1.0		
40歳代	124	33.9	29.0	22.6	1.6	2.4	8.1	3.2		
50歳代	137	32.1	30.7	21.2	2.2	2.2	5.1	4.4		
60歳代	126	34.1	42.1	23.0	0.8	2.4	4.8	1.6		
70歳以上	109	36.7	31.2	29.4	0.0	2.8	6.4	11.0		

9. 少子・高齢化について

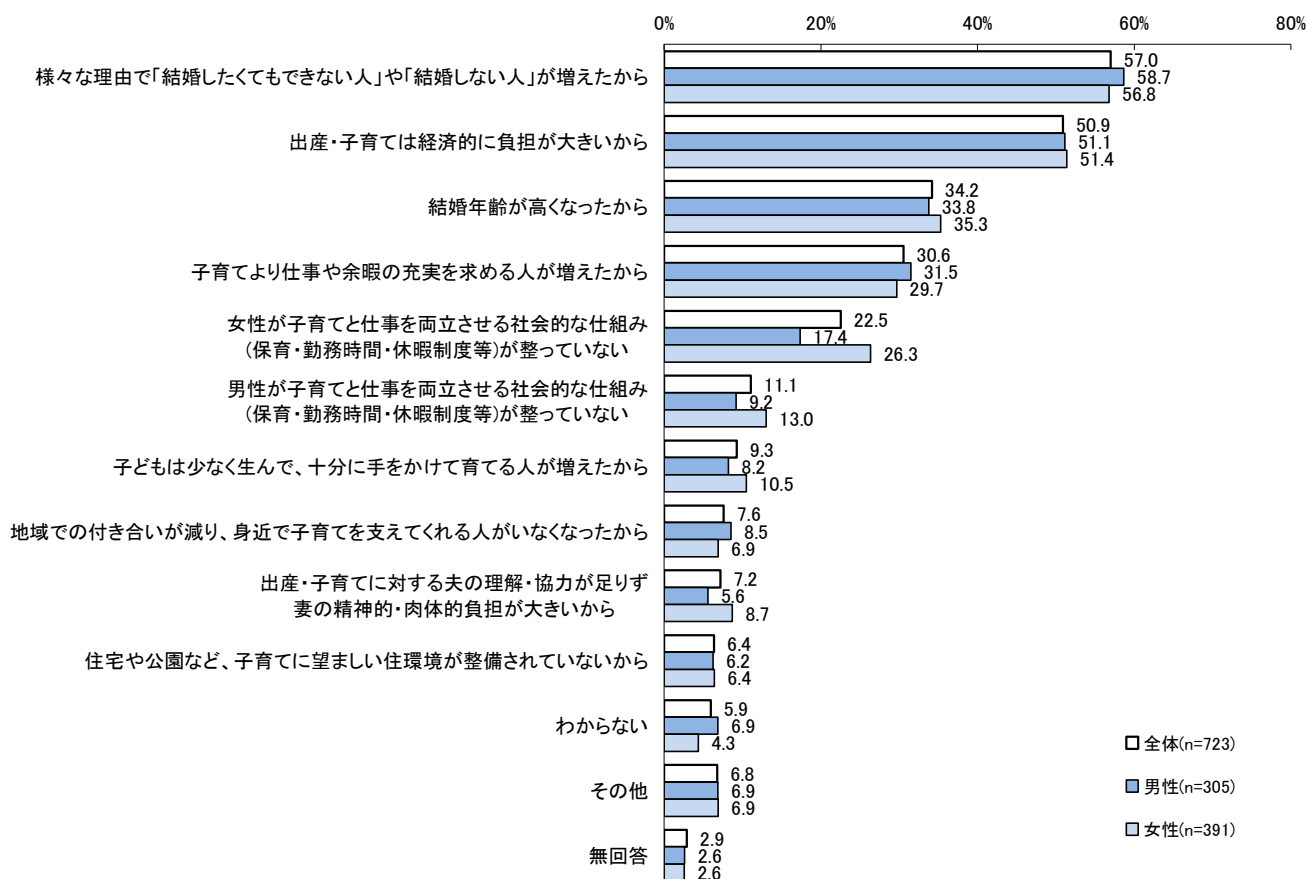
(1) 横芝光町において、出生率が低下した原因

問13 横芝光町において、出生率が低くなった主な原因として何が考えられると思いますか。
(〇は3つまで)

〈参考〉横芝光町と千葉県の合計特殊出生率

合計特殊出生率	令和2年 (2020年)	平成27年 (2015年)	平成22年 (2010年)
横芝光町	1.15	1.28	1.37
千葉県	1.25	1.35	1.34

町において出生率が低くなった主な原因については、「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」が57.0%で最も多く、以下「出産・子育ては経済的に負担が大きいから」が50.9%、「結婚年齢が高くなったから」が34.2%、「子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから」が30.6%、「女性が子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(保育・勤務時間・休暇制度等)が整っていない」が22.5%となっています。



【性別】

男女ともに、「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」と「出産・子育ては経済的に負担が大きいから」が多くあげられています。

性別で差があるのは、「女性が子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない」であり、女性が男性を上回ります（8.9ポイント差）。

【性・年代別】

男女ともに10・20歳代で「子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから」との回答が多くなっています。

男性の60歳代で「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」7割台と他の性・年代を大きく上回ります。

また、女性の10・20歳代と30歳代で「出産・子育ては経済的に負担が大きいから」、30歳代と60歳代で「女性が子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない」との回答が他の性・年代を上回ります。

		(%)															
		合計（人）	様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増え	出産・子育ては経済的に負担が大きいから	結婚年齢が高くなったから	子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから	社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない	女性が子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない	男性が子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（保育・勤務時間・休暇制度等）が整っていない	子どもは少なく生んで、十分に手をかけて育てる人が増えたから	地域での付き合いが減り、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなっ	力が足りず妻の精神的・肉体的負担	出産・子育てに対する夫の理解・協	住宅や公園など、子育てに望ましい環境が整備されていないから	わからない	その他	無回答
全体		723	57.0	50.9	34.2	30.6	22.5	11.1	9.3	7.6	7.2	6.4	5.9	6.8	2.9		
性別																	
男性		305	58.7	51.1	33.8	31.5	17.4	9.2	8.2	8.5	5.6	6.2	6.9	6.9	2.6		
女性		391	56.8	51.4	35.3	29.7	26.3	13.0	10.5	6.9	8.7	6.4	4.3	6.9	2.6		
性・年代別																	
男性	10・20歳代	54	55.6	48.1	20.4	42.6	14.8	7.4	3.7	11.1	3.7	7.4	9.3	9.3	0.0		
	30歳代	37	48.6	45.9	29.7	29.7	10.8	16.2	8.1	10.8	5.4	16.2	10.8	13.5	5.4		
	40歳代	47	57.4	55.3	44.7	21.3	14.9	6.4	2.1	6.4	2.1	8.5	8.5	8.5	0.0		
	50歳代	53	52.8	62.3	32.1	35.8	18.9	5.7	11.3	11.3	7.5	1.9	5.7	1.9	1.9		
	60歳代	55	74.5	49.1	45.5	21.8	25.5	5.5	1.8	3.6	9.1	5.5	7.3	7.3	0.0		
	70歳以上	58	60.3	46.6	31.0	36.2	17.2	13.8	20.7	8.6	5.2	1.7	1.7	3.4	8.6		
女性	10・20歳代	56	53.6	62.5	35.7	35.7	19.6	8.9	8.9	3.6	8.9	3.6	7.1	8.9	1.8		
	30歳代	60	41.7	70.0	28.3	28.3	35.0	15.0	10.0	11.7	10.0	8.3	3.3	10.0	0.0		
	40歳代	76	57.9	47.4	43.4	26.3	25.0	10.5	14.5	9.2	7.9	9.2	1.3	9.2	2.6		
	50歳代	79	57.0	51.9	36.7	24.1	25.3	15.2	11.4	2.5	6.3	3.8	3.8	8.9	2.5		
	60歳代	71	63.4	43.7	29.6	33.8	33.8	14.1	5.6	9.9	12.7	8.5	5.6	2.8	0.0		
	70歳以上	46	69.6	32.6	37.0	34.8	15.2	13.0	13.0	4.3	6.5	4.3	4.3	0.0	10.9		

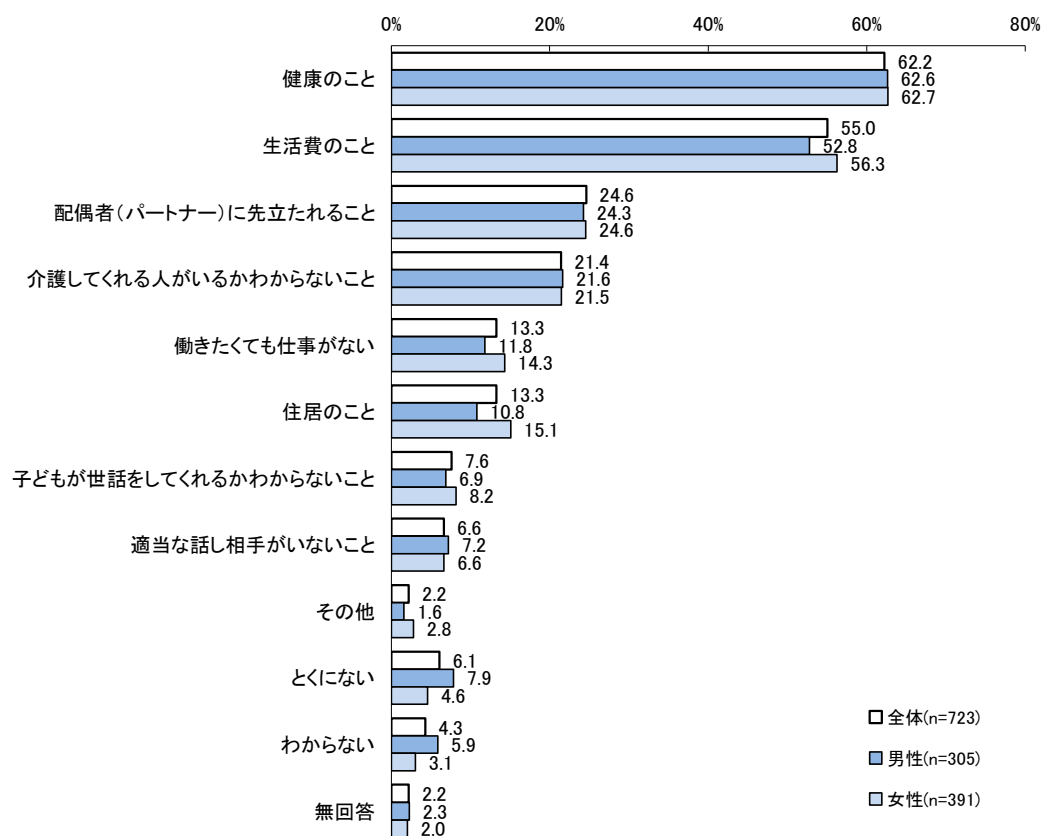
(2) 自分の老後について不安に思うこと

問 14 あなたは、ご自分の老後について、不安に思うことはありますか。(〇は3つまで)

自分の老後について不安に思うことについては「健康のこと」が62.2%で最も多く、以下「生活費のこと」が55.0%、「配偶者（パートナー）に先立たれること」が24.6%、「介護してくれる人がいるかわからないこと」が21.4%、「働きたくても仕事がない」と「住居のこと」がともに13.3%となっています。

【性別】

男女ともに「健康のこと」が最も多く、次いで「生活費のこと」が多くあげられています。男性に比べ女性で「生活費のこと」「住居のこと」「働きたくても仕事がない」との回答がやや多くなっています。



【年代別】

年代別でみると、10・20歳代から40歳代では「生活費のこと」、50歳以上では「健康のこと」が最も多くなっています。30歳代では「生活費のこと」、70歳以上では「配偶者（パートナー）に先立たれること」が他の年代を大きく上回ります。

	合計（人）	健康のこと	生活費のこと	配偶者（パートナー）に先立たれること	介護してくれる人がいるかわからないこと	働きたくても仕事がない	住居のこと	子どもが世話をしてくれるかわからないこと	適当な話し相手がないこと	その他	とくにない	わからない	無回答
全体	723	62.2	55.0	24.6	21.4	13.3	13.3	7.6	6.6	2.2	6.1	4.3	2.2
性別													
男性	305	62.6	52.8	24.3	21.6	11.8	10.8	6.9	7.2	1.6	7.9	5.9	2.3
女性	391	62.7	56.3	24.6	21.5	14.3	15.1	8.2	6.6	2.8	4.6	3.1	2.0
年代別													
10・20歳代	114	42.1	54.4	13.2	14.0	14.0	17.5	2.6	7.9	1.8	7.9	16.7	0.9
30歳代	100	64.0	73.0	22.0	18.0	13.0	24.0	5.0	7.0	3.0	4.0	1.0	2.0
40歳代	124	54.8	62.1	16.1	25.0	17.7	16.1	4.8	7.3	4.8	8.1	4.0	1.6
50歳代	137	65.0	64.2	27.0	24.1	19.7	10.2	7.3	5.1	1.5	3.6	1.5	2.9
60歳代	126	77.0	42.1	27.0	24.6	10.3	9.5	12.7	4.8	1.6	7.9	1.6	0.0
70歳以上	109	69.7	33.9	43.1	22.0	1.8	4.6	12.8	9.2	0.9	5.5	0.9	6.4

10. 男女共同参画社会実現のために必要なことについて

(1) 固定的な性別役割分担意識により精神的な負担を感じた経験

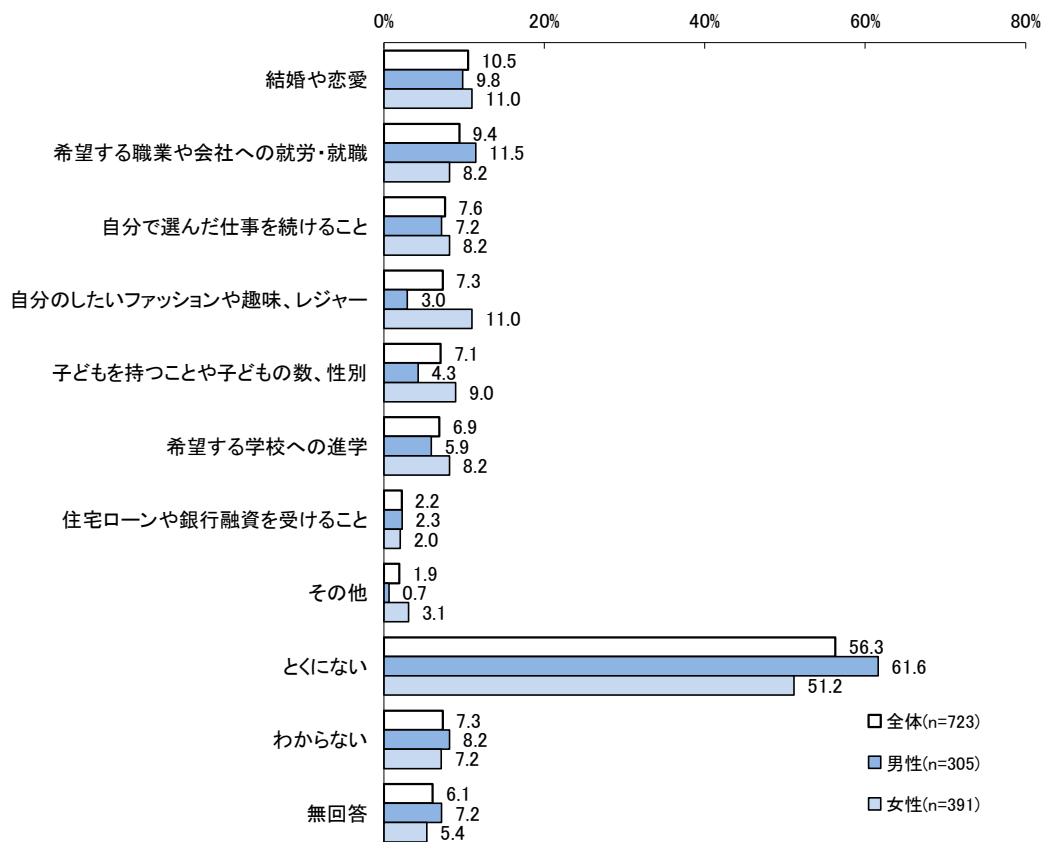
問15 あなたはこれまで、「男なのに（だから）」「女なのに（だから）」であるとか、「長男なのに」「長女なのに」「嫁なのに（外に嫁に行くのに）」など、性別に関わることを周囲に言われたために、自分のしたかったことを諦めたり、精神的な負担を感じたりしたことはありますか。それはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

固定的な役割分担意識により精神的な負担を感じた経験は、「とくにない」が56.3%で最も多いものの、精神的な負担を感じた経験は「結婚や恋愛」が10.5%で多く、以下「希望する職業や会社への就労・就職」が9.4%、「自分で選んだ仕事を続けること」が7.6%、「自分のしたいファッションや趣味、レジャー」が7.3%、「子どもを持つことや子どもの数、性別」が7.1%、「希望する学校への進学」が6.9%となっています。

【性別】

男女とも「とくにない」が最も多くあげられているものの、その割合は男性が女性を上回ります（10.4ポイント差）。

男性で「希望する職業や会社への就労・就職」、女性で「自分のしたいファッションや趣味、レジャー」との回答がやや多くなっています。



【性・年代別】

男性の70歳以上で「希望する職業や会社への就労・就職」、女性の30歳代で「自分のしたいファッションや趣味、レジャー」との回答が多くなっています。

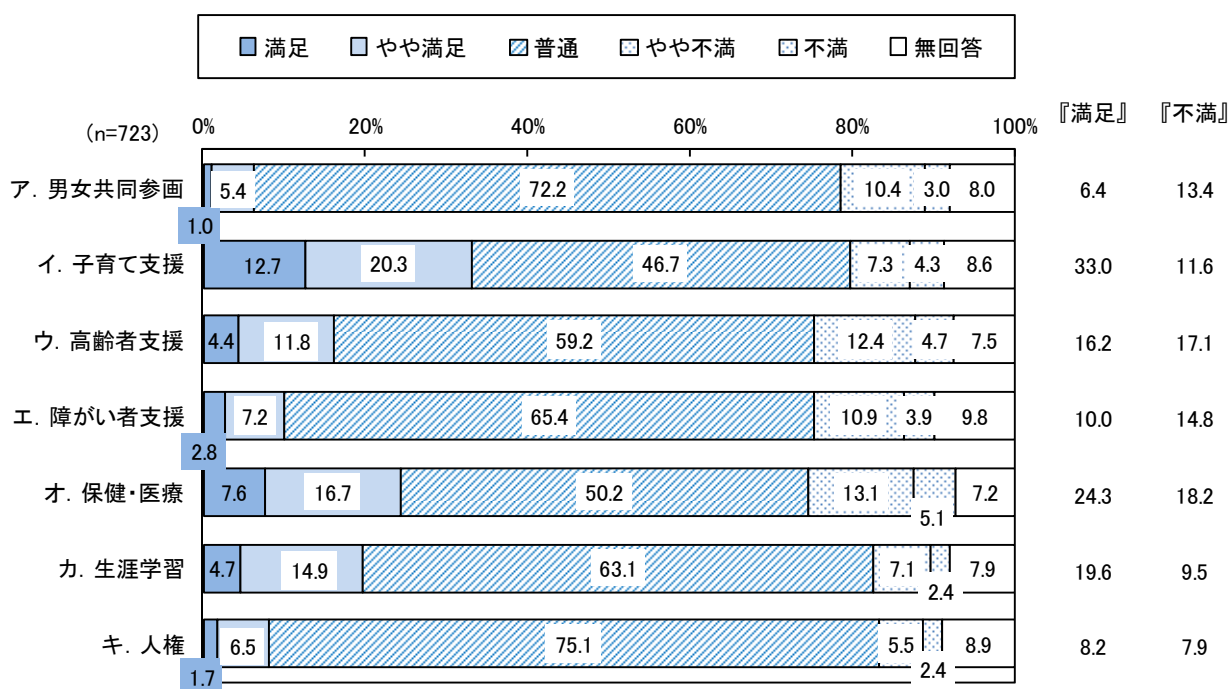
女性の30歳代では、そのほか「希望する学校への進学」「子どもを持つことや子どもの数、性別」「希望する職業や会社への就労・就職」など、精神的な負担を感じた経験としてあげる項目の割合が、他の性・年代に比べて高い傾向にあります。

	合計(人)	結婚や恋愛	希望する職業や会社への就労・就職	自分で選んだ仕事を続けること	自分のしたいファッションや趣味、レジャー	子どもを持つことや子どもの数、性別	希望する学校への進学	住宅ローンや銀行融資を受けること	その他	とくにない	わからない	無回答	
全体	723	10.5	9.4	7.6	7.3	7.1	6.9	2.2	1.9	56.3	7.3	6.1	
性別													
男性	305	9.8	11.5	7.2	3.0	4.3	5.9	2.3	0.7	61.6	8.2	7.2	
女性	391	11.0	8.2	8.2	11.0	9.0	8.2	2.0	3.1	51.2	7.2	5.4	
性・年代別													
男性	10・20歳代	54	11.1	3.7	3.7	5.6	3.7	0.0	0.0	70.4	14.8	1.9	
	30歳代	37	13.5	2.7	5.4	2.7	0.0	5.4	2.7	70.3	0.0	5.4	
	40歳代	47	14.9	10.6	4.3	4.3	4.3	2.1	0.0	57.4	12.8	6.4	
	50歳代	53	11.3	13.2	5.7	3.8	9.4	7.5	7.5	56.6	5.7	9.4	
	60歳代	55	5.5	10.9	10.9	1.8	0.0	9.1	1.8	0.0	65.5	9.1	7.3
	70歳以上	58	5.2	24.1	12.1	0.0	6.9	8.6	1.7	3.4	53.4	5.2	12.1
女性	10・20歳代	56	14.3	1.8	3.6	14.3	7.1	3.6	1.8	55.4	8.9	3.6	
	30歳代	60	13.3	15.0	8.3	21.7	15.0	16.7	3.3	43.3	10.0	1.7	
	40歳代	76	9.2	9.2	6.6	6.6	5.3	3.9	5.3	55.3	9.2	2.6	
	50歳代	79	10.1	13.9	8.9	8.9	11.4	7.6	0.0	5.1	49.4	6.3	3.8
	60歳代	71	11.3	2.8	11.3	5.6	9.9	9.9	1.4	1.4	53.5	5.6	7.0
	70歳以上	46	8.7	4.3	10.9	13.0	4.3	8.7	0.0	2.2	45.7	2.2	17.4

(2) 町の取組への満足度

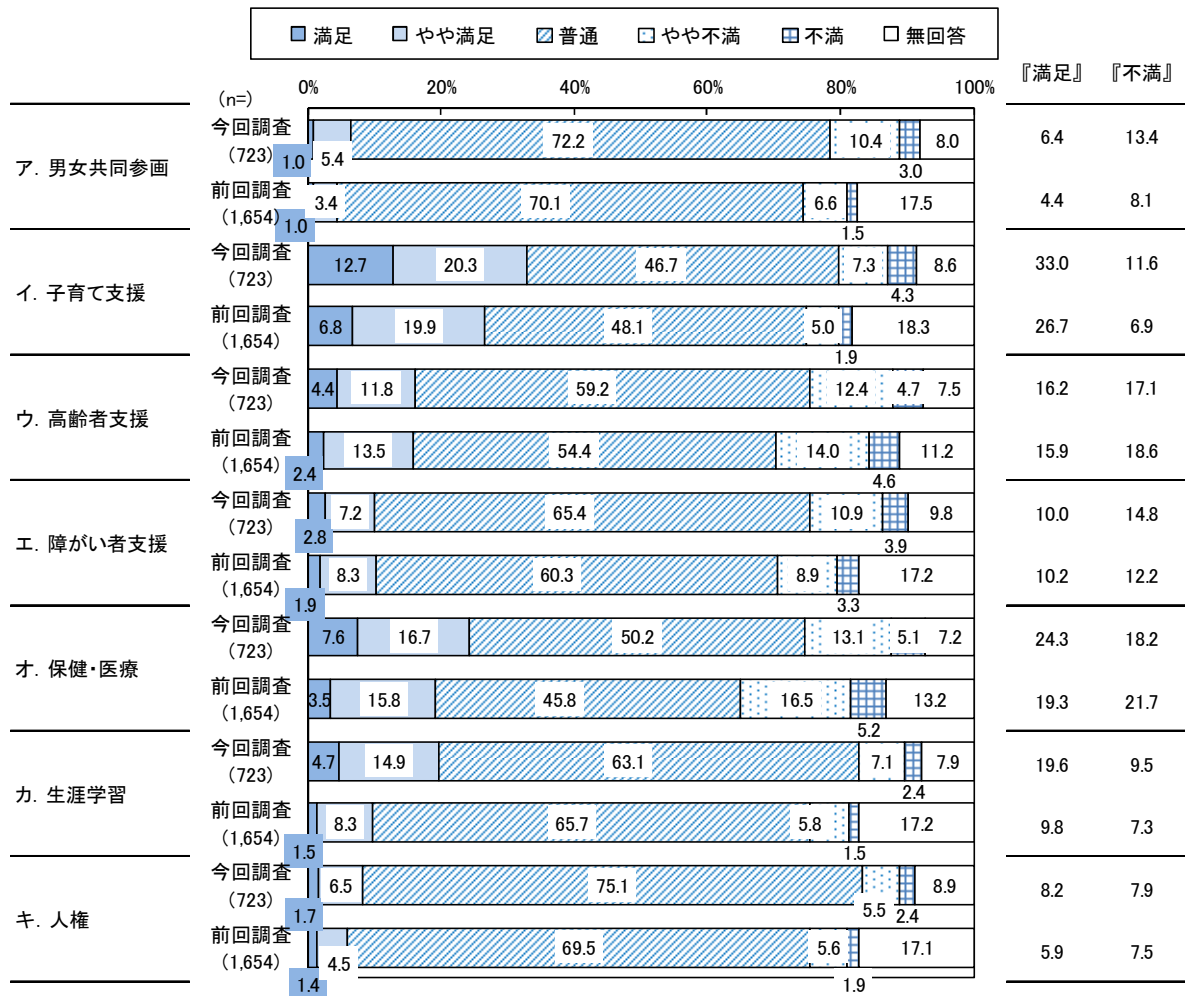
問16 あなたは、次のような町の取組に、現在どの程度満足していますか。(ア～キのそれぞれについて「1～5」の中から〇は1つ)

町の取組への満足度については、いずれの項目も「普通」が最も多くなっています。
 「満足」と「やや満足」を合計した『満足』は、＜子育て支援＞の33.0%が最も多く、
 ＜保健・医療＞や＜生涯学習＞で2割程度となっています。



〈前回調査との比較〉

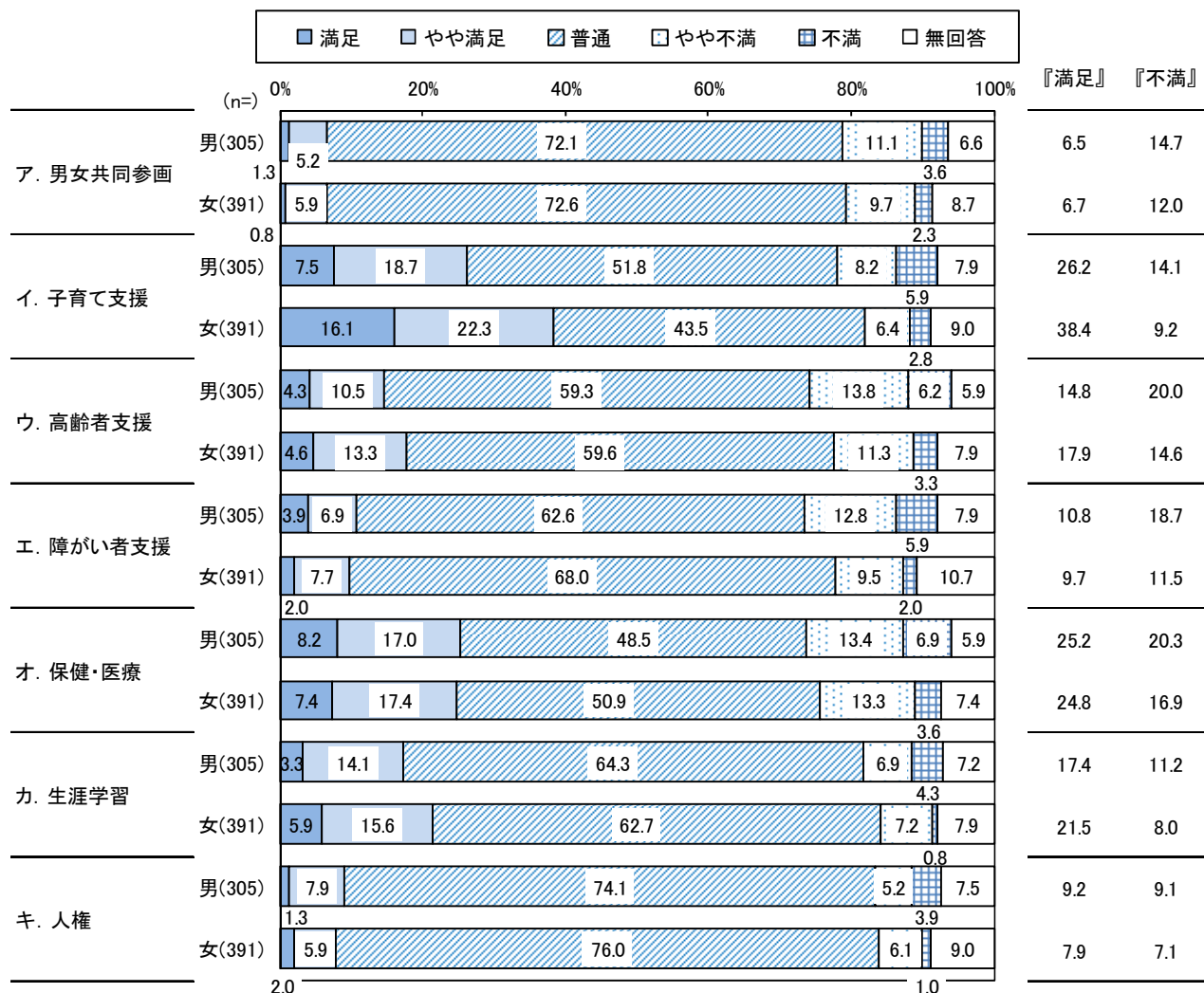
前回調査と比較すると、『満足』は〈生涯学習〉や〈子育て支援〉〈保健・医療〉などで増加しています（各9.8/6.3/5.0ポイント増）。



※前回調査は「第2次総合計画住民アンケート調査(平成29年3月)」

【性別】

多くの項目で『満足』との回答は、女性が男性を上回ります。反対に『不満』はいずれの項目も女性に比べ男性で多くなっています。『満足』との回答が最も多いのは、＜子育て支援＞で、女性が38.4%となっています。



(3) 男女共同参画社会等の実現は身近な問題と思うか

問17 男女共同参画社会や、あらゆる分野での男女平等の実現は、あなたにとって身近な問題ですか。(○は1つ)

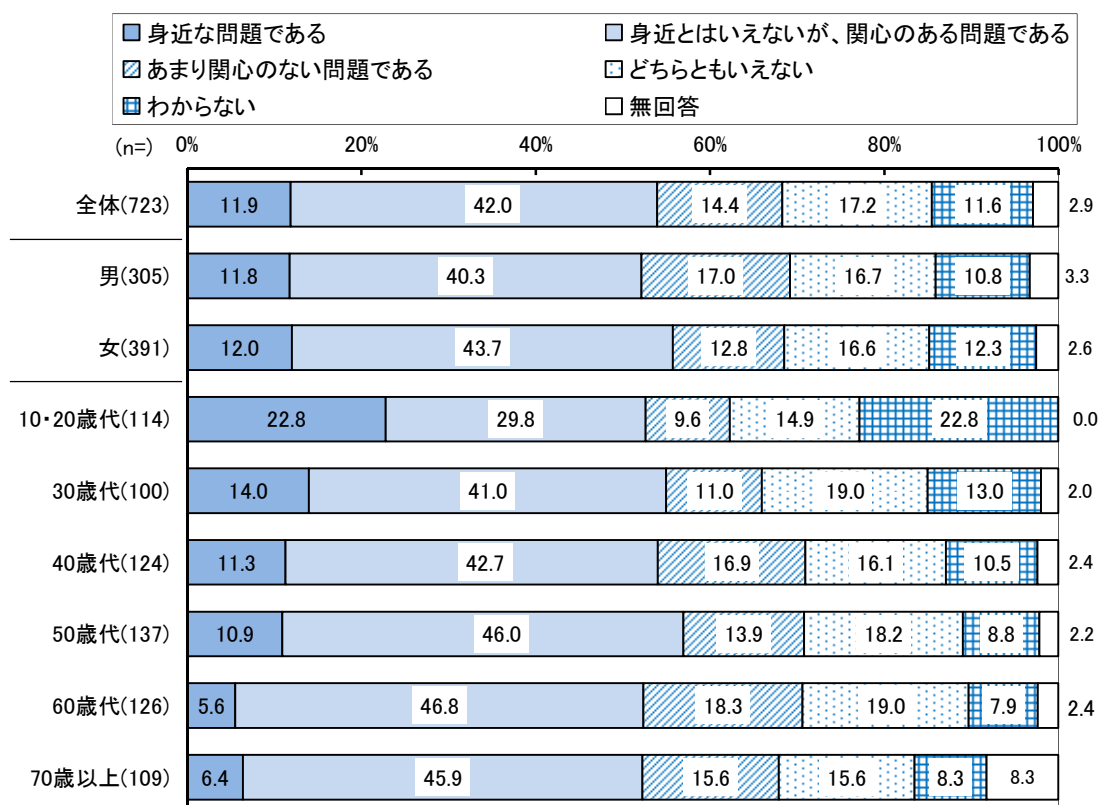
「身近とはいえないが、関心のある問題である」が42.0%で最も多く、以下「どちらともいえない」が17.2%、「あまり関心のない問題である」が14.4%、「身近な問題である」が11.9%、「わからない」が11.6%となっています。

【性別】

男女ともに「身近とはいえないが、関心のある問題である」が4割台であり、他の項目についても大きな差は見られません。

【年代別】

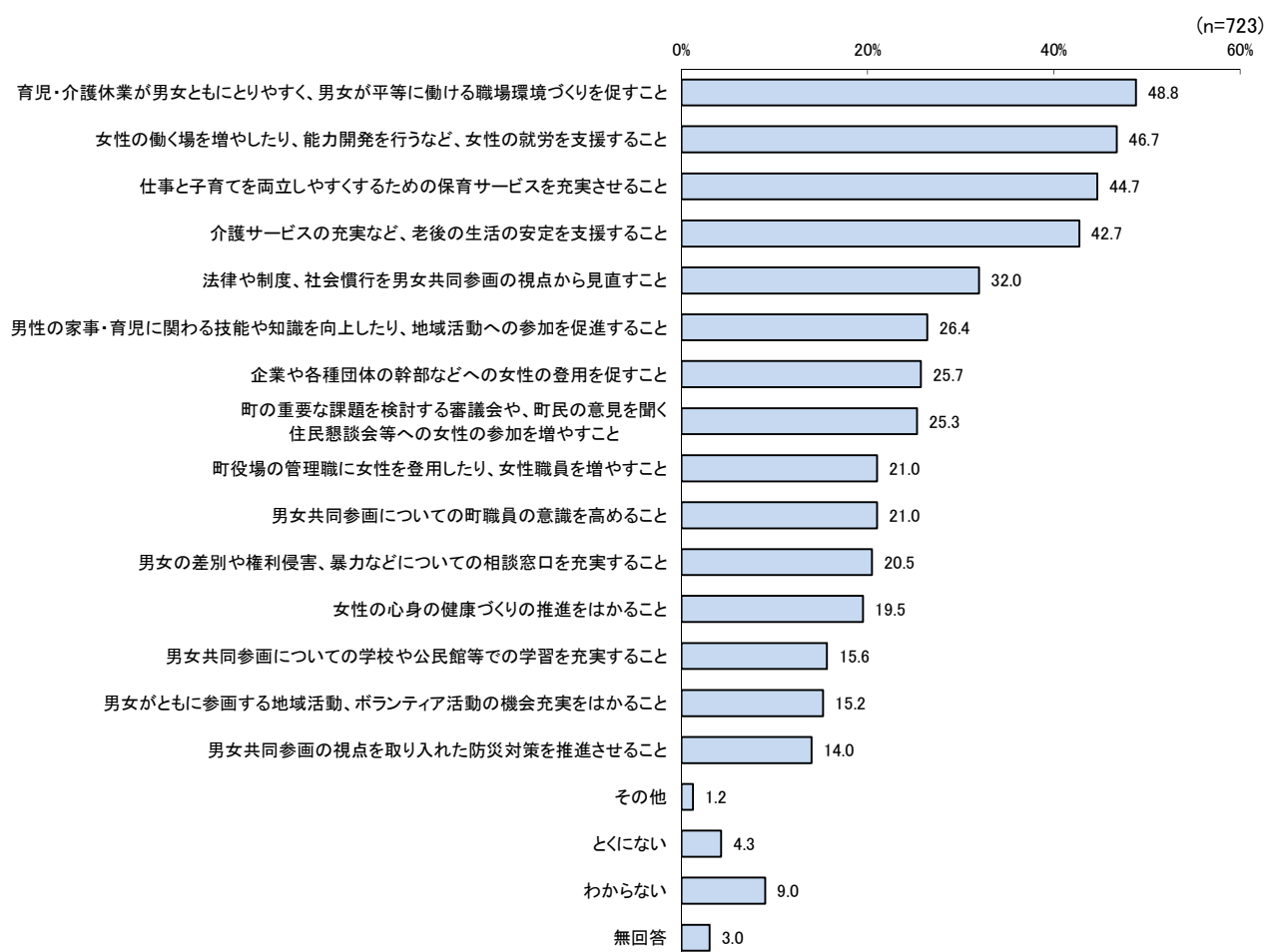
年代別で見ると、「身近な問題である」との回答は、10・20歳代の22.8%が最も多く、若い世代ほど多い傾向にあります。



(4) 男女共同参画社会の実現のために行政が取り組むべきこと

問 18 男女共同参画社会の実現のために、行政はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

男女共同参画社会の実現のために行政が取り組むべきことは、「育児・介護休業が男女ともにとりやすく、男女が平等に働ける職場環境づくりを促すこと」が48.8%で最も多く、以下「女性の働く場を増やしたり、能力開発を行うなど、女性の就労を支援すること」が46.7%、「仕事と子育てを両立しやすくするための保育サービスを充実させること」が44.7%、「介護サービスの充実など、老後の生活の安定を支援すること」が42.7%、「法律や制度、社会慣行を男女共同参画の視点から見直すこと」が32.0%となっています。



【性別】

男女とも「育児・介護休業が男女ともにとりやすく、男女が平等に働ける職場環境づくりを促すこと」を最も多くあげていますが、その割合は女性が男性を上回ります（7.8ポイント差）。そのほか、「女性の働く場を増やしたり、能力開発を行うなど、女性の就労を支援すること」や「介護サービスの充実など、老後の生活の安定を支援すること」は女性が男性を大きく上回ります（各10.4/6.6ポイント差）。

男性では、「町役場の管理職に女性を登用したり、女性職員を増やすこと」が女性よりも多くなっています（5.0ポイント差）。

【年代別】

年代別では、10・20歳代と30歳代の若い世代で「男性の家事・育児に関わる技能や知識を向上したり、地域活動への参加を促進すること」、50歳以上で「介護サービスの充実など、老後の生活の安定を支援すること」が多くあげられています。

(%)

	合計(人)	職場環境づくりを促すこと	育児・介護休業が男女ともに行きやすいこと	女性の働き場を増やすこと	女性の働く場を増やすこと	女性の働き場を増やすこと	女性の働き場を増やすこと	女性の働き場を増やすこと	女性の働き場を増やすこと	女性の働き場を増やすこと	女性の働き場を増やすこと	女性の働き場を増やすこと	女性の働き場を増やすこと
全体	723	48.8	46.7	44.7	42.7	32.0	26.4	25.7	25.3	21.0	21.0		
性別													
男性	305	44.9	41.3	43.0	39.7	34.4	24.3	28.2	25.2	23.9	21.6		
女性	391	52.7	51.7	46.0	46.3	30.7	28.4	24.6	25.3	18.9	20.5		
年代別													
10・20歳代	114	51.8	42.1	46.5	35.1	33.3	35.1	22.8	17.5	18.4	17.5		
30歳代	100	48.0	51.0	47.0	32.0	37.0	34.0	24.0	20.0	22.0	21.0		
40歳代	124	46.8	40.3	40.3	36.3	27.4	22.6	21.0	21.0	21.8	16.1		
50歳代	137	47.4	45.3	46.0	46.0	30.7	23.4	28.5	31.4	24.1	26.3		
60歳代	126	55.6	59.5	55.6	54.8	37.3	26.2	32.5	29.4	19.8	26.2		
70歳以上	109	44.0	43.1	31.2	49.5	27.5	20.2	25.7	30.3	21.1	18.3		

	合計(人)	男女の差別や権利侵害、暴力などに関する相談窓口を充実すること	女性の心身の健康づくりの推進	公民館等での学習を充実すること	男女共同参画の推進	男女共同参画の推進	男女共同参画の推進	男女共同参画の推進	男女共同参画の推進	男女共同参画の推進	男女共同参画の推進	男女共同参画の推進	男女共同参画の推進
全体	723	20.5	19.5	15.6	15.2	14.0	1.2	4.3	9.0	3.0			
性別													
男性	305	20.3	16.7	17.7	19.0	15.4	1.6	4.6	10.5	3.3			
女性	391	20.2	21.2	14.1	12.3	12.0	1.0	3.3	8.2	2.8			
年代別													
10・20歳代	114	21.9	21.1	24.6	14.9	16.7	0.9	2.6	14.0	0.0			
30歳代	100	23.0	24.0	16.0	14.0	12.0	1.0	9.0	12.0	2.0			
40歳代	124	14.5	16.1	11.3	12.1	13.7	3.2	4.0	10.5	3.2			
50歳代	137	19.0	13.9	14.6	10.2	8.8	2.2	2.9	10.2	1.5			
60歳代	126	26.2	27.8	15.1	22.2	20.6	0.0	2.4	4.8	3.2			
70歳以上	109	17.4	15.6	13.8	19.3	11.9	0.0	5.5	2.8	9.2			

11. 自由記述

- ◆ 最後に、「男女平等」や「男女共同参画」「ドメスティック・バイオレンス」「LGBT Q+」に関するご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。
(以下は男女共同参画に関係する意見を中心に抜粋して掲載)

16～19 歳 (4件)

- 体のつくりや筋力により完全な実現が難しいと思った。若い世代でなくとも、社会に対する関心が低いと思う。(女性/学生)
- 若い世代だけではなく、ご年配の層にもしっかりと理解のできるような説明を手紙であったり、窓口を設置するなどして欲しい。(男性/学生)
- 男性の家事、育児に関する知識向上の機会等を設けると書いてあったが、女性は生まれつき知識があるわけではないし、一つ一つ学んでいるのに、男性は知識を身につけてから行うのは、女性に対して少し失礼な部分があると思う。(女性/学生)
- まだ働いていないのでわからない事も多いが、これから良くなって(して)いける事を願っています。(男性/学生)

20 歳代 (9件)

- 無意味な慣習や地域活動が残っており、夫婦の時間が減らされていると感じます。(女性/会社員)
- 女性の給料が低いので、男性が働かないといけない環境になってしまっている。女性の給料が上がれば、男性が専業主婦をする家庭も出てくるかも(男性/会社員)
- “男女平等”という考えがキライです。平等があたりまえな社会になればいいと思います。(女性/会社員)
- 設問の中に「女性の幹部への登用」という文言をよくみますが、誰でもいいから女性を登用すればいいということではなく、男女平等にみて経験や実績、能力が高い人を幹部など役職につけることは今後必要になってくることだと思います。(男性/会社員)
- 時間がかかることだと思います。平等にしたいからと言って、女性の議員を意図的に増やしたりすることは、かえって不平等だと思います。女性も、男性と同じように努力し、勉強し、優秀な人であれば選ばれる。それだけのことだと思います。子育てをしながらしっかりと給料がもらえる町になると、移住者も増えると思います。大変なことです。(女性/会社員)
- 男女で違いがあることが区別なのか差別なのか考えるべき(男性/公務員・団体職員)

30 歳代 (6件)

- 家庭生活では、お互いに自分のことは自分でやる！がベースになっているのでどちらかに偏ることが少ないです。協力・思いやりがあればできることだと思っています。(女性/会社員)
- 現在の社会制度の否定から考えるのではなく、“今の状態が妥当な判断の結果である”という事を前提に、男女共同参画社会を50年～100年単位で実現して頂ければと思います。(男性/公務員・団体職員)
- 様々な考え方がある中で、意見を押しつけあう事の無いことを1番に考える事で、実現が可能になると思う。又、先輩方の考えが古いのも実現を難しくしていて、年下の人達の意

見をもっと尊重すべきと思う。(男性/公務員・団体職員)

- 私自身は、世の中の性別のバランスを取るために「女性に教育を」とか「役員に女性を」という考え方ではなく、平等にフラットにその場にふさわしい能力の者が選ばれるべきだと思う。性別ではなく、個人の能力、資質が全てであろう。ふさわしくない女性を無理にすすめる必要もないし、ふさわしくない男性が選ばれるならそれも改善すべきである。徹底的に適材適所、能力主義でいいと思う。(女性/パート・アルバイト等)

40 歳代 (11件)

- 行政として女性の社会参画が目標となっていることは理解できます。ですが、やはり自分から責任のある立場に立ちたい女性は現実的に少ないと思います。(数値目標を達成しようとしても難しいのではと感じます。) 社会のシステム、人々の意識など課題がたくさんあります。(女性/公務員・団体職員)
- 男女でやれる事を増やす。(例) 消防団=男など昔からの固定されているイメージを変える。(男性/公務員・団体職員)
- まだまだ子育ては女性、仕事は男性、介護は女性など分担されている気がします。そのみえない分担の壁みたいなものが取り払われる様な取り組みがないと女性の進出はまだむずかしいのかな?と考えています。(女性/パート・アルバイト等)
- 行政が進んで協力的じゃなければ何も進まないと思います。(女性/職業無回答)

50 歳代 (12件)

- 家庭の中で男性が当たり前のように家事をしている姿を見て育った子供達が大人になる頃、初めて男女共同参画社会が実現すると思う。子育て世代の男性が家事や育児を担える様、家庭の中での役割を与える事はとても大切だと思う。“仕事で疲れている息子に子供の世話をさせるなんてかわいそう・・・”と思うじいじ、ばあばの意識改革も必須。一日中家にいて子供の世話を 24 時間無休でしている女性は、子育てから逃げる事はできない。子供と 24 時間一緒にいてママをしているより、職場で仕事をしている時の方が楽なのは事実。「2人で育てる」という意識を男女共に妊娠した時点で持てるようサポートする必要があると思う。(女性/会社員)
- 男女共同参画社会は、家庭、職場、教育、日常生活等あらゆる場面での意識付けは必要であり、メディア、SNS 等を通じて分かりやすく伝える手法を考えていけたら取り組みやすくなると思います。SDGs の目標でもある「ジェンダーの平等」との関連性を含めて、幅広く考えるきっかけづくりを提供することも必要であると考えます。(男性/公務員・団体職員)
- 女性の権利や育児体制など増えてきた(充実してきた)気がしますが、男性の意識や生活スタイルが変わらないと共同参画社会の実現は遠いと思います。(仕事も家事も育児も女性がするのは・・・) 若者にとって魅力ある街づくりをしていかないと、日々の生活が充実しないと、人口の流出は止まらず高齢化社会が加速すると思います。(女性/公務員・団体職員)
- 役場などで募る活動委員などの男女比をコントロールする(例) 青少年相談員などのように女性の比率を設定していくなど。(男性/農林漁業)
- 少子高齢化に伴い、労働力の低下が心配されますが、外国人労働者に頼りすぎです。女性が子供を安心して産み育てられるように、あまり女性の社会進出をあおったり、うながす

のはどうかと思います。(女性/パート・アルバイト等)

- 男女共にチャンスの平等は大切だと思います。男女は平等ではありませんが、男性にしかできないこと、女性にしかできないこともあるのでそれについては役割の違いとして受け止め、男女の役割の違いを生かしながら共に生きていく道を考えて方がよいと考えています。今の日本の社会は、家庭に入る女性に対する一種の軽蔑感が男女共にあり、それがかなり災いしているように感じます。家庭を護る、支える、家事、育児、介護も立派な仕事という価値観を男女共に持ち、お互いに尊重しあい、だれもが暮らしやすい社会を実現したいと考えています。(女性/パート・アルバイト等)
- 単なる人数合わせには反対。能力、実力によって登用されるべき。言いかえれば、能力、実力がある女性ならばどんどん登用すればよい。本人のやる気も必要。やる気がなければ負担になるだけだと思う(女性/無職)

60歳代(17件)

- より良い町づくりの為に協力できればと思います。育児や介護で心身の疲れている方々のケアが出来る場所、環境を作って下さいます様お願い申し上げます。(女性/会社員)
- 男女が平等に働ける職場環境づくりを促すこと(男性/公務員・団体職員)
- 男女共同参画社会の実現は、ジェンダー平等な社会と考えます。子供の頃からの教育、町職員の教育、女性の声を聞くこと。長い歴史の中でのつくられた慣習は、なかなか女性の活躍の場は広がりにくいと思います。公の場、町職員の働きかけなど、とても大切だと思います。(女性/自営業)
- 日本は男尊女卑の国で、中々その精神が抜けず、特に田舎や年配の方には根強く残っているように感じます。しかし、若い世代は少しずつ考えが進歩している様で、根気強く少しずつ運動を進めていけば皆の考えも変わり、女性が生活しやすい世の中になるのではないのでしょうか？まだまだ道のりは長いですが、頑張ってください。(女性/自営業)
- 男女共同参画社会の実現にあたって強く希望することは、安心して子育てのできる町の実現です。特に保育は、保育・幼児教育の専門的な知識を持った方にトップについていただき、現場をよくみていただきたい。(女性/家事専業)
- このような意識調査は無作為の町民も良いが、成人女性にしぼっての意識調査もやるべきです。理由は、何が男女共同参画、働く事、出産、育児の障害になっているか、障害だったか、あるいはDV被害かを一番知っているのは当事者達です。(男性/パート・アルバイト等)
- 現場の生の声を聞いてほしい。(女性/パート・アルバイト等)

70歳以上(8件)

- 産休育休後の復職を法制化し、いつでも同じ会社、組織に復帰出来る様にする。会社、組織に社員等の保育をになう法整備をし、女性が男性と同等の活動が出来る様にする。(男性/無職)
- 内容を理解してもらうには、わかり易い話しや、演劇など開催してもらうのも良いと思う(女性/無職)

Ⅲ 町内企業実態調査

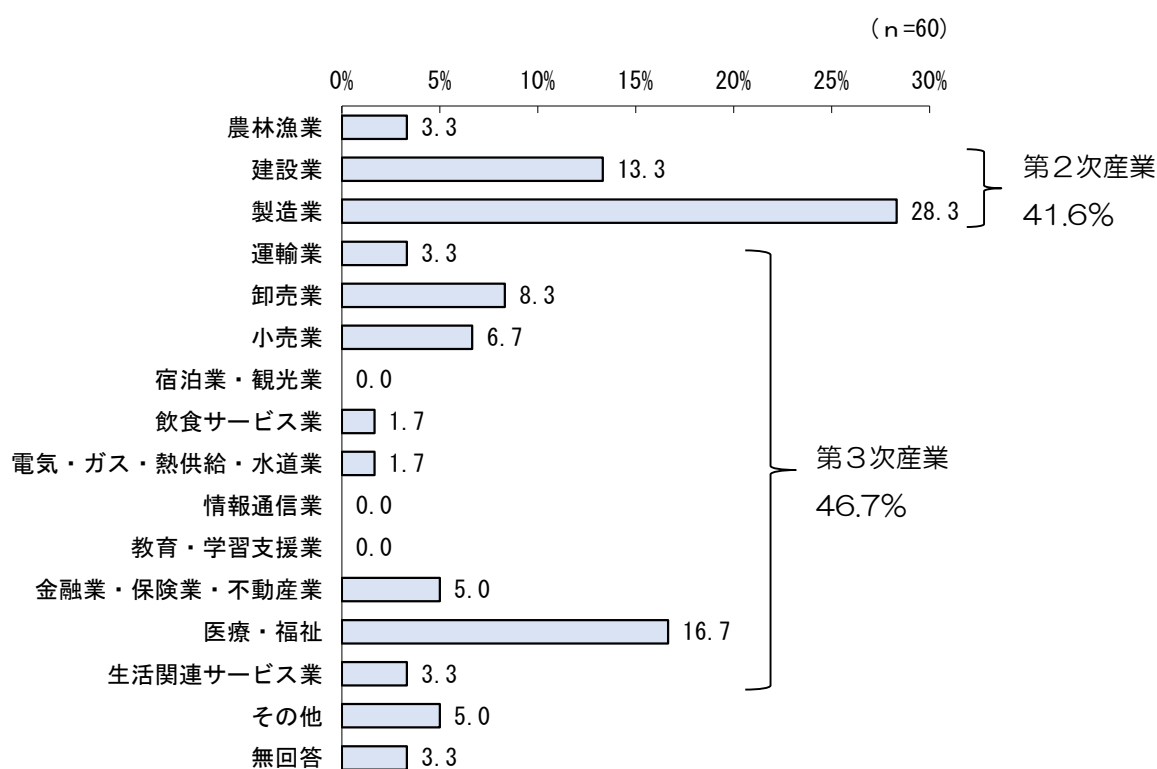
1. 現在の事業所の状況について

問1 貴事業所の状況について伺います。(業種は1つに○、人数は数字を記入)

(1) 業種

「製造業」が28.3%で最も多く、以下「医療・福祉」が16.7%、「建設業」が13.3%、「卸売業」が8.3%、「小売業」が6.7%、「金融業・保険業・不動産業」が5.0%となっています。

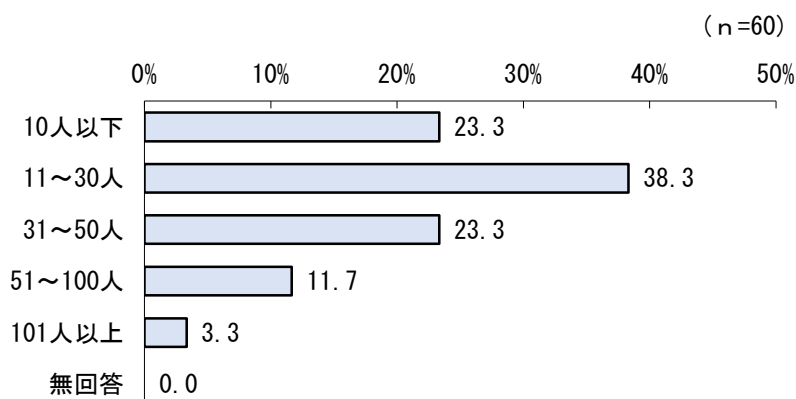
産業分類としての区分で見ると、【第2次産業】が41.6%、【第3次産業】が46.7%であり、同程度となっています。



(2) 従業員数

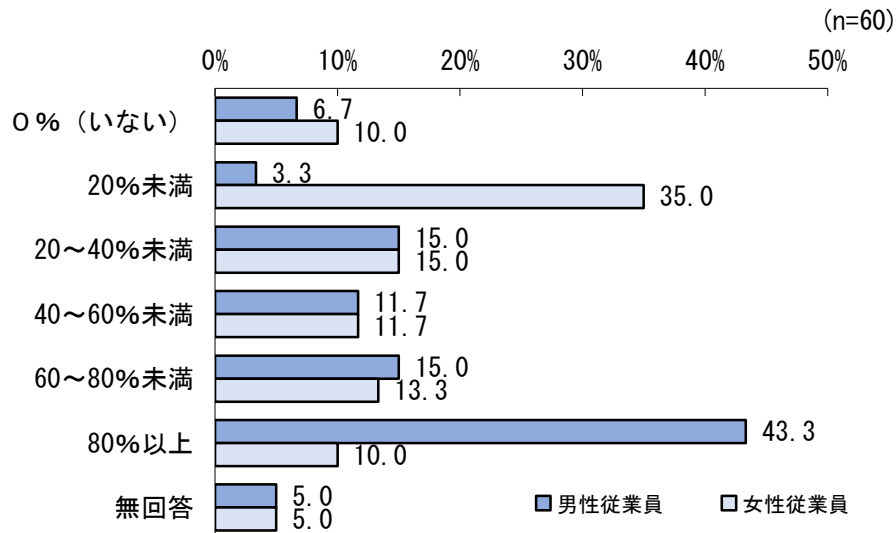
① 従業員数全体

「11~30人」が38.3%で最も多く、以下「10人以下」と「31~50人」がともに23.3%、「51~100人」が11.7%、「101人以上」が3.3%となっています。



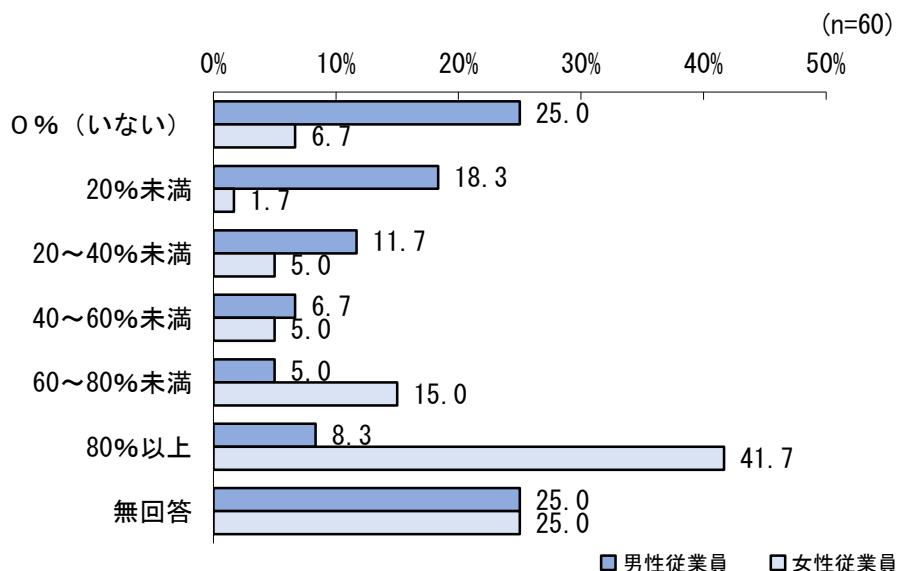
② 正規社員における性別の割合

正規社員における性別の割合については、女性従業員では「20%未満」の35.0%が最も多く、「0%（いない）」も10.0%となっています。一方で、男性従業員は「80%以上」が43.3%で最も多いなど、正規社員は男性が多い傾向にあります。



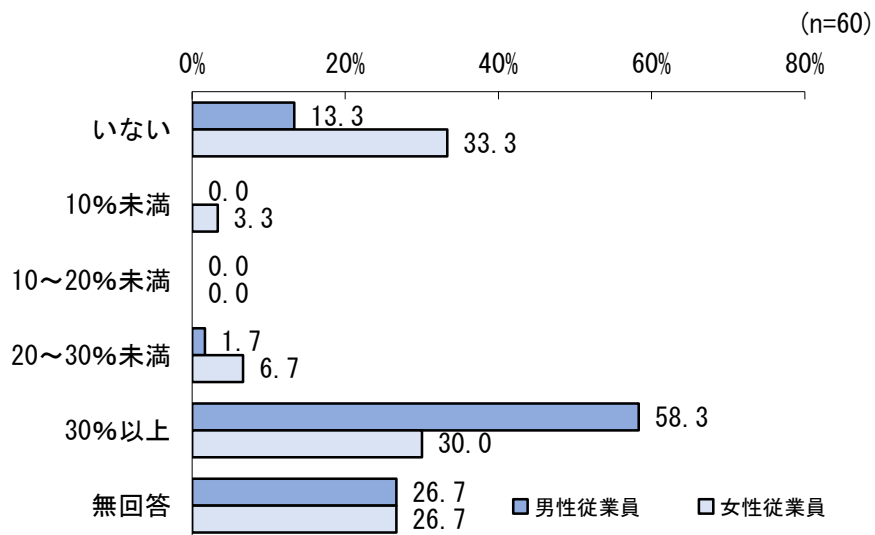
③ 非正規社員における性別の割合

非正規従業員における性別の割合については、女性従業員では「80%以上」が41.7%で最も多いのに対し、男性従業員は「0%（いない）」25.0%、「20%未満」が18.3%など、非正規社員は女性が多い傾向にあります。



③ 管理職における性別の割合

管理職の性別の割合について、男性従業員では「30%以上」が58.3%で最も多く、6割近くとなっています。一方で女性従業員は、「いない」33.3%が最も多く、「30%以上」の回答も3割にとどまります。

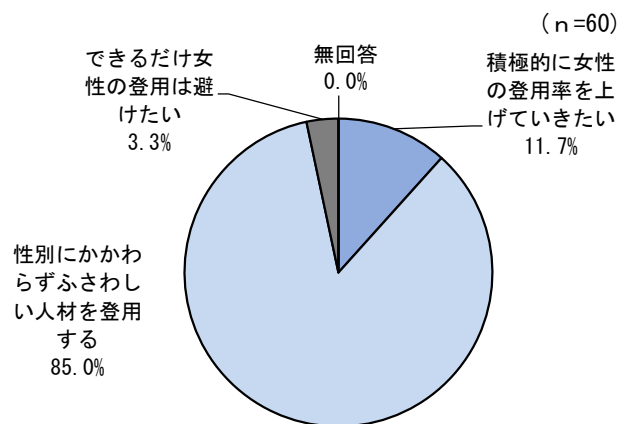


2. 女性の活躍推進・管理職登用について

(1) 女性管理職の登用についての考え方

問2 貴社では女性管理職の今後の登用について、どのようにお考えですか。(1つに○)

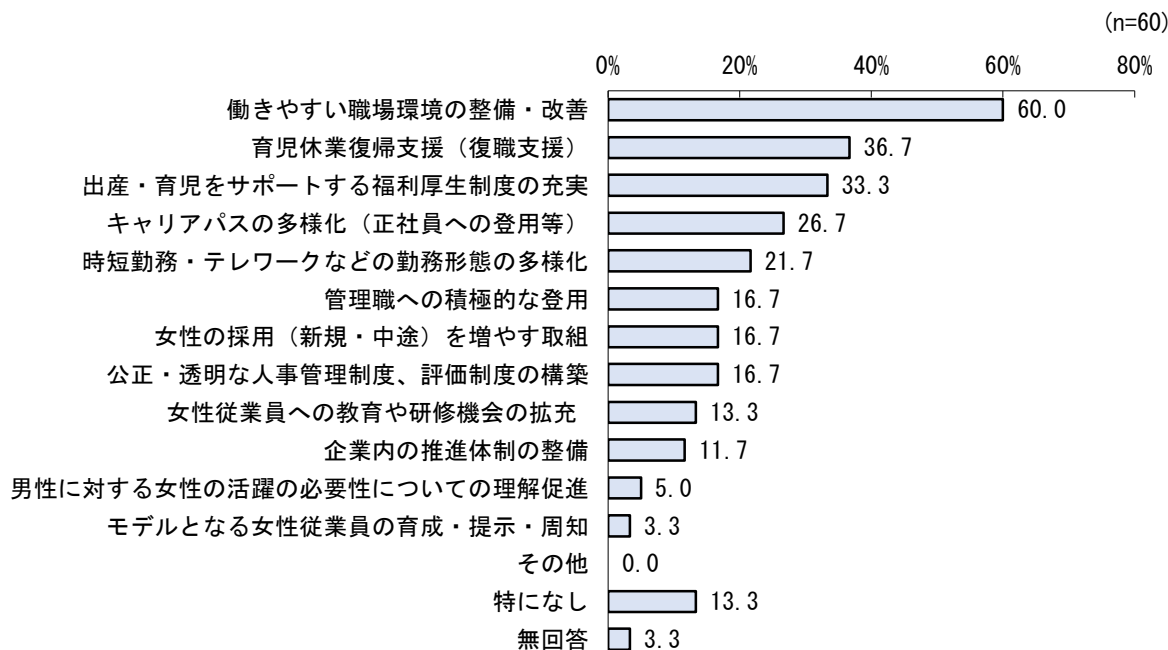
「性別にかかわらずふさわしい人材を登用する」が85.0%で圧倒的に多く、次いで「積極的に女性の登用率を上げていきたい」が11.7%、「できるだけ女性の登用は避けたい」についてはわずかに3.3%となっています。



(2) 女性の活躍推進のための取組

問3 女性の活躍推進のために取り組んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

女性の活躍推進のための取組について、「働きやすい職場環境の整備・改善」が60.0%で最も多く、以下「育児休業復帰支援（復職支援）」が36.7%、「出産・育児をサポートする福利厚生制度の充実」が33.3%、「キャリアパスの多様化（正社員への登用等）」が26.7%、「時短勤務・テレワークなどの勤務形態の多様化」が21.7%となっています。

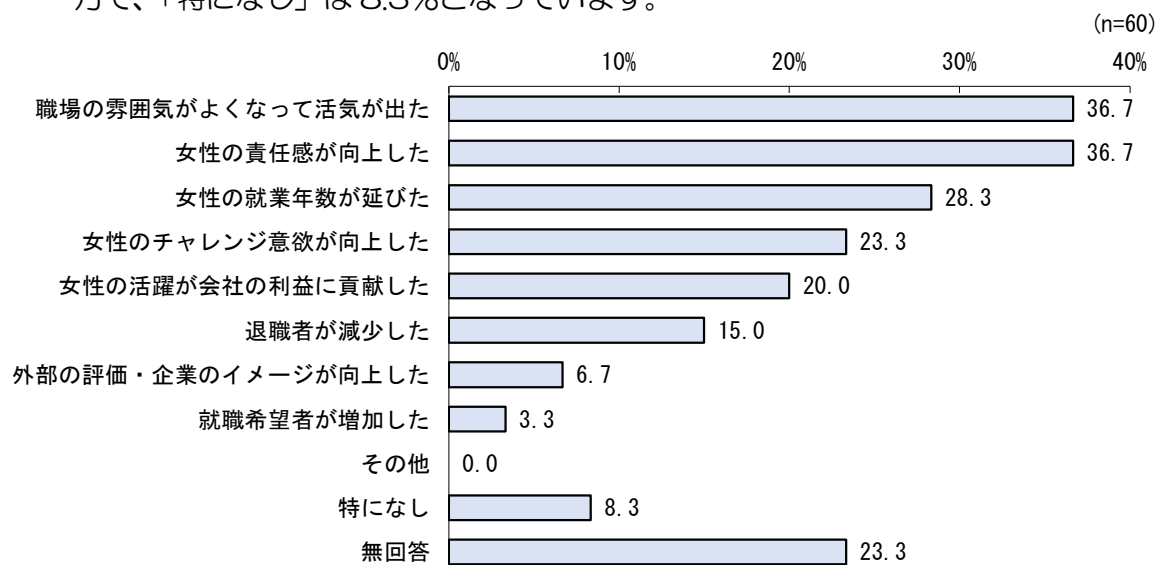


(3) 女性活躍推進による効果

問4 「女性の活躍推進」を進めることにより、どのようなメリットがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

「職場の雰囲気はよくなって活気が出た」と「女性の責任感が向上した」がともに 36.7%、「女性の就業年数が延びた」が 28.3%、「女性のチャレンジ意欲が向上した」が 23.3%、「女性の活躍が会社の利益に貢献した」が 20.0%、「退職者が減少した」が 15.0%となっています。

一方で、「特になし」は 8.3%となっています。

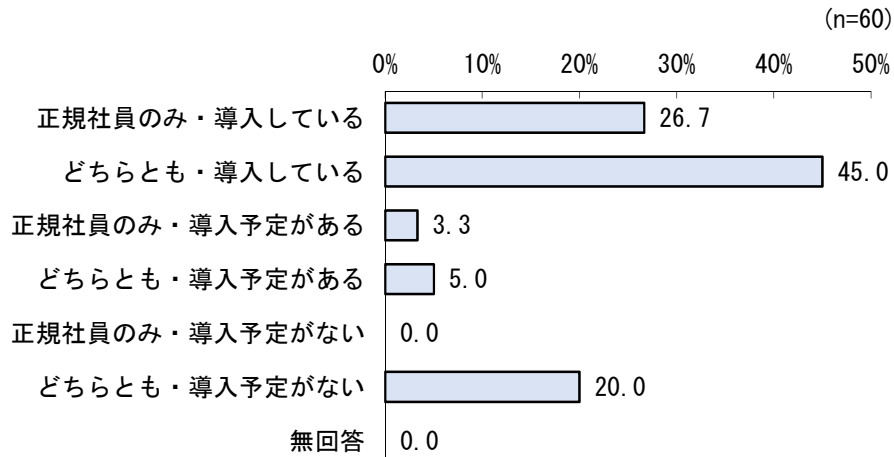


3. 育児休業とワーク・ライフ・バランスについて

(1) 育児休業制度の導入

問5 育児休業制度を導入していますか。(1つに○)

育児休業制度を正規社員と非正規社員の「どちらとも・導入している」が45.0%で最も多く、次いで、「正規社員のみ・導入している」が26.7%、「どちらとも・導入予定がない」が20.0%となっています。

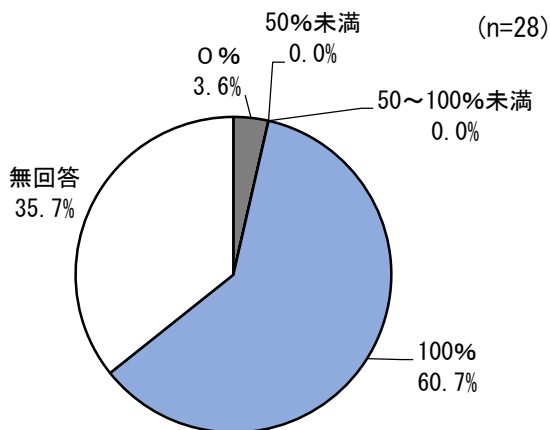


(2) 育児休業の取得率

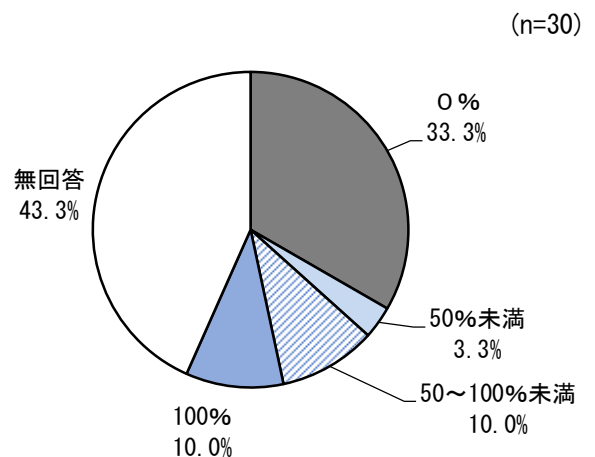
問6 育児休業を取得した、過去3年間の従業員数についてお答えください。

育児休業の取得率を算出したところ、女性従業員の取得率は「100%」が60.7%で最も多くなっているのに対し、男性従業員は「0%」が33.3%であるなど、育児休業の取得率が女性より低い傾向にあります。

①女性従業員



②男性従業員

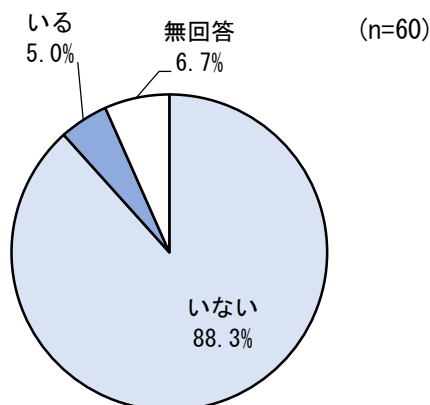


(3) 出産・育児を理由とした女性従業員の退職

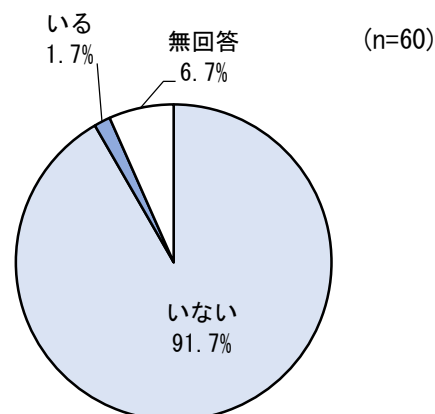
問7. 過去3年以内に、女性従業員のうち、出産・育児を理由に退職された方はいらっしゃいますか。(あてはまるものに○) いらっしゃる場合には、その人数をご記入ください。

出産・育児を理由とした女性従業員の退職者については、「いない」との回答が出産では88.3%、育児では91.7%となっています。

①出産による退職者



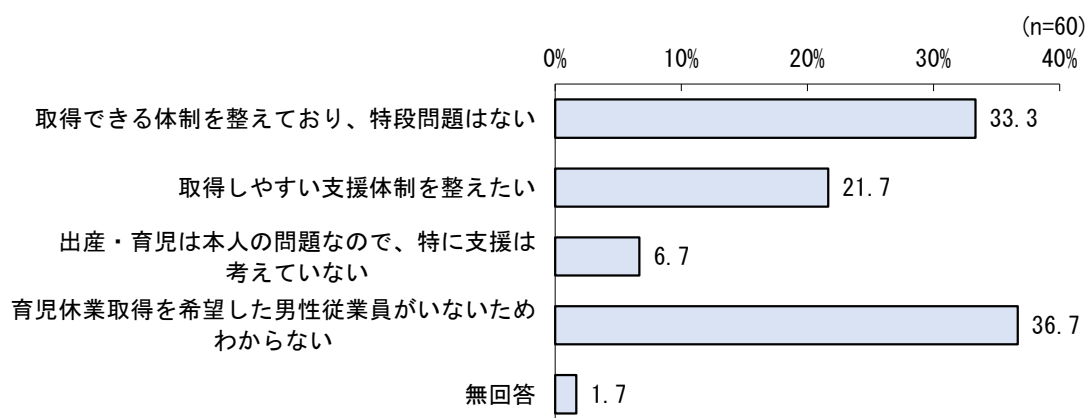
②育児による退職者



(4) 男性従業員の育児休業取得についての考え方

問8 男性従業員の育児休業について、どのように考えていますか。(1つに○)

男性の育児休業取得について、「育児休業取得を希望した男性従業員がいないためわからない」が36.7%で最も多く、以下「取得できる体制を整えており、特段問題はない」が33.3%、「取得しやすい支援体制を整えたい」が21.7%、「出産・育児は本人の問題なので、特に支援は考えていない」が6.7%となっています。

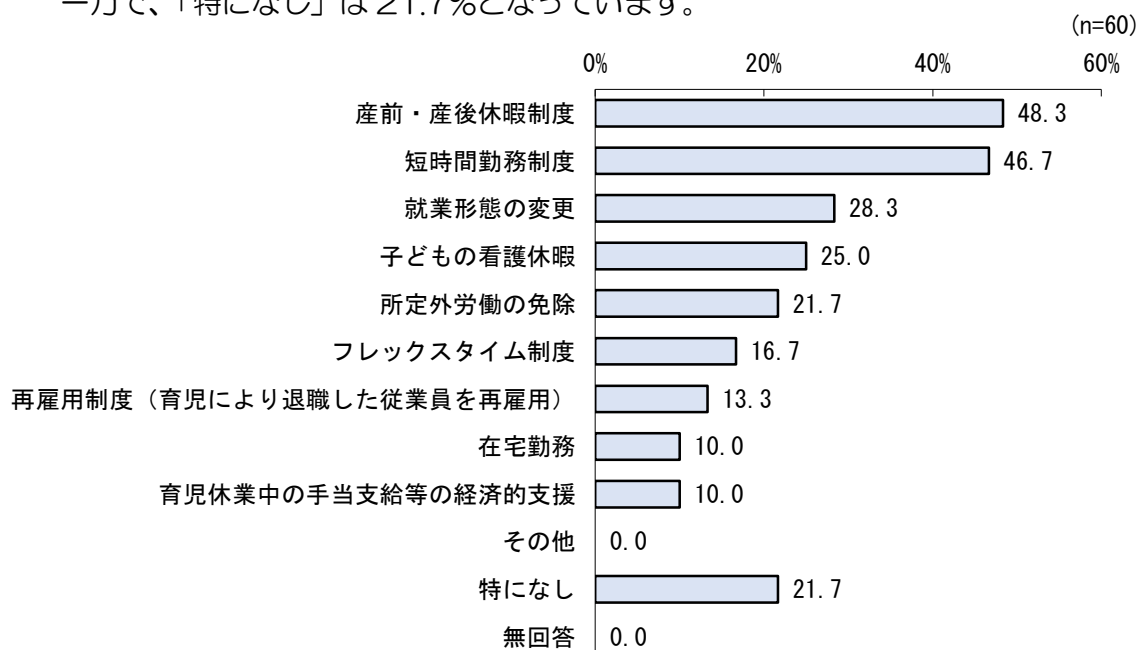


(5) 実施する仕事と家庭の両立支援制度

問9 貴事業所で、次の項目の中で取り組まれているものはありますか。(あてはまるものに○)

実施する仕事と家庭の両立支援制度について、「産前・産後休暇制度」48.3%と「短時間勤務制度」46.7%がともに多くあげられ、以下「就業形態の変更」が28.3%、「子どもの看護休暇」が25.0%、「所定外労働の免除」が21.7%、「フレックスタイム制度」が16.7%となっています。

一方で、「特になし」は21.7%となっています。



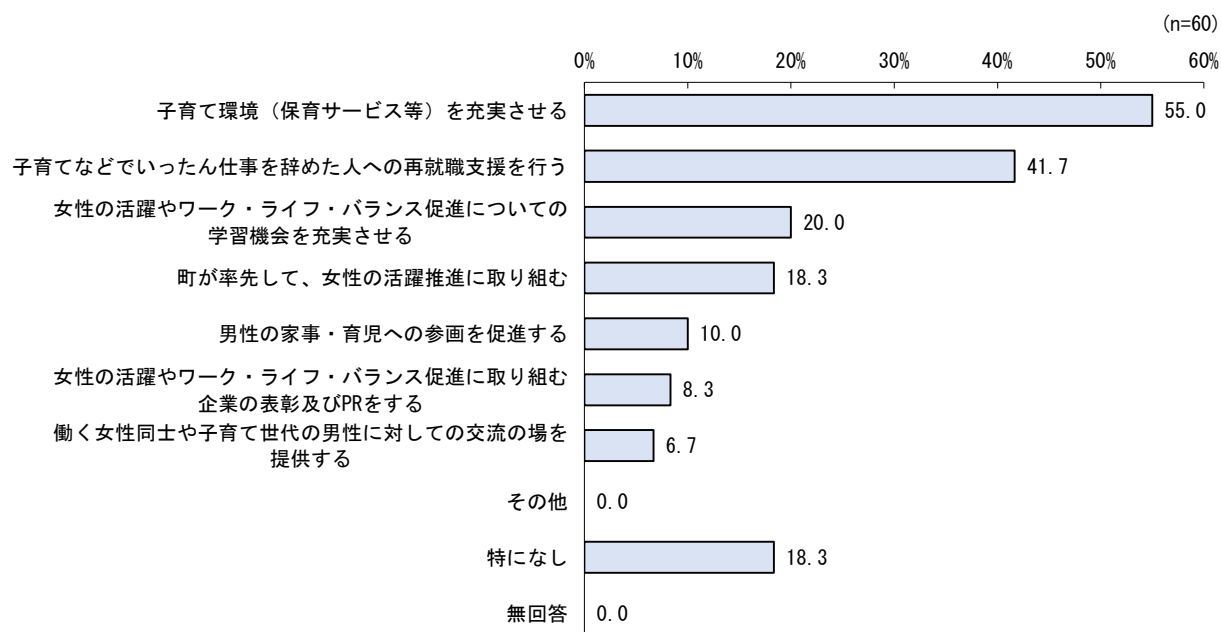
■具体的な例

○通常勤務 7:00~16:00 (8h 勤務) ですが、本人希望により 8:00~16:00 (7h 勤務) で採用し、ひとり親世帯が働きやすい環境にしている。

(6) 女性の活躍推進等にあたり町に期待する取組

問10 今後、女性の活躍推進やワーク・ライフ・バランス促進を図るために、横芝光町にどのような取組を期待していますか。(あてはまるものすべてに○)

町に期待する取組について、「子育て環境（保育サービス等）を充実させる」55.0%と「子育てなどでいったん仕事を辞めた人への再就職支援を行う」41.7%が特に多くあげられ、以下「女性の活躍やワーク・ライフ・バランス促進についての学習機会を充実させる」が20.0%、「町が率先して、女性の活躍推進に取り組む」が18.3%となっています。

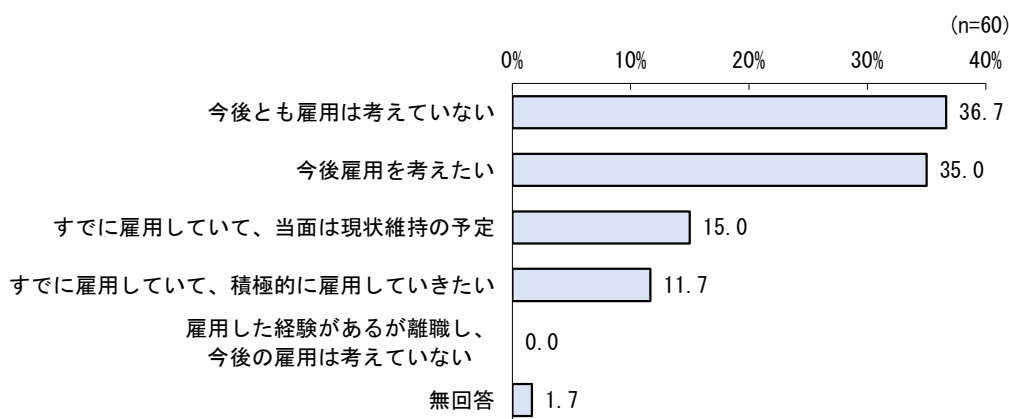


4. 外国人材について

(1) 外国人の雇用についての考え方

問11 貴事業所では、外国人の雇用について、どのように考えていますか。(1つに○)

「今後とも雇用は考えていない」36.7%と「今後雇用を考えたい」35.0%が同程度であり、以下「すでに雇用していて、当面は現状維持の予定」が15.0%、「すでに雇用していて、積極的に雇用していきたい」が11.7%となっています。

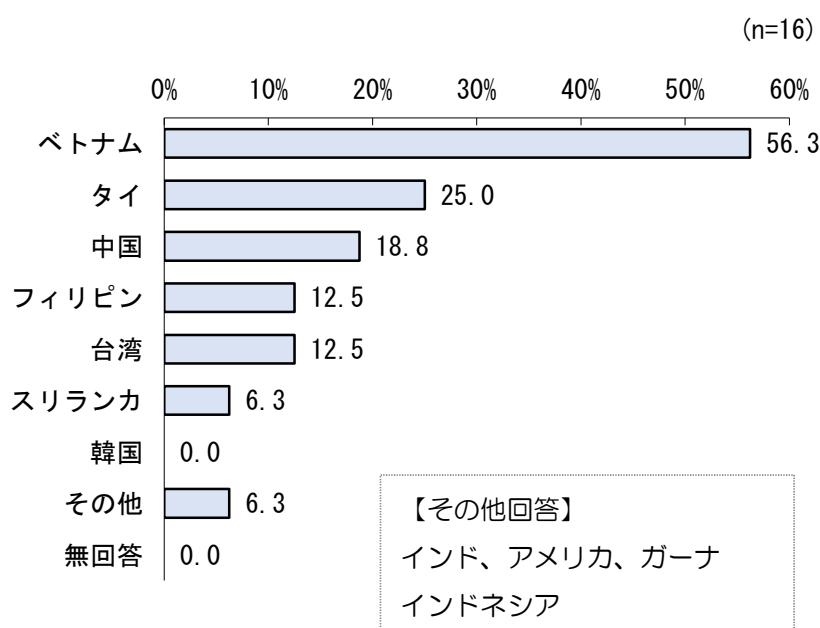


(2) 外国人従業員や支援制度について

問12 貴事業所で雇用している外国人と外国人に対しての支援制度について伺います。(あてはまるものすべてに○)

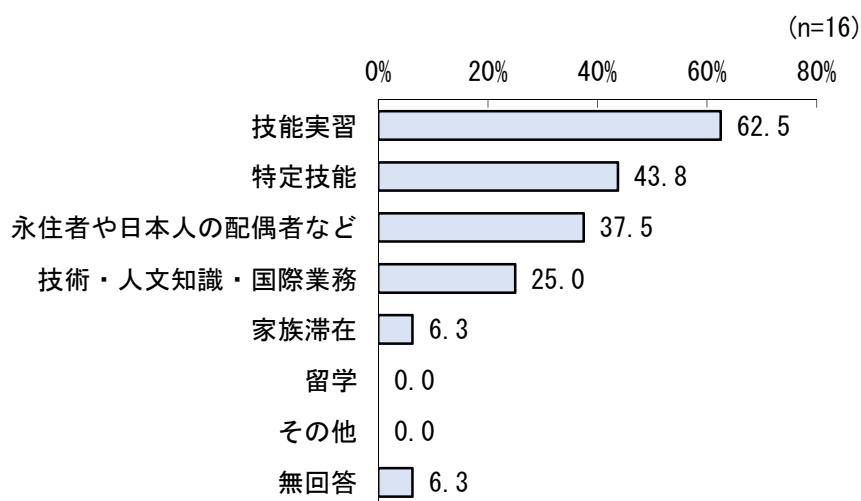
① 国籍

「ベトナム」が56.3%で最も多く、以下「タイ」が25.0%、「中国」が18.8%、「フィリピン」と「台湾」がともに12.5%、「スリランカ」が6.3%となっています。



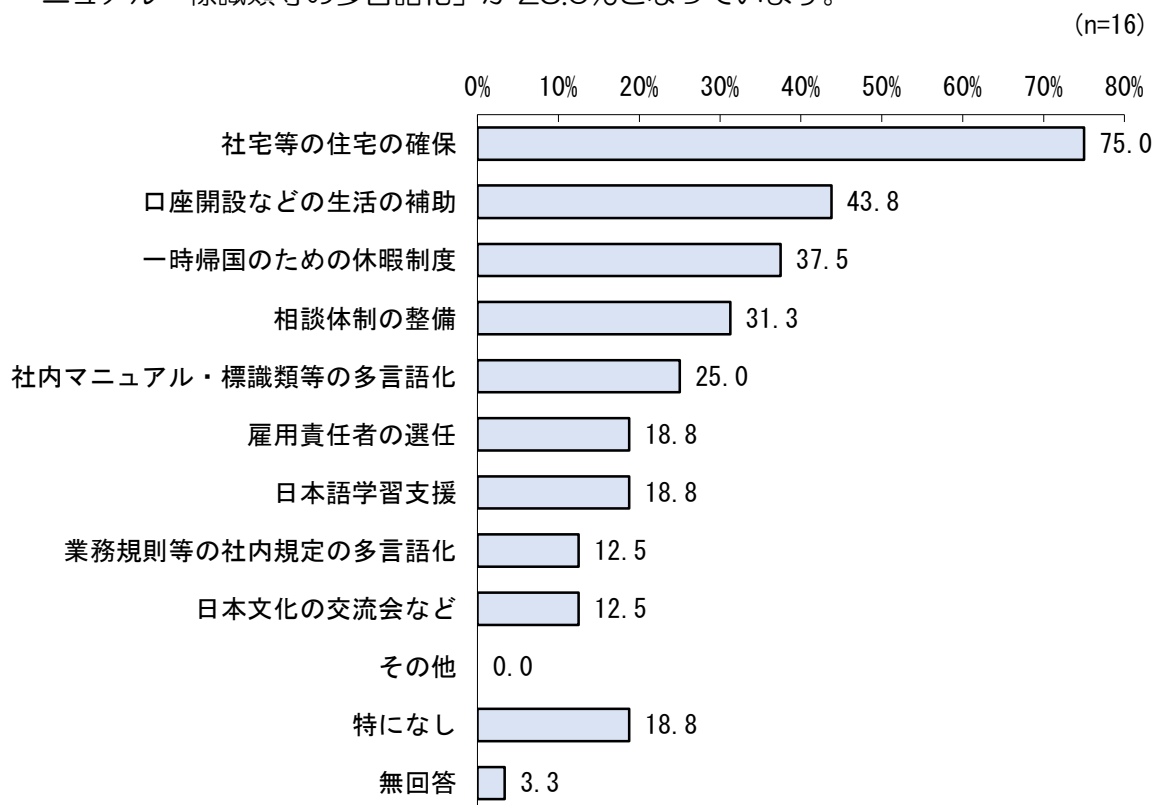
② 在留資格

「技能実習」が62.5%で最も多く、以下「特定技能」が43.8%、「永住者や日本人の配偶者など」が37.5%、「技術・人文知識・国際業務」が25.0%、「家族滞在」が6.3%となっています。



③ 支援制度

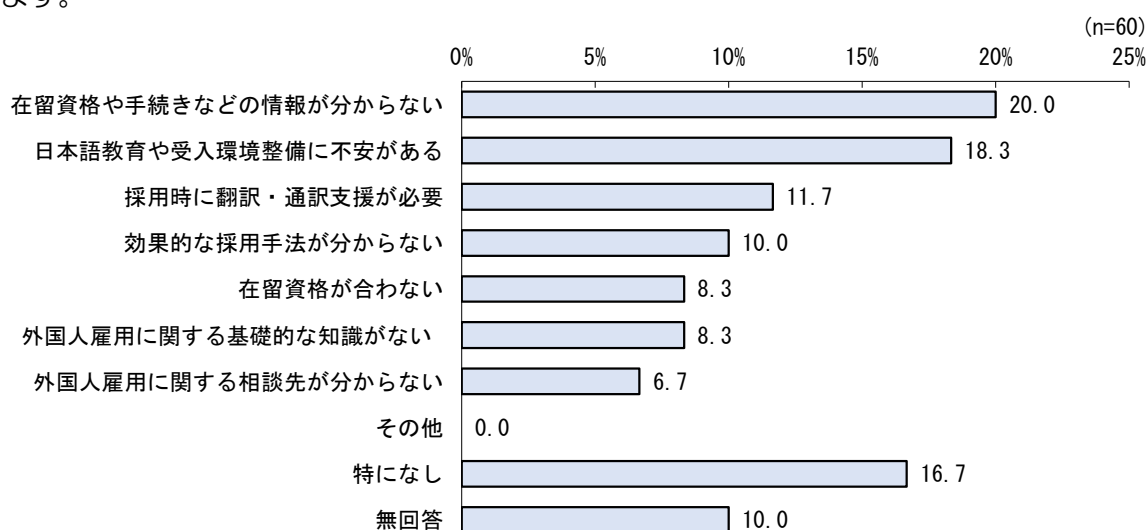
「社宅等の住宅の確保」が75.0%で最も多く、以下「口座開設などの生活の補助」が43.8%、「一時帰国のための休暇制度」が37.5%、「相談体制の整備」が31.3%、「社内マニュアル・標識類等の多言語化」が25.0%となっています。



(3) 外国人を雇用する上での課題

問13 外国人を雇用する上での課題について伺います。(あてはまるものすべてに○)

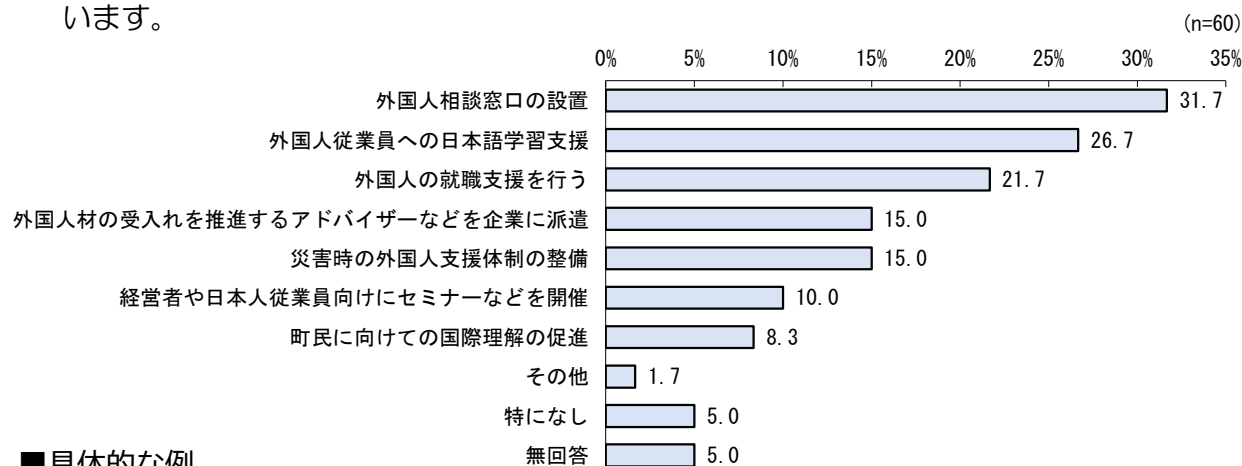
外国人を雇用する上での課題について、「在留資格や手続きなどの情報が分からない」が20.0%で最も多く、以下「日本語教育や受入環境整備に不安がある」が18.3%、「採用時に翻訳・通訳支援が必要」が11.7%、「効果的な採用手法が分からない」が10.0%、「在留資格が合わない」と「外国人雇用に関する基礎的な知識がない」がともに8.3%となっています。



(4) 外国人材の受入れに向けて町に期待する取組

問14 今後、外国人材の受入れを図るために、横芝光町にどのような取組を期待していますか。(あてはまるもの全てに○)

町に期待する取組について、「外国人相談窓口の設置」が31.7%で最も多く、以下「外国人従業員への日本語学習支援」が26.7%、「外国人の就職支援を行う」が21.7%、「外国人材の受入れを推進するアドバイザーなどを企業に派遣」と「災害時の外国人支援体制の整備」がともに15.0%、「経営者や日本人従業員向けにセミナーなどを開催」が10.0%となっています。



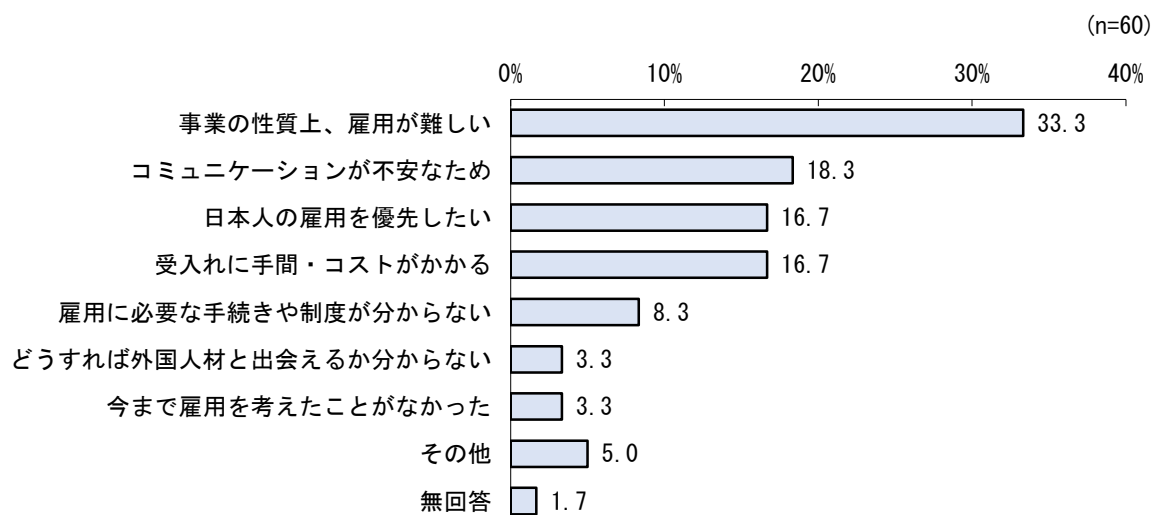
■具体的な例

○町から発行される物、例えばゴミ出しルール、分別ルール、ワクチン接種などの案内の他言語の物がほしい。

(5) 外国人を雇用しない理由

問 15 外国人材を雇用しない理由について伺います。(あてはまるものすべてに○)

外国人を雇用しない理由について、「事業の性質上、雇用が難しい」が33.3%で最も多く、以下「コミュニケーションが不安なため」が18.3%、「日本人の雇用を優先したい」と「受入れに手間・コストがかかる」がともに16.7%、「雇用に必要な手続きや制度が分からない」が8.3%となっています。



【その他回答】

- 拘束時間外での生活指導ができないため。
- 当事業所では雇用の権限を持っていないため。
- 対象職種外のため。
- 農業には閑散期があるが、外国人労働者には固定給を支払わねばならない。
無理に仕事を作ると、日本人の女性パートの雇用の維持ができなくなる。
パートの人数がそろわないと仕事が回らなくなるため。

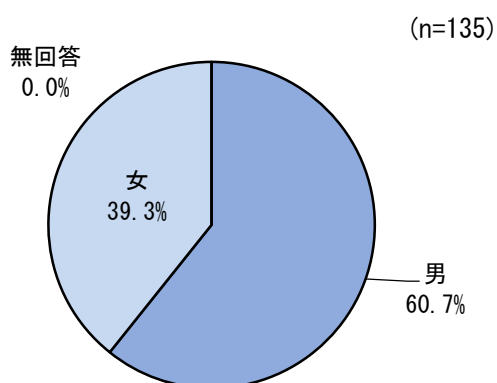
IV 職員意識調査

1. 回答者の属性

◆ あなた自身のことについておたずねします。

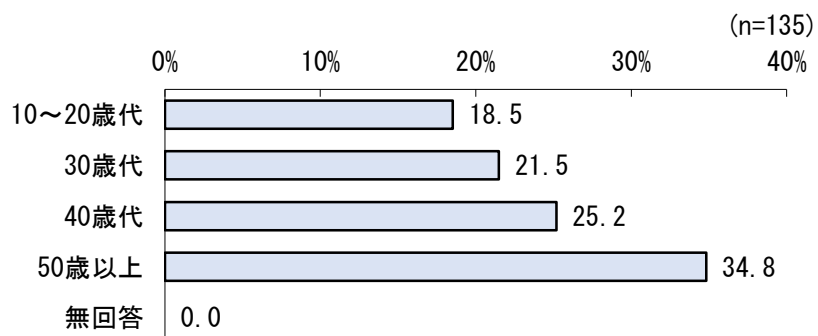
(1) 性別

「男」が60.7%、「女」が39.3%となっています。



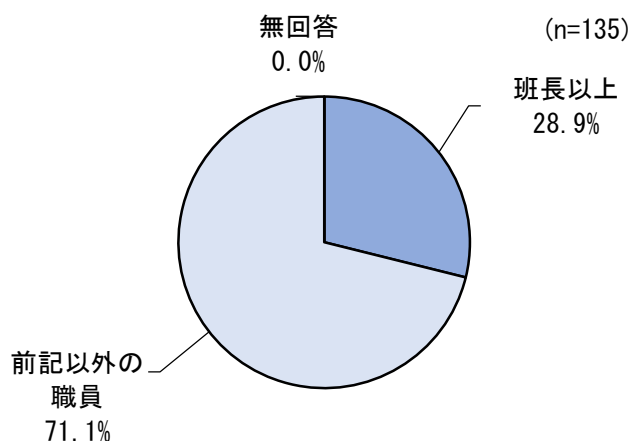
(2) 年齢

「50歳以上」が34.8%で最も多く、以下「40歳代」が25.2%、「30歳代」が21.5%、「10~20歳代」が18.5%となっています。



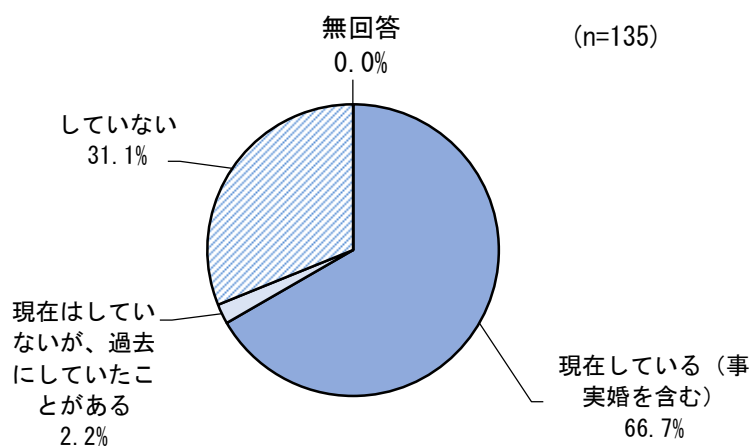
(3) 職階

「班長以上」が28.9%、「前記以外の職員」が71.1%となっています。



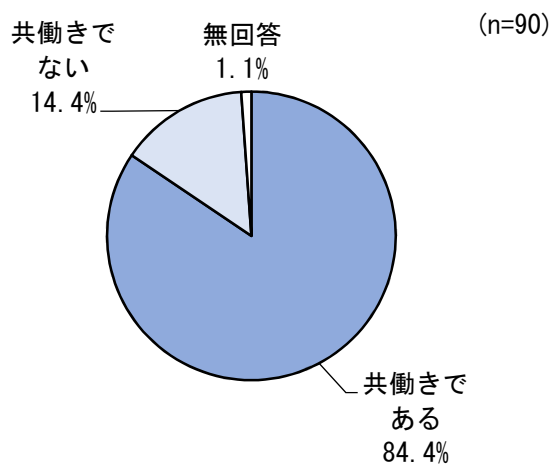
(4) 婚姻状況

「現在している（事実婚を含む）」が66.7%、「していない」が31.1%、「現在はしていないが、過去にしていたことがある」が2.2%となっています。



(5) 共働きの状況

「共働きである」が84.4%、「共働きでない」が14.4%となっています。



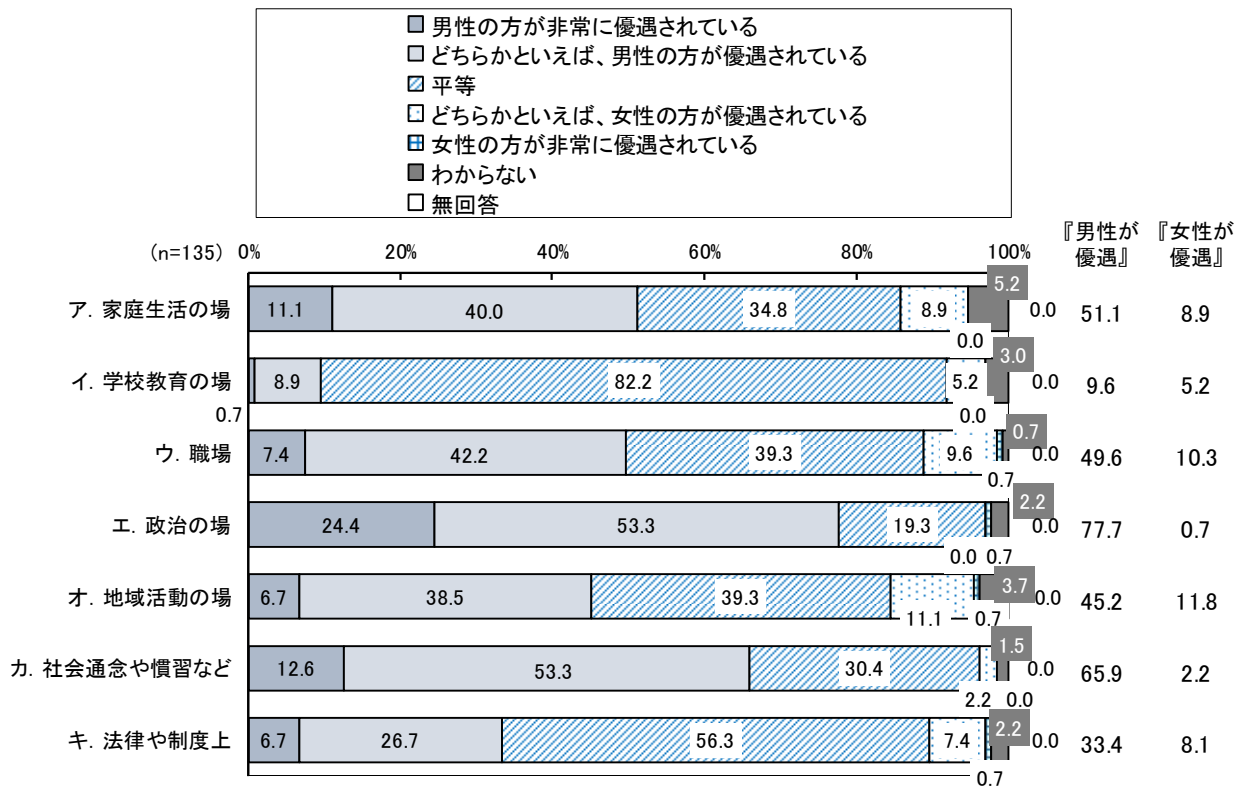
2. 男女の平等感について

(1) 各分野における男女の地位の平等

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

各分野における男女の地位の平等については、「平等」は、＜学校教育の場＞で82.2%と最も多く、次いで＜法律や制度上＞が56.3%、＜地域活動の場＞と＜職場＞がともに39.3%、＜家庭生活の場＞が34.8%となっています。

一方で、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」を合計した『男性が優遇』は、＜政治の場＞で7割台後半、＜社会通念や慣習など＞で6割台半ば、＜家庭生活の場＞でも5割を超え多くなっています。



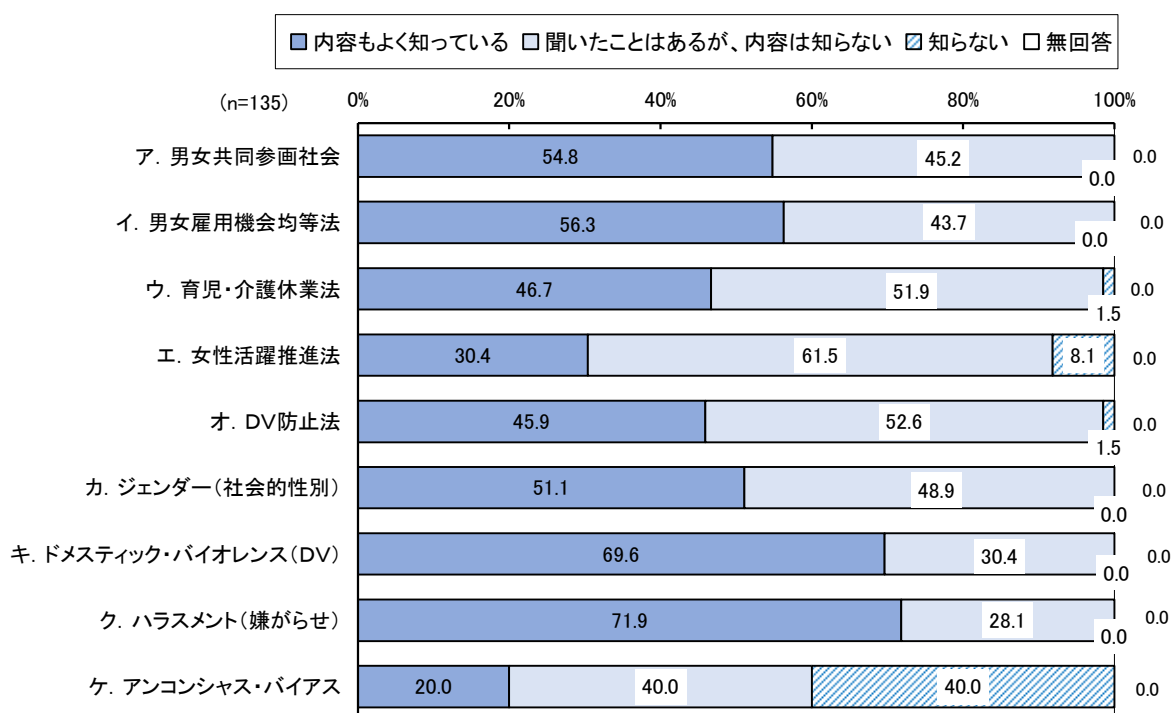
(2) 男女共同参画に関する用語等の認知度

問2 あなたは、次の言葉について、どの程度ご存知ですか。

男女共同参画に関する用語等の認知度について、「内容もよく知っている」は、＜ハラスメント＞の71.9%が最も多く、次いで＜ドメスティック・バイオレンス(DV)＞69.6%、＜男女雇用機会均等法＞56.3%、＜男女共同参画社会＞54.8%などとなっています。

「聞いたことはあるが、内容は知らない」は、＜女性活躍推進法＞61.5%、＜DV防止法＞52.6%、＜育児・介護休業法＞51.9%などで5割を超えています。

また、「知らない」は、＜アンコンシャス・バイアス＞のみ4割と多くなっています。



(3) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

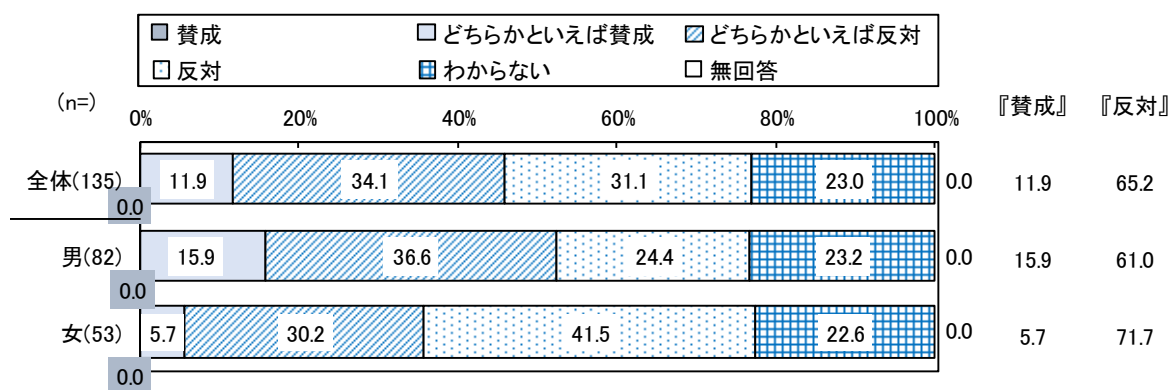
問3 「男は仕事、女は家庭」という考えをどう思いますか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「どちらかといえば反対」が34.1%で最も多く「反対」31.1%を合計した、『反対』は65.2%となっています。

一方で、「賛成」との回答はなく、「どちらかといえば賛成」が11.9%となっています。

【性別】

男女ともに『反対』が『賛成』を大きく上回ります。性別で比較すると、『賛成』は男性15.9%、女性5.7%であり、男性が女性を上回ります（10.2ポイント差）。



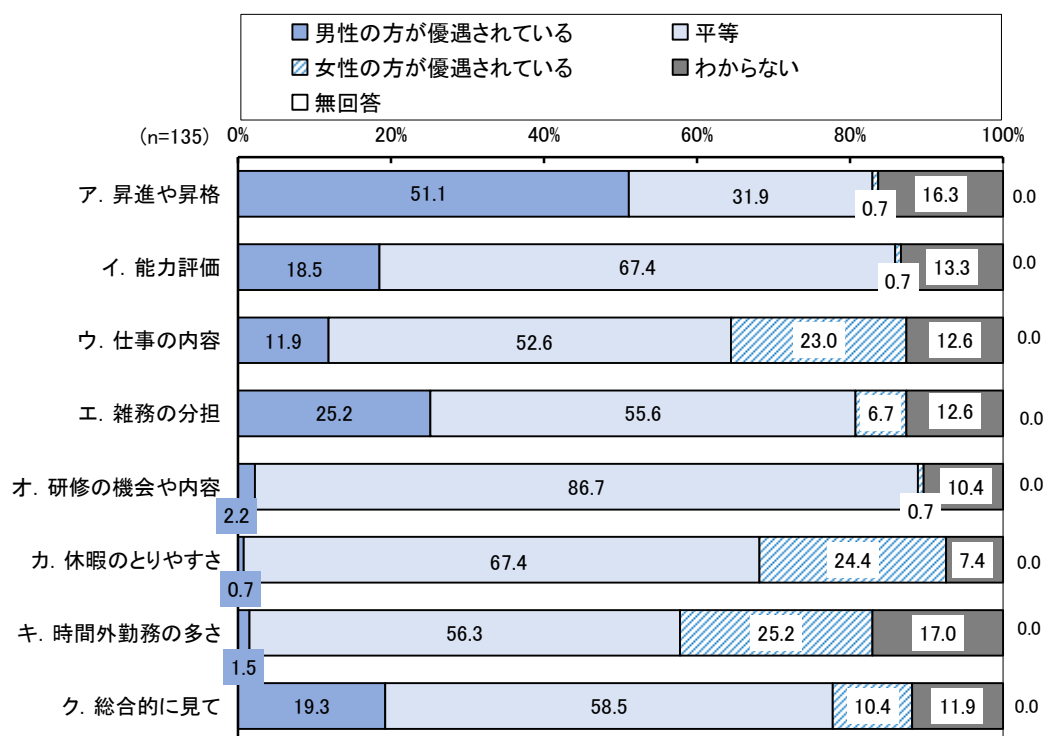
3. 役場における男女共同参画について

(1) 役場での男女の平等感

問4 あなたは、横芝光町役場において、次のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。

役場における男女の平等感について、多くの項目で「平等」との回答が5割を超えています。特に＜研修の機会や内容＞が86.7%と他の項目を大きく上回ります。また、＜能力評価＞や＜休暇のとりやすさ＞についても6割を超え多くなっています。

「男性の方が優遇されている」との回答は、＜昇進や昇格＞が51.1%と突出して多く、次いで＜雑務の分担＞、＜総合的に見て＞、＜能力評価＞が2割程度となっています。一方で、「女性の方が優遇されている」は、＜時間外勤務の多さ＞や＜休暇のとりやすさ＞、＜仕事の内容＞で2割台と他の項目を上回ります。



(2) 育児休業・介護休暇制度の利用

問5 あなたは、育児や介護を行うために、これまで育児休業・介護休暇制度を利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。

① 育児休業

「今後利用したい」が27.4%で最も多く、次いで「利用したいが、抵抗がある」が26.7%、「わからない」が23.0%、「利用したことがある」が17.0%、「利用したくない」が5.9%となっています。

【性別】

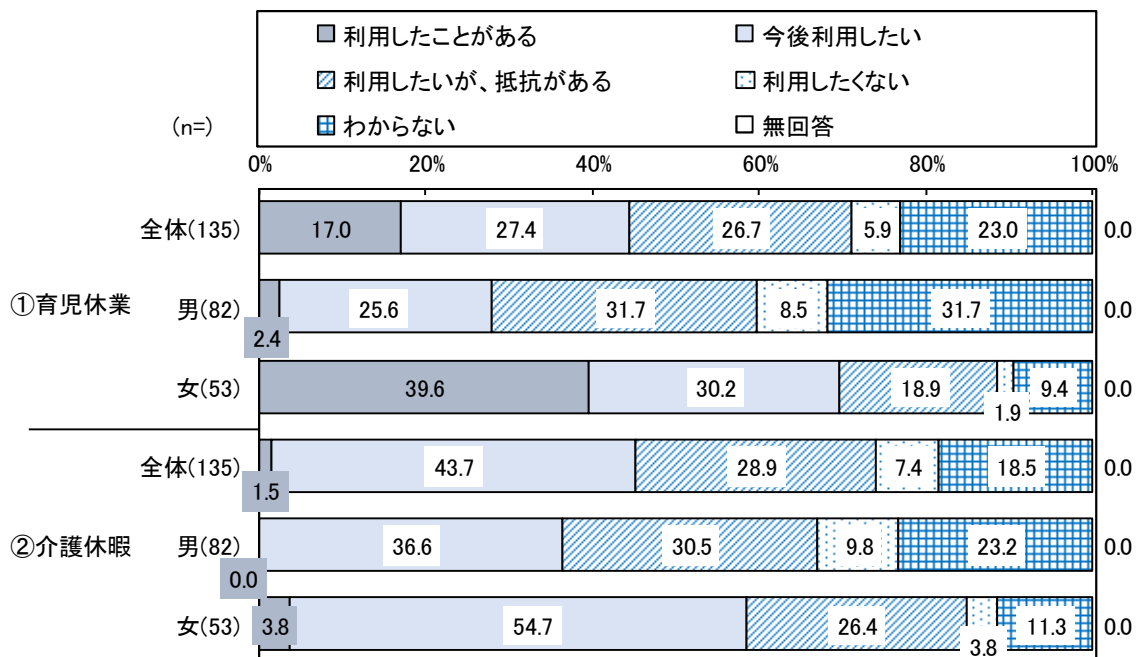
「利用したことがある」は女性が39.6%であるのに対し、男性は2.4%にとどまります。「今後利用したい」は男性25.6%、女性30.2%となっています。「利用したいが、抵抗がある」は男性が女性を上回ります（12.8ポイント差）。

② 介護休暇

「今後利用したい」が43.7%で最も多く、以下「利用したいが、抵抗がある」が28.9%、「わからない」が18.5%、「利用したくない」が7.4%であり、「利用したことがある」は1.5%にとどまります。

【性別】

「利用したことがある」は男性で0%、女性でも3.8%にとどまります。「今後利用したい」は、女性が男性を大きく上回ります（18.1ポイント差）。



(3) 男性の育児休業の取得について

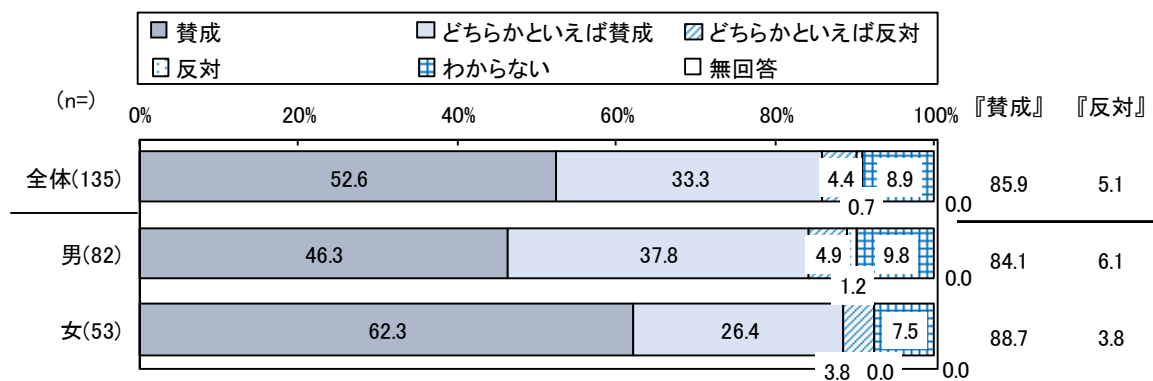
問6 あなたは、職場で男性が育休を取得することについてどう思いますか。

男性が育児休業を取得することについては、「賛成」が52.6%で最も多く、「どちらかといえば賛成」33.3%と合計した『賛成』は85.9%にのびります。

「どちらかといえば反対」4.4%と「反対」0.7%を合計した『反対』は5.1%となっています。

【性別】

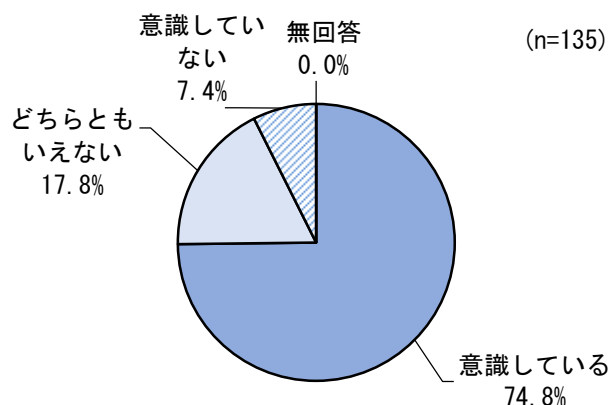
男女ともに『賛成』が『反対』を大きく上回ります。性別で比較すると、合計値の『賛成』はともに8割台ですが、女性に比べ男性で「どちらかといえば賛成」が多くなっています（11.4ポイント差）。



(4) ハラスメント等防止の意識

問7 あなたは、職場でセクシュアル・ハラスメント及びパワー・ハラスメント等の防止を意識していますか。

「意識している」が74.8%で最も多く、「どちらともいえない」が17.8%、「意識していない」が7.4%となっています。



(5) ポジティブ・アクションについて

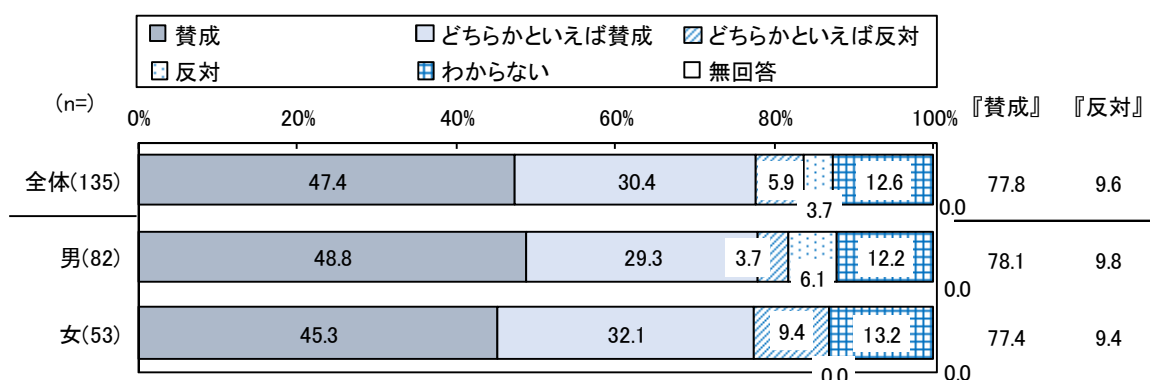
問8 女性があまり進出していない分野（たとえば、企業・行政などの管理職や審議会委員など）で、女性の登用を計画的に進めていくことなどを「ポジティブ・アクション」（積極的改善措置）といいます。このような取り組みを行うことについて、どのように思いますか。

ポジティブ・アクションのような取組を行うことについては、「賛成」が47.4%と最も多く、「どちらかといえば賛成」30.4%を合わせた、『賛成』は77.8%となっています。

これに対し、「どちらかといえば反対」5.9%、「反対」3.7%、これらを合わせた『反対』は9.6%となっています。

【性別】

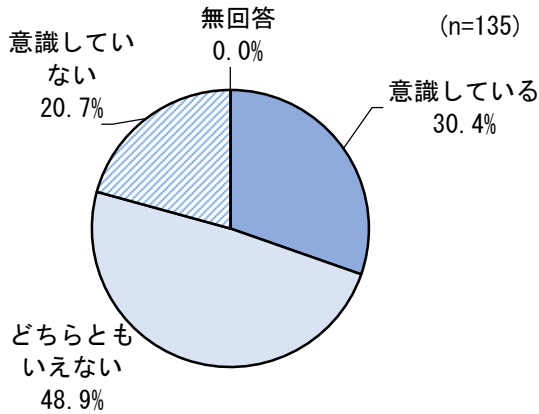
男女ともに『賛成』が『反対』を大きく上回ります。性別で比較しても大きな差は見られません。



(6) 男女共同参画を意識した町民対応・業務遂行

問9 あなたは、日頃、男女共同参画を意識しながら、町民に接したり、業務を遂行したりしていますか。

「どちらともいえない」が48.9%で最も多く、「意識している」が30.4%、「意識していない」が20.7%となっています。



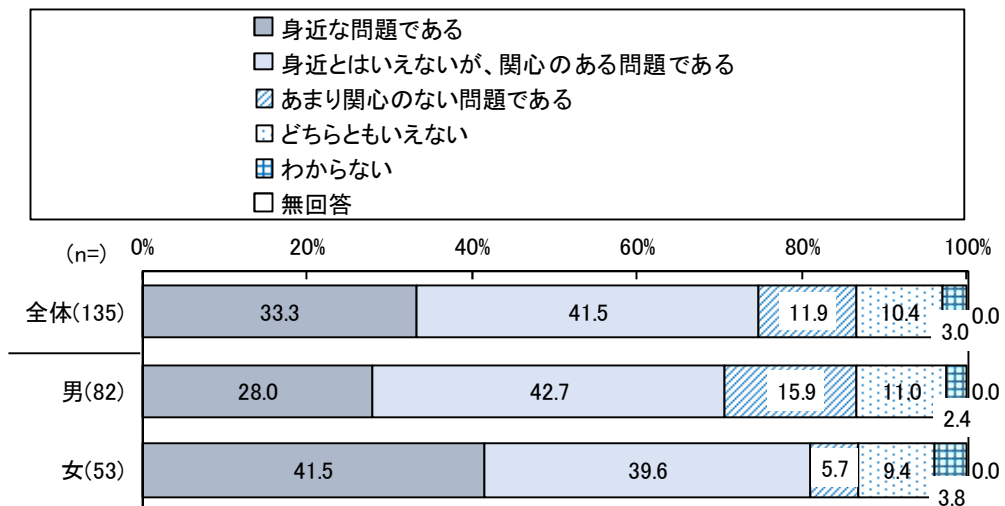
(7) 男女共同参画社会等の実現は身近な問題と思うか

問10 男女共同参画社会や、あらゆる分野での男女平等の実現は、あなたにとって身近な問題ですか。

「身近とはいえないが、関心のある問題である」が41.5%で最も多く、以下「身近な問題である」が33.3%、「あまり関心のない問題である」が11.9%、「どちらともいえない」が10.4%、「わからない」が3.0%となっています。

【性別】

女性は「身近な問題である」、男性は「身近とはいえないが、関心のある問題である」が最も多くなっています。「あまり関心のない問題である」は男性が女性を上回ります（10.2ポイント差）。



4. 自由記述

- ◆ 男女共同参画社会の実現にあたって、ご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

役場における課題（5件）

- 役場の女性管理職や女性議員の割合が目標以下で少ない。庁議に女性が特別職1, 課長職1と少なく、政策に女性の視点が普段から反映されにくい。
- 職場環境について、若年層の職員を中心に長期休暇を余儀なくされている傾向が顕著に見受けられます。これは、その職員に原因があると思われがちですが、全く無いとは言い切れませんが、職場全体の意識・体制・雰囲気(環境)に問題があると私は思います。彼らはこれまで、家庭や学校で個の個性を褒められ育ってきた世代です。彼らを待ち受けている社会は、昭和の時代を支えてきたリゲイン世代です。そこにねじれが生じていて、これを解消しないと解決にならず、職場崩壊に繋がると危機感を持つ必要があると思います。
- 男性も女性も育児休業や介護休暇制度を利用することには大いに賛成ですが、横芝光町役場では利用できる環境が整っているとは思えず、利用したくても躊躇すると思います。
- 女性の管理職等への起用を推進するあまり、昇進希望の無い人や能力の伴わない人を昇進させざるを得ないような事になってしまうのは問題がある。また、男性の育児休業に賛成であるが、その職員が担当していた業務を誰が負担するかが課題である。抜けた穴を埋めるために他の職員が無理をしている状況であると感じているので是非改善をお願いしたい。「女性にも仕事を、男性にも育児を」ではなく、「やりたいことをやれる社会」の実現が男女共同参画社会の目指すところと考えるので、ひとりひとりの意志が反映される社会になれば良いと思う。
- 現在権力や発言力のある世代こそがなんだかんだ男女平等を一番わかっていないと思う。そういう人が多い。男としてのプライドが邪魔をしていたり、男とは！みたいな考えが多い。若手の男性とその世代の男性の考え方に解離があるから、男の中にも色々いて難しい。

女性が優遇、女性の意識改革が必要（4件）

- 男女共同参画の名の下、女性が優遇されているのではないか。
- 男性だけが優遇されている訳ではない。女性が優遇されている部分もある。
- 男女平等という意識が浸透しているので、仕事も性別に関係なく経験・能力で分担だと思いますが、中には男性と同じに扱われることを望んでいない女性があり、それが男女共同参画の障壁になっている部分もあります。女性側の意識改革も必要だと思います。
- 女性もどんどん管理職になるべきだ。

環境整備が必要（3件）

- 女性が積極的に取り組める環境（家庭、仕事、社会）が作れるのであればもっと進むと思う。
- 多様性の時代だと思うので、男女よりも個性を尊重して、社会貢献や社会参加する意識の醸成が必要だと思う。
- 男女平等に働きたいと思う人ばかりでは無いと思うが、法や制度は整えておくべき。

取り組むべき内容（3件）

- 役場では女性の待遇改善を積極的に行うべきだと思う。
- 住民に分かりやすいこまめな情報提供を今後ともお願いします。また、SDGsとの関連性も視野に入れた横芝光町らしい施策展開に期待します。
- 一般企業より先に公務員が実現するとよい。

推進すべき（2件）

- 日本全体人口が減少する中、男女共同参画社会の理念は益々重要になる考え方だと思います。今後も意識していきたいと思います。
- 益々、推進すべきである。

V 調査票

1. 町民意識調査 調査票

横芝光町 男女共同参画についての意識調査

【ご協力をお願い】

町民の皆様には、日ごろから横芝光町の行政運営に多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。

横芝光町は、平成30年度に「第2次横芝光町男女共同参画計画」を策定し、男女が互いに尊重しあい、だれもが暮らしやすい地域社会を実現するため、様々な取り組みを進めています。

この意識調査は、町民の皆様の男女共同参画に関するお考えやご意見をうかがい、基本計画に掲げた目標の達成状況を確認し、今後の計画づくりに活用するために実施するもので、町内にお住まいの16歳以上の町民の皆様の中から2,000人をコンピューター処理により無作為に選び、ご協力をお願いしているものです。

無記名でご回答頂き、その回答結果は統計的に処理するとともに、この調査の目的以外に利用することはありません。お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解の上、是非ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和4年10月 横芝光町長 佐藤晴彦

【ご記入にあたって】

1. この調査票は、封筒の宛名のご本人がご記入ください。
2. ご回答は、この調査票に直接ボールペン等でご記入ください。
3. 各設問の回答数（1つ、それぞれについて1つ、3つまで など）に注意して、回答項目の番号に○印をつけてください。
4. 「その他」を選んだ場合は、できるだけ具体的にその内容をお書きください。

ご記入いただいた調査票は、令和4年10月31日（月）までに、
同封の返信用封筒（切手不要）でご返送ください。

本調査に関するお問い合わせ先
横芝光町 企画空港課 企画政策班
電話:0479-84-1279

1 男女の平等感についてお聞きします

【問1】 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア～キのそれぞれについて「1～6」の中から○は1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
ア. 家庭生活の場	1	2	3	4	5	6
イ. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
ウ. 職場	1	2	3	4	5	6
エ. 政治の場	1	2	3	4	5	6
オ. 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
カ. 社会通念や慣習など	1	2	3	4	5	6
キ. 法律や制度上	1	2	3	4	5	6

【問2】 あなたは、次の言葉について、どの程度ご存知ですか。(ア～クのそれぞれについて「1～3」の中から○は1つ)

	内容もよく知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
ア. 男女共同参画社会	1	2	3
イ. 男女雇用機会均等法	1	2	3
ウ. 育児・介護休業法	1	2	3
エ. 女性活躍推進法	1	2	3
オ. DV防止法	1	2	3
カ. ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
キ. ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3
ク. ハラスメント（嫌がらせ） ・セクシュアル・ハラスメント：性的嫌がらせ ・パワー・ハラスメント：職権などのパワーを背景にし、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える、または職場環境を悪化させること ・モラル・ハラスメント：言動や態度などによって相手に精神的苦痛を与えること ・マタニティ・ハラスメント：妊娠・出産・育児に関して嫌がらせなどをし、就業環境を害すること	1	2	3

2 家庭生活についてお聞きします

[現在、結婚(事実婚を含む)している方にお聞きします]

【問3】 あなたは日頃、次のア～シの各項目をどの程度行っていますか。(ア～シのそれぞれについて「1～4または5」の中から○は1つ)

		自分が中心になって している	自分が中心ではないが、 頻繁に行っている	すくなくとも、 頻りにある	めったにしない	あてはまらない
家庭	ア. 食事のしたくや片付け	1	2	3	4	
	イ. 食料品や日用品の買い物	1	2	3	4	
	ウ. 洗濯	1	2	3	4	
	エ. 部屋の掃除	1	2	3	4	
	オ. 日常の金銭の管理	1	2	3	4	
	カ. 貯蓄やローンの管理	1	2	3	4	
育児・介護	キ. 小さい子どもの身の回りの世話 (食事、着替え、トイレなど)	1	2	3	4	5
	ク. 保育園・幼稚園の送り迎え	1	2	3	4	5
	ケ. 授業参観や学校行事への出席	1	2	3	4	5
	コ. PTA等の役員会への出席	1	2	3	4	5
	サ. 介護が必要な家族の身の回りの 世話(食事、着替え、トイレなど)	1	2	3	4	5
	シ. 介護が必要な家族の付き添い (通院や散歩、買い物など)	1	2	3	4	5

3 地域活動についてお聞きします

【問4】あなたは日頃、町内会やボランティアなどに参加し、地域でのコミュニティ活動を行っていますか。(ア～コのそれぞれについて「1～4」の中から○は1つ)

	積極的に参加している	たまに参加している	現在、参加していないが、今後、参加したい	参加していないし、今後も参加するつもりもない
ア. 町内会・自治会活動	1	2	3	4
イ. 清掃奉仕や福祉ボランティア活動	1	2	3	4
ウ. 子ども会・老人クラブなどの地域活動	1	2	3	4
エ. 音楽・読書などの趣味の活動	1	2	3	4
オ. スポーツ・レクリエーションなどの活動	1	2	3	4
カ. 祭や大会など地域の行事	1	2	3	4
キ. リサイクル・環境保護、まちづくりなどの活動	1	2	3	4
ク. 防災・防犯などの地域活動	1	2	3	4
ケ. 国際交流・国際理解などの地域活動	1	2	3	4
コ. その他()	1	2	3	4

【問5】今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 男性が家事などに参加することに対して男性の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対して女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること
4. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと
8. 講習会や研修等を行い、男性の家事、育児、介護の技能を高めること
9. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間づくりをすすめること
10. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
11. その他()
12. とくにない

4 職場についてお聞きします

〔現在、働いている方にお聞きします〕

【問6】 ①あなたの職場では、次のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。(ア～キのそれぞれについて「1～4」の中から○は1つ)

	男性の方が 優遇されて いる	平等	女性の方が 優遇されて いる	わからない
ア. 採用時の条件	1	2	3	4
イ. 賃金	1	2	3	4
ウ. 昇進や昇格	1	2	3	4
エ. 能力評価	1	2	3	4
オ. 仕事の内容	1	2	3	4
カ. 研修の機会や内容	1	2	3	4
キ. 育児休業、介護休業の制度	1	2	3	4

②あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。(ア～ウのそれぞれについて「1～6」の中から○は1つ)

	取りやすい	どちらかといえは取りやすい	どちらかといえは取りにくい	取りにくい	制度がない	わからない
ア. 有給休暇	1	2	3	4	5	6
イ. 育児休業	1	2	3	4	5	6
ウ. 介護休業	1	2	3	4	5	6

③あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(1つに○)

取りたい	どちらかといえは取りたい	どちらかといえは取りたくない	取りたくない	制度がない	わからない
1	2	3	4	5	6

④あなたは、職場でセクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメント等の防止を意識していますか。

1. 意識している	2. どちらともいえない	3. 意識していない
-----------	--------------	------------

5 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)についてお聞きします

【問7】「男は仕事、女は家庭」という考えをどう思いますか。(○は1つ)

賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
1	2	3	4	5

【問8】男女がともに仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 年間の労働時間を短縮する
2. 育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる
3. 育児や介護のために退職した人を再雇用する
4. 育児休業・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する
5. 乳幼児や学童の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する
6. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する
7. 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある
8. パートタイマーなど正社員でない人の労働条件を改善する
9. その他 ()
10. とくにない
11. わからない

6 ドメスティック・バイオレンス(DV)についてお聞きします

【問9】家庭内・家族間で起こる暴力、とりわけ配偶者やパートナー(夫・妻・恋人など)からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)が問題になっています。あなたは、次の1～10のような行為が配偶者やパートナー間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. けがをする危険のある物を投げつけたり、物でなぐる
2. 手でなぐったり、けったり、突き飛ばしたりする
3. 何を言っても長期間にわたって無視し続ける
4. 何度も「誰のおかげで生活できるんだ」「ばか」などと言う
5. 何度も大声でどなったり、命令したりする
6. あなたや家族に危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫をする
7. 実家や友人とのつきあいを監視し、外出を制限・禁止する
8. 必要な生活費を渡さなかったり、自由にお金を使えないように監視する
9. 避妊に協力しなかったり、中絶を強要する
10. いやがっているのに性的な行為を強要する

7 女性の活躍推進についてお聞きします

【問11】 女性があまり進出していない分野(たとえば、企業・行政などの管理職や審議会委員など)で、女性の登用を計画的に進めていくことなどを「ポジティブ・アクション」(積極的改善措置)といいます。このような取り組みを行うことについてどのように思いますか。(〇は1つ)

賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
1	2	3	4	5

【問12】 あなたは、女性が政策・方針を決定する場に進出するために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 行政の重要な課題を検討する審議会などに女性委員を増やす
2. 行政・企業の管理職に女性を増やす
3. 自治会など地域団体の長や役員に女性を増やす
4. 家事や子育てなど家庭内での責任を男女がバランスよく分かち合う
5. 女性が学習・研修・能力開発をする機会を充実させる
6. 女性の活動を支援する団体に情報提供したり、活動を支援する
7. 女性自身が政策・方針決定の場に参画することへの関心を高める
8. 子どもの頃から男女共同参画について理解するような機会を増やす
9. (男性も女性も)働きやすい環境に向けた取組の支援を充実させる
10. 女性が政策・方針決定の場に参画することに対する男性の意識啓発を行う
11. その他 ()
12. とくにない
13. わからない

8 少子・高齢化についてお聞きします

【問13】横芝光町において、出生率が低くなった主な原因として何が考えられると思いますか。(〇は3つまで)

1. 出産・子育ては経済的に負担が大きいから
2. 女性が子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(保育・勤務時間・休暇制度等)が整っていない
3. 男性が子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み(保育・勤務時間・休暇制度等)が整っていない
4. 結婚年齢が高くなったから
5. 子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから
6. 子どもは少なく生んで、十分に手をかけて育てる人が増えたから
7. 出産・子育てに対する夫の理解・協力が足りず妻の精神的・肉体的負担が大きいから
8. 住宅や公園など、子育てに望ましい住環境が整備されていないから
9. 様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増えたから
10. 地域での付き合いが減り、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから
11. わからない
12. その他 ()

〈参考〉横芝光町と千葉県の合計特殊出生率

合計特殊出生率	令和2年 (2020年)	平成27年 (2015年)	平成22年 (2010年)
横芝光町	1.15	1.28	1.37
千葉県	1.25	1.35	1.34

【問14】あなたはご自分の老後について、不安に思うことはありますか。(〇は3つまで)

1. 働きたくても仕事がない
2. 配偶者(パートナー)に先立たれること
3. 子どもが世話をしてくれるかわからないこと
4. 適当な話し相手がいらないこと
5. 介護してくれる人がいるかわからないこと
6. 生活費のこと
7. 健康のこと
8. 住居のこと
9. その他 ()
10. とくにない
11. わからない



9 男女共同参画社会実現のために必要なことについてお聞きします

【問15】 あなたはこれまで、「男なのに(だから)」「女なのに(だから)」であるとか、「長男なのに」「長女なのに」「嫁なのに(外に嫁に行くのに)」など、性別に関わることを周囲に言われたために、自分のしたかったことを諦めたり、精神的な負担を感じたりしたことはありますか。それはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 希望する学校への進学
2. 希望する職業や会社への就労・就職
3. 自分で選んだ仕事を続けること
4. 住宅ローンや銀行融資を受けること
5. 結婚や恋愛
6. 子どもを持つことや子どもの数、性別
7. 自分のしたいファッションや趣味、レジャー
8. その他 ()
9. とくにない
10. わからない

【問16】 あなたは、次のような町の取組に、現在どの程度満足していますか。(ア～キのそれぞれについて「1～5」の中から○は1つ)

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
※ () 内は主な取り組みです。					
ア. 男女共同参画 (男女平等、女性が活躍できる環境づくり、ワーク・ライフ・バランスの意識啓発)	1	2	3	4	5
イ. 子育て支援 (給食費無償化、子ども医療費助成、放課後児童クラブ、子育て相談体制)	1	2	3	4	5
ウ. 高齢者支援 (地域包括支援センター、介護予防、認知症総合支援)	1	2	3	4	5
エ. 障がい者支援 (地域生活支援、療育支援、就労支援)	1	2	3	4	5
オ. 保険・医療 (健康診査・各種検診、医療体制)	1	2	3	4	5
カ. 生涯学習 (図書館の充実、生涯学習講座等の開催、家庭教育学級の実施)	1	2	3	4	5
キ. 人権 (人権に対する意識の啓発、人権相談の充実)	1	2	3	4	5

【問17】男女共同参画社会や、あらゆる分野での男女平等の実現は、あなたにとって身近な問題ですか。
(〇は1つ)

1. 身近な問題である
2. 身近とはいえないが、関心のある問題である
3. あまり関心のない問題である
4. どちらともいえない
5. わからない

【問18】男女共同参画社会の実現のために、行政はどのようなことに取り組むべきだと思いますか。
(あてはまるものすべてに〇)

1. 法律や制度、社会慣行を男女共同参画の視点から見直すこと
2. 企業や各種団体の幹部などへの女性の登用を促すこと
3. 女性の働く場を増やしたり、能力開発を行うなど、女性の就労を支援すること
4. 男性の家事・育児に関わる技能や知識を向上したり、地域活動への参加を促進すること
5. 仕事と子育てを両立しやすくするための保育サービスを充実させること
6. 育児・介護休業が男女ともにとりやすく、男女が平等に働ける職場環境づくりを促すこと
7. 介護サービスの充実など、老後の生活の安定を支援すること
8. 男女共同参画についての学校や公民館等での学習を充実すること
9. 男女の差別や権利侵害、暴力などについての相談窓口を充実すること
10. 町役場の管理職に女性を登用したり、女性職員を増やすこと
11. 町の重要な課題を検討する審議会や、町民の意見を聞く住民懇談会等への女性の参加を増やすこと
12. 男女共同参画についての町職員の意識を高めること
13. 男女がともに参画する地域活動、ボランティア活動の機会充実をはかること
14. 男女共同参画の視点を取り入れた防災対策を推進させること
15. 女性の心身の健康づくりの推進をはかること
16. その他 ()
17. とくにない
18. わからない

10 最後に、「あなたご自身のこと」についてお聞きします

ア. お住いの地区	1. 大総 2. 横芝 3. 上堺 4. 日吉 5. 南条 6. 東陽 7. 白浜
イ. 性別	1. 男 2. 女
ウ. 年齢（満年齢）	1. 16～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
エ. あなたを含む家族構成	1. 単身 2. 夫婦のみ 3. 親と子 4. 祖父母と親と子（三世代） 5. その他
オ. 職業	1. 農林漁業 2. 商工業 3. 自営業 4. 会社員 5. 公務員・団体職員 6. 家事専業 7. パート・アルバイト・派遣など 8. 学生 9. 無職 10. その他（ ）

男女共同参画社会の実現にあたって、ご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

以上で質問は終わりです。お忙しいところご協力頂き、誠にありがとうございました。



2. 町内企業実態調査 調査票

町内企業における 女性の活躍と外国人材の受入れの 実態調査

【ご協力をお願い】

貴事業所におかれましては、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、少子高齢・人口減少社会を迎えるなか、労働市場や企業等においては多様な人材の活躍の促進が期待されており、女性の活躍や外国人材の受入れは、企業の経営戦略としても非常に重要な課題となっているところです。

そこで、横芝光町では、町内事業所等における多様な人材の活躍の実態や意識を把握し、能力を発揮できるような環境づくりに活用することなどを目的として、事業所等を対象とした実態調査を実施することといたしました。

調査結果につきましては、統計的処理等を行い、町内事業所等における多様な人材の活躍実態の資料として活用する予定です。業務多忙のところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和4年7月

横 芝 光 町

【ご記入にあたって】

- ・本店、支店など、複数の事業所がある企業の方は、企業全体ではなく、貴事業所のことでお答えください。
- ・設問に従い、人数を記載するか、選択肢の番号を○で囲み、「その他（）」には具体的内容を記入してください。
- ・令和4年4月1日現在でご回答ください。
- ・ご不明な点がございましたら、下記の問い合わせ先までご連絡をお願いします。

ご記入いただいた調査票は、令和4年8月8日（月）までに、
同封の返信用封筒でご返送ください。

※貴事業所が特定される形で公表することはありません。

令和4年4月1日現在の事業所の状況について伺います。

貴事業所について

【問1】 貴事業所の状況について伺います。(業種は1つに○、人数は数字を記入)

業種		1. 農林漁業 2. 建設業 3. 製造業 4. 運輸業 5. 卸売業 6. 小売業 7. 宿泊業・観光業 8. 飲食サービス業 9. 電気・ガス・熱供給・水道業 10. 情報通信業 11. 教育・学習支援業 12. 金融業・保険業・不動産業 13. 医療・福祉 14. 生活関連サービス業 15. その他			
		総数	うち男性	うち女性	うち外国人
従業員数		人	人	人	人
内訳	正規社員	人	人	人	人
	非正規社員	人	人	人	人
	管理職	人	人	人	人

【問2】 貴事業所では女性管理職の登用について、どのようにお考えですか。(1つに○)

1. 積極的に女性の登用率を上げていきたい
2. 性別にかかわらずふさわしい人材を登用する
3. できるだけ女性の登用は避けたい

【問3】 女性の活躍推進のために取り組んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 企業内の推進体制の整備
2. 管理職への積極的な登用
3. 女性従業員への教育や研修機会の拡充
4. 女性の採用(新規・中途)を増やす取組
5. 働きやすい職場環境の整備・改善
6. 時短勤務・テレワークなどの勤務形態の多様化
7. キャリアパスの多様化(正社員への登用等)
8. 育児休業復帰支援(復職支援)
9. モデルとなる女性従業員の育成・提示・周知
10. 公正・透明な人事管理制度、評価制度の構築
11. 出産・育児をサポートする福利厚生制度の充実
12. 男性に対する女性の活躍の必要性についての理解促進
13. その他()
14. 特になし ⇒【問5】へ

具体的な例がございましたら、ぜひご記入ください。

【問4】 問3で「1」～「13」に○をつけられた方に伺います。貴事業所において「女性の活躍推進」を進めることにより、どのようなメリットがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 職場の雰囲気よくなって活気が出た
2. 女性の就業年数が延びた
3. 女性のチャレンジ意欲が向上した
4. 女性の責任感が向上した
5. 女性の活躍が会社の利益に貢献した
6. 外部の評価・企業のイメージが向上した
7. 就職希望者が増加した
8. 退職者が減少した
9. その他()
10. 特になし

【問5】 貴事業所では育児休業制度を導入していますか。(1つに○)

	正規社員のみ	正規・非正規社員 どちらとも	
1. 導入している			⇒【問6】へ
2. 導入予定がある			⇒【問7】へ
3. 導入予定がない			

【問6】 過去3年間の育児休業を取得した従業員数についてお答えください。

	出産した女性従業員	配偶者が出産した男性従業員
全体数	人	人
うち、育児休業を取得、 または取得申請を出している人数	人	人

【問7】 過去3年間に、女性従業員のうち、出産・育児を理由に退職した方はいらっしゃいますか。(あてはまるものに○)いらっしゃる場合は、その人数をご記入ください。

	出産	育児
1. いない		
2. いる		
	人数	人
	うち非正規社員	人

【問8】 男性従業員の育児休業について、貴事業所ではどのように考えていますか。(1つに○)

1. 取得できる体制を整えており、特段問題はない
2. 取得しやすい支援体制を整えたい
3. 出産・育児は本人の問題なので、特に支援は考えていない
4. 育児休業取得を希望した男性従業員がいないためわからない

【問9】 貴事業所で、次の項目の中で取り組まれているものはありますか。(あてはまるものに○)

1. 短時間勤務制度	2. 所定外労働の免除
3. フレックスタイム制度	4. 在宅勤務
5. 就業形態の変更	6. 産前・産後休暇制度
7. 子どもの看護休暇	8. 育児休業中の手当支給等の経済的支援
9. 再雇用制度(育児により退職した従業員を再雇用)	
10. その他()	
11. 特になし	

具体的な例がございましたら、ぜひご記入ください。

【問10】 今後、女性の活躍推進やワークライフバランス促進を図るために、横芝光町にどのような取組を期待していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 女性の活躍やワーク・ライフ・バランス促進についての学習機会を充実させる
2. 女性の活躍やワーク・ライフ・バランス促進に取り組む企業の表彰及びPRをする
3. 子育て環境(保育サービス等)を充実させる
4. 男性の家事・育児への参画を促進する
5. 働く女性同士や子育て世代の男性に対しての交流の場を提供する
6. 子育てなどでいったん仕事を辞めた人への再就職支援を行う
7. 町が率先して、女性の活躍推進に取り組む
8. その他()
9. 特になし

具体的な内容を、ぜひご記入ください。

外国人材について

【問11】 貴事業所では外国人の雇用について、どのように考えていますか。(1つに○)

1.すでに雇用していて、積極的に雇用していきたい 2.すでに雇用していて、当面は現状維持の予定 3.今後雇用を考えたい ⇒【問13】へ 4.雇用した経験があるが離職し、今後の雇用は考えていない 5.今後とも雇用は考えていない	} ⇒【問12】へ } ⇒【問15】へ
--	------------------------

【問12】 貴事業所で雇用している外国人と外国人に対しての支援制度について伺います。(あてはまるものすべてに○)

国籍	1. ベトナム 2. タイ 3. スリランカ 4. フィリピン 5. 中国 6. 韓国 7. 台湾 8. その他()
在留資格	1. 技能実習 2. 特定技能 3. 留学 4. 家族滞在 5. 技術・人文知識・国際業務 6. 身分に基づく在留資格(永住者や日本人の配偶者など) 7. その他()
外国人に対する支援	1. 雇用責任者の選任 2. 業務規則等の社内規定の多言語化 3. 相談体制の整備 4. 一時帰国のための休暇制度 5. 社内マニュアル・標識類等の多言語化 6. 社宅等の住宅の確保 7. 口座開設などの生活の補助 8. 日本語学習支援 9. 日本文化の交流会など 10. その他() 11. 特になし

【問13】 外国人を雇用する上での課題について伺います。(あてはまるものすべてに○)

1. 採用時に翻訳・通訳支援が必要 3. 効果的な採用手法が分からない 5. 日本語教育や受入環境整備に不安がある 6. 在留資格や手続きに関する正確な情報が分からない 8. その他() 9. 特になし	2. 在留資格が合わない 4. 外国人雇用に関する相談先が分からない 7. 外国人雇用に関する基礎的な知識・ノウハウがない
---	---

【問14】 今後、外国人材の受入れを図るために、横芝光町にどのような取組を期待していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 外国人従業員への日本語学習支援
2. 経営者や日本人従業員向けにセミナーなどを開催する
3. 外国人材の受入れを推進するアドバイザーなどを企業に派遣する
4. 外国人相談窓口の設置
5. 災害時の外国人支援体制の整備
6. 町民に向けての国際理解の促進
7. 外国人の就職支援を行う
8. その他()
9. 特になし

具体的な内容を、ぜひご記入ください。

質問は終了です。次のページにお進みください。

【問15】 外国人を雇用しない理由について伺います。(あてはまるものすべてに○)

1. 日本人の雇用を優先したい
2. コミュニケーションが不安なため
3. 受入れに手間・コストがかかる
4. 雇用に必要な手続きや制度が分からない
5. 事業の性質上、雇用が難しい
6. どうすれば外国人材と出会えるか分からない
7. 今まで雇用を考えたことがなかった
8. その他()

【任意回答事項】

今後の資料作成や取組等の参考にさせていただくため、差し支えなければ、貴事業所についてご記入をお願いします。

事業所名	
所在地	
電話番号	
ご担当者名	

この調査の結果、女性の活躍推進やワーク・ライフ・バランス促進に積極的な事業所については、「男女共同参画推進賛同事業所」として、町の公式ホームページでご紹介(PR)をしたいと考えています。貴事業所が対象となっても差し支えない場合は、右欄にチェックをお願いします。

チェック


ご協力ありがとうございました

3. 職員意識調査 入力フォーム

※職員意識調査はインターネット回答により実施

横芝光町 男女共同参画についての職員意識調査

この調査は、町職員の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の計画づくりに活用するために実施するものです。調査は無記名で、回答結果は統計的に処理され、個人の意見が公表されることはありませんので、ご協力をお願いします。

共有なし 

* 必須の質問です

あなたご自身のことについておたずねします。

性別 *

男

女

年齢 *

10～20代

30代

40代

50代以上

職階 *

班長以上

前記以外の職員

結婚*

- 現在している（事実婚を含む）
- 現在はしていないが、過去にしていたことがある
- していない

家庭（※結婚している方のみ回答）

- 共働きである
- 共働きでない

男女の平等感についてお聞きします

【問1】あなたは、現在の社会において、次の分野で男女の地位は平等になって*いると思いますか。

	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらかと いえば、男 性の方が優 遇されている	平等	どちらかと いえば、女 性の方が優 遇されている	女性の方が 非常に優遇 されている	わからない
家庭生活	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学校教育	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
職場	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
政治	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
地域活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
社会通念や 慣習など	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
法律や制度 上	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問2】あなたは、次の言葉について、どの程度ご存知ですか。*

	内容もよく知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
男女共同参画社会	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
男女雇用機会均等法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
育児・介護休業法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
女性活躍推進法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
DV防止法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ジェンダー（社会的性別）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ドメスティック・バイオレンス（DV）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ハラスメント	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み、決めつけ）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問3】「男は仕事、女は家庭」という考えをどう思いますか。

- 賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- 反対
- わからない

職場についてお聞きします

【問4】あなたは、横芝光町役場において、次のことがらについて、男女平等に*なっていると思いますか。

	男性の方が優遇 されている	平等	女性の方が優遇 されている	わからない
昇進や昇格	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
能力評価	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
仕事の内容	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
雑務の分担	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
研修の機会や内容	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
休暇のとりやすさ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
時間外勤務の多さ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
総合的に見て	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問5】あなたは、育児や介護を行うために、これまで育児休業・介護休暇制度*を利用したことがありますか。また、今後利用したいと思いますか。

	利用したこと がある	今後利用した い	利用したい が、抵抗があ る	利用したくな い	わからない
育児休業制度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
介護休暇制度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問6】あなたは、職場で男性が育休を取得することについてどう思いますか。*

- 賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- 反対
- わからない

【問7】あなたは、職場でセクシュアル・ハラスメント及びパワー・ハラスメント等の防止を意識していますか。

- 意識している
- どちらともいえない
- 意識していない

男女共同参画社会実現のために必要なことについてお聞きします

【問8】女性があまり進出していない分野（たとえば、企業・行政などの管理職*や審議会委員など）で、女性の登用を計画的に進めていくことなどを「ポジティブ・アクション」（積極的改善措置）といいます。このような取り組みを行うことについて、どのように思いますか。

- 賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- 反対
- わからない

【問9】あなたは、日頃、男女共同参画を意識しながら、町民に接したり、業務*を遂行したりしていますか。

- 意識している
- どちらともいえない
- 意識していない

【問10】男女共同参画社会や、あらゆる分野での男女平等の実現は、あなたにと*って身近な問題ですか。

- 身近な問題である
- 身近とはいえないが、関心のある問題である
- あまり関心のない問題である
- どちらともいえない
- わからない

男女共同参画社会の実現にあたって、ご意見・ご感想がありましたら、ご自由にお書きください。

回答を入力

以上で質問は終わりです。お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

送信

フォームをクリア

**横芝光町男女共同参画に関する
アンケート調査報告書**

発行日：令和5年8月

編集・発行：横芝光町 企画空港課

〒289-1793 横芝光町宮川 11902 番地

TEL 0479-84-1279